

次世代育成支援東京都行動計画（後期）の評価に係る調査報告書

平成 23 年 3 月
実施主体 : TOKYO PLAY

次世代育成支援東京都行動計画（後期）の評価に係る調査報告書

第1章 調査の概要

1.1 次世代育成支援対策推進法について

日本ではこれまで少子化対策として、「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」（エンゼルプラン）、「当面の緊急保育対策等を推進するための基本的考え方」（緊急保育対策等5か年事業）、「少子化対策推進基本方針」（平成11年12月少子化対策推進関係閣僚会議決定）、「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について」（新エンゼルプラン）、「仕事と子育ての両立支援策の方針について」（平成13年7月6日閣議決定）と、両立支援を中心とした施策を進めてきた。しかし、急速な少子化傾向は改善されることはなかったため、従来の両立支援を中心とした取組に加え、もう一段の対策を推進することが必要と、「男性を含めた働き方の見直し」、「地域における子育て支援」、「社会保障における次世代支援」、「子どもの社会性の向上や自立の促進」を柱とした対策が決定し、平成17年から10年間の時限立法として「次世代育成支援対策推進法」が制定された。

この「次世代育成支援対策推進法」では、国や地方自治体などに対して、国が定める「行動計画策定指針」に即して、次世代育成支援対策に関する目標や目標達成のために講じる対策・時期などを設定した行動計画を策定することを義務付けている。5年を1期とし、平成17-21年の前期行動計画、5年後に計画を見直し、22-26年の後期行動計画を策定することになっている。その「行動計画策定指針」では、策定のための基本的視点として①子どもの視点、②次代の親づくりという視点、③サービス利用者の視点、④社会全体による支援の視点、⑤すべての子どもと家庭への支援の視点、⑥地域における社会資源の効果的な活用の視点、⑦サービスの質の視点、⑧地域特性の視点が示されている。また、それらの視点に基づきサービスの量的・質的なニーズを把握するため、サービス対象者に対するニーズ調査を実施することとしている。

1.2 東京都の次世代育成支援行動計画について

東京都では、平成17年4月に「次世代育成支援東京都行動計画（前期計画）」（対象期間：平成17～21年度）を策定し、子供と家庭の健やかな暮らしのために様々な施策を展開してきた。その成果やこの5年間の社会情勢の変化なども踏まえ、平成22年度から26年度までを対象期間とする「次世代育成支援東京都行動計画（後期計画）」を策定した。

この後期行動計画では、「地域で安心して子育てができる新たな仕組みづくり」、「仕事と家庭生活との両立の実現」、「次代を担う子供達がたくましく成長し自立する基盤づくり」、「特別な支援を必要とする子供や家庭の自立を促進する基盤づくり」、「子供の安全と安心を確保し、子育てを支援する環境づくり」の5つの目標を実現するために、以下の13の重点的取り組みを展開することとしている。

- ① 子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実
- ② 小児・母子医療体制の充実
- ③ 家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進
- ④ 待機児童対策・保育サービスの拡充
- ⑤ 多様化するニーズに応じた保育サービスの提供
- ⑥ 保育サービスの質の向上
- ⑦ 子供の生きる力をはぐくむ環境の整備
- ⑧ 若者の社会的自立の促進
- ⑨ 児童虐待防止対策の推進
- ⑩ 社会的養護を必要とする子供への取組
- ⑪ ひとり親家庭の自立支援の推進
- ⑫ 子供を有害な情報・環境から守る取組の推進
- ⑬ 安全・安心の子育て支援の基盤整備

1.3 調査の目的

東京都の行動計画策定にあたって、「行動計画策定指針」に基づき、ニーズ調査を実施して策定を進めてきたが、現在進行しているこの「後期行動計画」の成果を評価するためには、都民の意識調査や客観的なデータに基づく評価指標を参考にすることが望ましいと考えられ

る。そして、これらの評価指標を設定するに当たり、東京都次世代育成支援行動計画懇談会において、子供自身に対してもヒアリング調査等を実施するべきであるとの意見が出されている。

そこで、今回の調査では、東京都の次世代育成支援後期行動計画を評価するために子供自身など支援の当事者の声を反映できるような客観的な評価基準を作成することを目指し、①子供および乳幼児を持つ保護者への調査を実施すること、②子供自身の声を施策に生かすことの意義について検証することで、その結果を後期行動計画の進行管理に活用することを目的とする。

1.4 調査の実施主体

今回の調査は、子供および乳幼児を持つ保護者から次世代育成支援の行動計画について、率直な声をあげてもらおうことが中心となる。そのために、調査主体には子供および乳幼児を持つ保護者が安心してヒアリングに参加できるように、当事者の気持ちに寄り添うことが求められる。

今回の調査の実施主体である TOKYO PLAY は、「すべての子どもが豊かに遊べる東京を」をミッションに、さまざまな遊びの現場で活動する実践者や研究者で構成しており、日常から子供の声を聴くということを大切にしている団体である。子供の調査では TOKYO PLAY の持つネットワークを活用して実施した。また、乳幼児の保護者への調査については、ひろば型の子育て支援拠点事業のノウハウを持つ NPO 法人せたがや子育てネットの協力を得て実施した。

1.5 専門委員会の設置

東京都後期行動計画を評価するための客観的なデータに基づく評価指標を策定するために、社会福祉、児童福祉、保育など幅広い分野の有識者による専門委員会を設置し、指標やヒアリングなどの方法論などについての検討を行った。専門委員会委員は下記の通り。

◎柏女 霊峰氏（淑徳大学社会総合福祉学部教授）

森田 明美氏（東洋大学社会福祉学部教授）

岡 健氏（大妻女子大学家政学部児童学科准教授）

安部 芳絵氏（早稲田大学非常勤講師）

西野 博之氏（川崎市子ども夢パーク所長）

荒田 直輝氏（プレイソーシャルワーカー、東洋大学）

◎印は委員長

専門委員会での検討事項は以下の通りである。

第1回	調査の全体構成、ヒアリングの方法論、項目などの検討
第2回	ヒアリング方法についてk検討と決定 ヒアリング対象団体などの検討
第3回	調査の一部結果についての報告、報告書の構成などについての指針を決定
第4回	結果分析の再検討 調査全体の考察の検討
第5回	調査報告書の最終検討

1.6 ファシリテーターの属性およびトレーニング

今回の調査では、子供や乳幼児の保護者へのグループヒアリングを行ったが、そのファシリテーターについては、プレーパークや児童館、子育てひろばなどでの現場経験がある者が務めた。更に、専門委員の安部委員を講師として、ヒアリングの環境づくり、ファシリテーターとしての心構え、留意点などについて研修を実施した。

更に、研修の一環として2地域でプレヒアリングを行い、その結果をファシリテーター全員で共有すると同時に、環境づくり、ヒアリングの教材などについて一部修正を行った。

ファシリテーターの心得として以下の3点には十分に配慮した。①ファシリテーターが話の流れを誘導したり、特定の子どもの発言に対して過剰に反応したりしない、②子どもの発言に対して「でも」「それは違うでしょ」などと否定しない、③子供たちの声に共感することで、それぞれの子供たちが安心感を得られるようする。

第2章 子供を対象とした調査

2.1 子供へのヒアリング概要

対象：東京都内に住む小学校4年生から高校生に相当する年齢児

人数：279名

属性：①児童館・コミュニティセンターなどの公共施設に来所する子供

②子ども劇場などの文化関連団体やスポーツ関連団体に所属する子供

③プレーパークなどの活動に来所する子供

④町づくりや居場所づくりなど自主的な活動をしている団体に所属する子供

⑤児童養護施設のグループホーム、母子生活支援施設、里親家庭などの福祉施設で生活する子供

場所の選定：以下の条件でヒアリング団体を選定した。

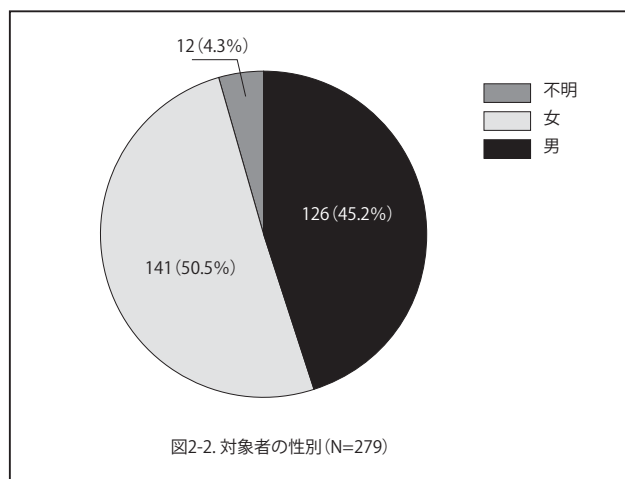
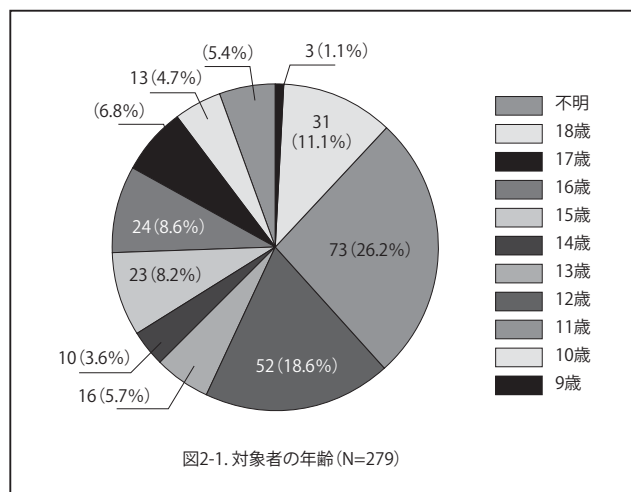
①東京都の区市町村で、地域的な偏りがないように配慮する。

②人口が多い区市町村の施設・団体をできるだけ入れる。

③児童館・プレーパークなど子供たちが集う施設などを対象とする。また、児童養護施設のグループホームなども対象として含める。

倫理的配慮：この調査における倫理的配慮として、受け入れ施設・団体を通じて子供の保護者に対して、原則として調査の実施依頼を行い、同意をいただいた上で調査を実施した。

ヒアリング調査：原則として6～8名程度のグループヒアリングとした。ヒアリングには当団体（TOKYO PLAY）のスタッフのほか、受け入れ施設・団体の担当者にも基本的に同席していただいた。また、調査の雰囲気をつきとることができるだけにするために、飲み



物、お菓子などを準備し、調査の支障にならない程度に、食べたり、飲んだりしながら行った。

ヒアリング時間：約90分(質問紙への記入・オリエンテーションを含む)

2.2 子供へのヒアリング調査の手順

事前準備

施設・団体から調査の受け入れについての回答をいただいた後、実際に現地に当団体のスタッフが伺い、受け入れ団体の担当者に調査の趣旨や手順、保護者への倫理的配慮などを説明した。併せて、子供たちの日常の様子などを情報についての聞き取りを行った。

当日の手順

- ① オリエンテーション：当団体のスタッフの紹介、この調査の趣旨、倫理的配慮、スケジュール説明などを行った。
- ② 質問紙への記入：ヒアリングの内容を補完するための質問紙への記入を依頼した。(資料1参照)
- ③ アイスブレイク：子供たちと改めて自己紹介するとともに、「最近あった楽しい出来事」、「好きな食べ物」など全体の雰囲気を和らげるためにアイスブレイクを行った。
- ④ ヒアリングの約束：ヒアリングを楽しく実施するために、「ここでの話は絶対に秘密にする」、「話したくないことは話さなくてもいい」、「できるだけ笑顔で楽しく」という3つの約束を説明するとともに、その約束を記載したイラストをテーブルに設置した。
- ⑤ 『東京好きメーター』：最初に、東京に対しての好き・嫌いについて回答してもらうため、嫌いが0点、好きが100点という尺度で、『東京好きメーター』にシールを貼ってもらった。
- ⑥ 東京が好きな理由、嫌いな理由について、1つの理由

表 2-1. ヒアリング先一覧

No	日付	ヒアリング先	地域	施設区分	人数
1	2月4日(金)	(1)	区部	公共施設	5
2	2月5日(土)	(2) -1	市部	公共施設	6
2	2月5日(土)	(2) -2	市部	公共施設	9
2	2月19日(土)	(2) -3	市部	公共施設	8
2	2月19日(土)	(2) -4	市部	公共施設	5
3	2月5日(土)	(3)	区部	スポーツ・文化関連	9
4	2月5日(土)	(4) -1	市部	公共施設	11
4	2月13日(日)	(4) -2	市部	公共施設	8
5	2月6日(日)	(5)	市部	公共施設	9
6	2月7日(月)	(6)	区部	公共施設	5
7	2月9日(水)	(7)	区部	プレーパーク関連	8
8	2月11日(金)	(8) -1	市部	スポーツ・文化関連	6
8	2月11日(金)	(8) -2	市部	スポーツ・文化関連	7
9	2月12日(土)	(9)	区部	公共施設	7
10	2月12日(土)	(10)	区部	福祉施設	4
11	2月12日(土)	(11)	区部	福祉施設	8
12	2月12日(土)	(12)	区部	自主活動団体	8
13	2月12日(土)	(13)	区部	プレーパーク関連	6
14	2月13日(日)	(14)	区部	公共施設	3
15	2月16日(水)	(15)	区部	プレーパーク関連	4
16	2月17日(木)	(16)	区部	公共施設	6
17	2月17日(木)	(17)	区部	公共施設	7
18	2月19日(土)	(18)	区部	自主活動団体	9
19	2月19日(土)	(19)	区部	プレーパーク関連	7
20	2月20日(日)	(20)	市部	プレーパーク関連	6
21	2月22日(火)	(21)	区部	プレーパーク関連	7
22	2月23日(水)	(22)	区部	公共施設	7
23	2月26日(土)	(23)	市部	スポーツ・文化関連	8
24	2月27日(日)	(24)	区部	プレーパーク関連	8
25	2月27日(日)	(25)	市部	プレーパーク関連	8
26	2月27日(日)	(26)	市部	福祉施設	4
27	3月2日(水)	(27)	区部	公共施設	7
28	3月5日(土)	(28)	区部	公共施設	10
29	3月6日(日)	(29)	市部	自主活動団体	7
30	3月7日(月)	(30)	区部	福祉施設	8
31	3月8日(火)	(31)	区部	福祉施設	6
32	3月8日(火)	(32)	区部	福祉施設	1
33	3月9日(水)	(33)	区部	公共施設	13
34	3月9日(水)	(34)	区部	公共施設	8
35	3月9日(水)	(35)	市部	福祉施設	5
36	3月10日(木)	(36)	市部	福祉施設	1

につき1枚の付箋に記入してもらい、それを模造紙に貼ってもらった。ある程度の付箋が貼られたところで、当団体のファシリテーターから、その付箋についての質問などをきっかけにヒアリングに入った。ここでは、東京に対する愛着をきっかけに、「家や学

校以外の居場所や遊び場についてのニーズ」、「学校生活や友だち関係の様子」、「親子関係や家庭での生活」などについてヒアリングできるように心がけた。
⑦次に、「なりたい大人、なりたくない大人」というテーマで⑥と同様に、付箋への記入、付箋をきっかけとし

たヒアリングを行った。ここでは、「なりたい大人のモデルの有無」、「自立への準備」、「将来に対する夢や不安」などについてヒアリングできるように心がけた。

- ⑧ 最後のヒアリング項目として「あなたが都知事のような権限が与えられ、東京をよりよい町にしていける立場になったら、何をしたいか」というテーマで、子供たちが考えている今の社会の課題についてヒアリングした。
- ⑨ ヒアリング終了後に、今回のヒアリング調査についての感想について自由記述で記入してもらった。
- ⑩ 今回の結果は、責任を持って東京都に提出し、子供たちの声が少しでも施策に反映されるように努力することを約束し、調査を終了した。

記録

ヒアリング記録については、ヒアリング雰囲気あまり影響を与えない位置で、当団体のスタッフが記録をとるとともに、それを後日補完するために、子供たちの許可を得た上で、ICレコーダーでの録音、ビデオカメラでの撮影を行った。

2.3 子供へのヒアリングの結果

前述のようにヒアリングでは、それぞれの項目について付箋に自由に記入してもらいながら行った。そこで、それぞれの項目について付箋に記入してもらった言葉について、KJ法を用いてその要因について分析した。

図2-3は「東京が好き」の理由を示したものである。「東京が好き」の理由としては、「日本の首都・日本の中心」「芸能人・有名人がいる」「人工的」「高い建物がある」など

の東京という都市の持っているイメージのほか、「交通」「商業施設」「情報伝達」などにおける利便性などが多くあがっている。子供たちの生活に密着しているものとしては、「学校・先生」「友だち」「地域」「遊び場・居場所」「身近な自然」などの要因があがっている。

図2-4は「東京嫌い」の理由を示したものである。「東京が嫌い」の理由としては、「政治・政策」「治安・不安感」から「友だち」「家庭」など幅広い意見が語られた。全体的な傾向としては、「自然」「道路・建物」「人・交通」「騒音」「公共施設」「遊び場・居場所」などの環境的な要因、「マナー」「大人」「学校・先生」「ルール」などの大人の言動に対する批判的な要因が多くあげられていた。特に、「タバコのポイ捨て」「唾を吐く」「違法駐輪」「酔っ払い」など大人のマナーについての批判は突出しており、どのグループのヒアリングにおいても多く語られていた。また、「自分(大人)の意見を押しつける」「子供を差別する」「人(子供)の話を聞かない」などの大人の行動に対しても批判的な意見が述べられていた。

「東京が好き」と「東京が嫌い」の理由を比較すると、「嫌い」の方が多くあげられ、付箋の数も約2倍となっている。また、「好き」については東京の持っている漠然としたイメージが多くあげられるのに対して、「嫌い」では具体的な理由が多くあがっていた。

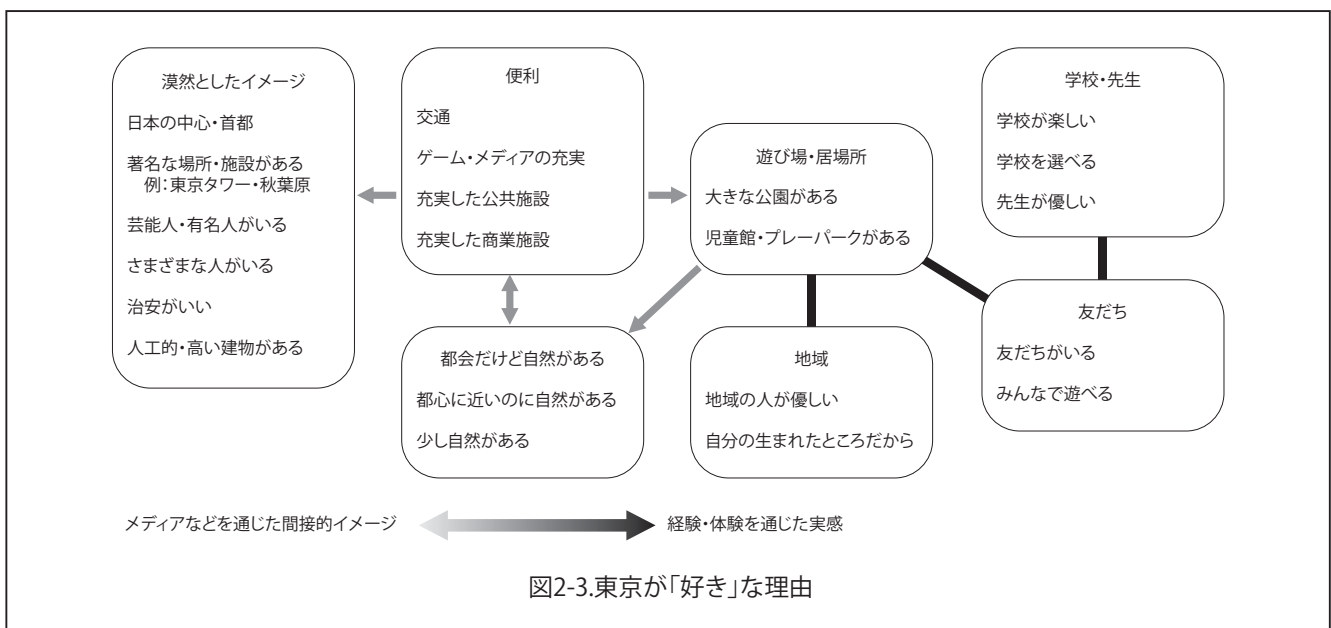


図2-3.東京が「好き」な理由

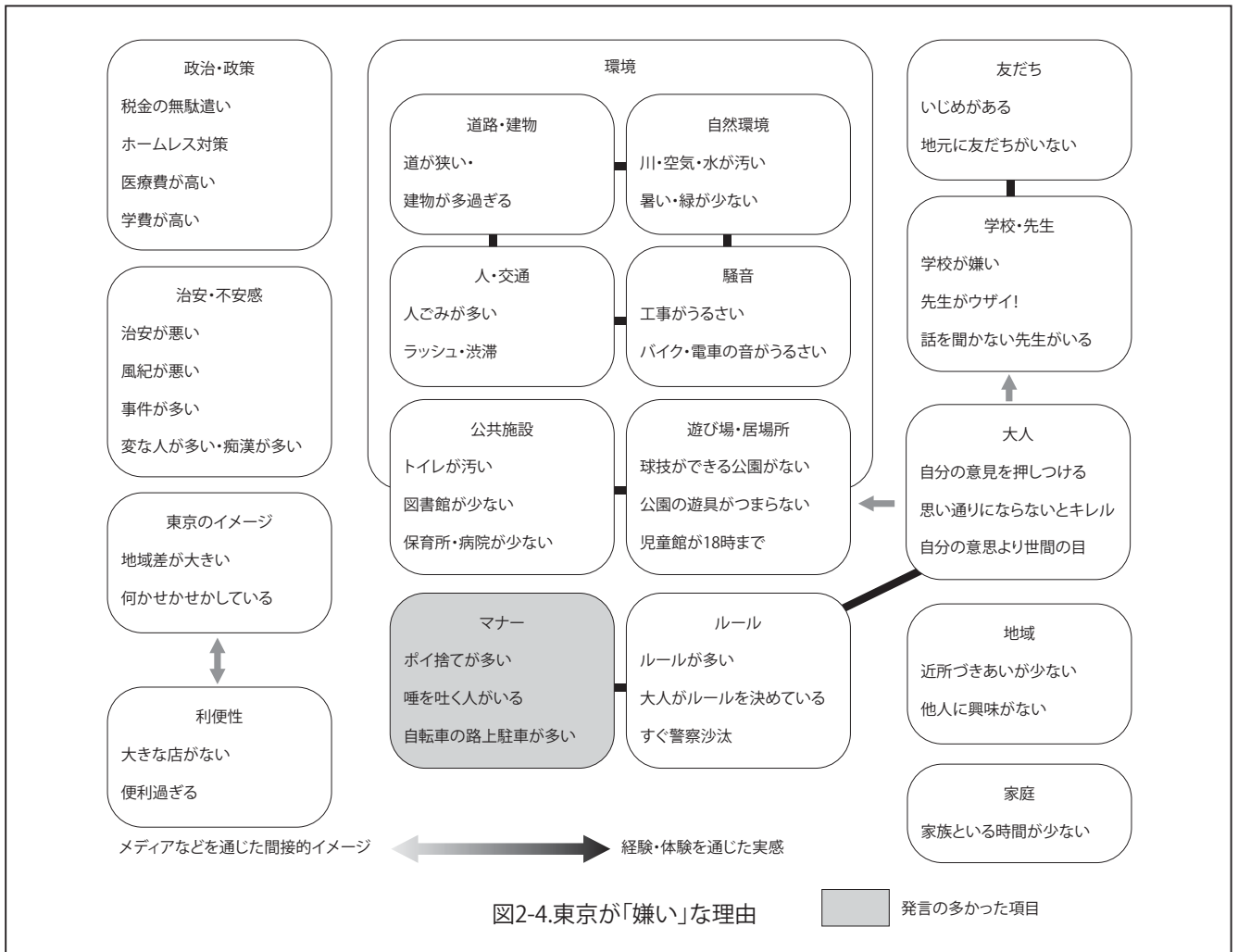


図2-4.東京が「嫌い」な理由

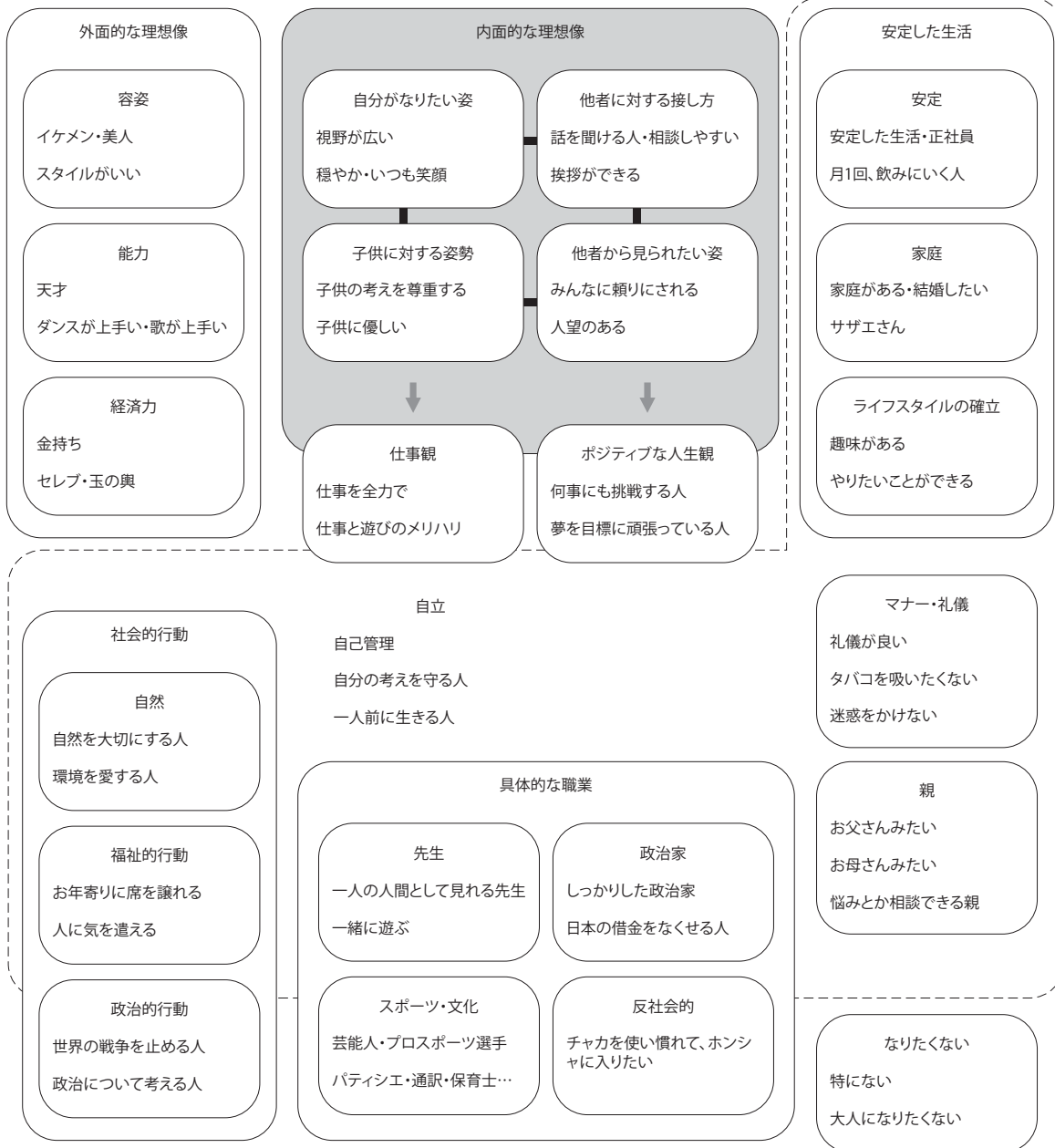


図2-5.なりたい大人

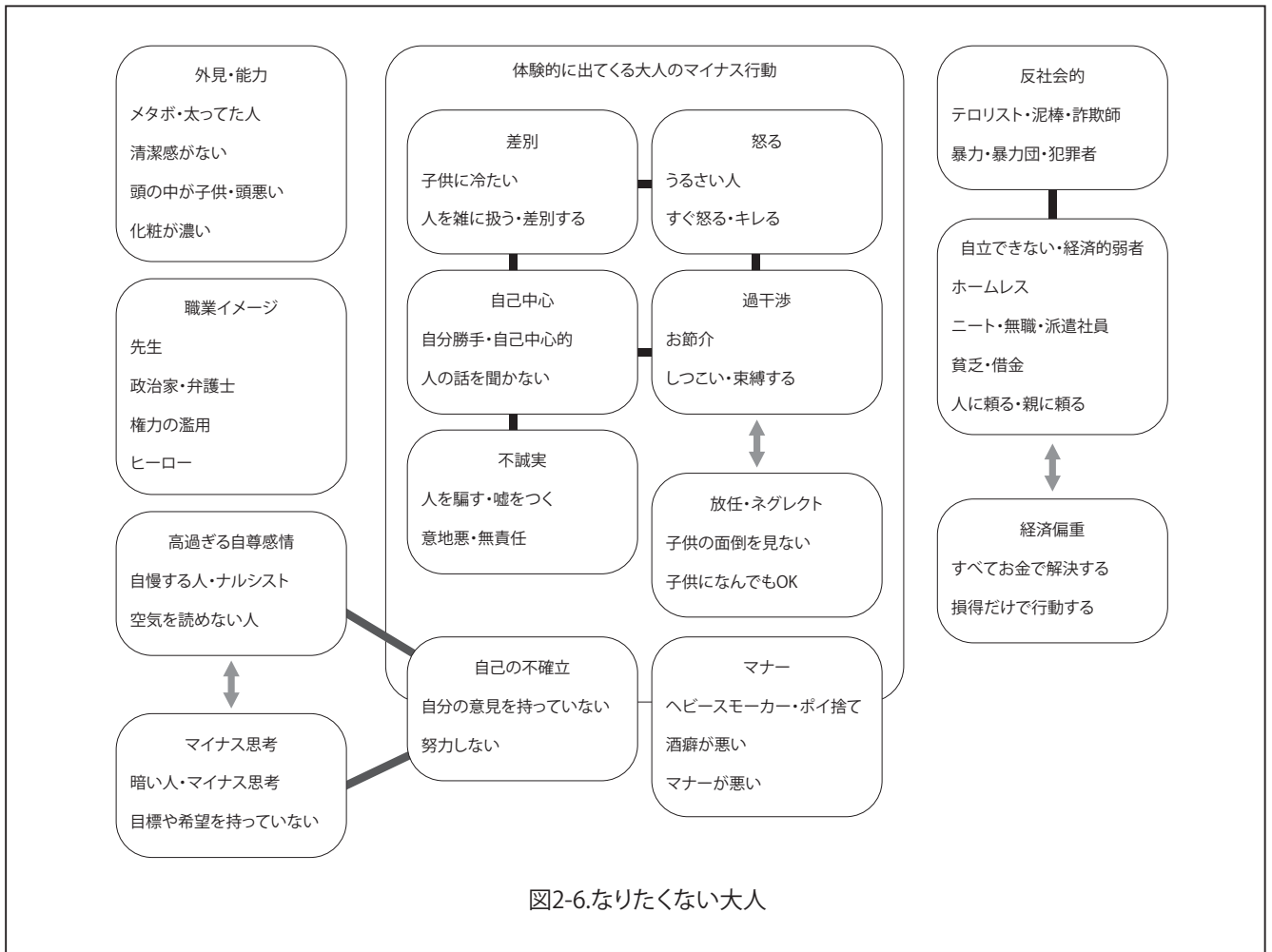


図2-6.なりたくない大人

図2-5は「なりたい大人」を示したものである。大きく分類すると、「外面的な理想像」「内面的な理想像」「安定した生活」「社会的行動」「具体的な職業」などが語られている。「イケメン」「美人」「金持ち」など外面的な理想像もさまざま語られているが、「自分になりたい姿」「他者に対する接し方」「他者から見られたい姿」「子供に対する姿勢」など内面的な理想像の方が多く語られ、付箋の数は突出していた。また、「正社員」「家庭がある」「結婚したい」「趣味がある」「やりたいことができる」など安定した生活を送り、自分なりのライフスタイルを確立することに強い関心を持っている。なりたい職業についても多く述べており、「先生」「保育士」「政治家」「パティシエ」「駄菓子屋」「大工」など多種多様である。少数ではあったが、「特にない」「大人になりたくない」という意見もあった。

図2-6は「なりたくない大人」を示したものである。

なりたくない大人像としては、子供たちが体験的に感じている大人のマイナス行動について多く述べている。「すぐにキレル」「うるさい」「子供ということで差別する」「大人の考えを押しつける」「人の話を聞かない」「うそをつく」などの要素があがっている。また、なりたい大人像に述べられていた「安定した生活」と対応するように、経済的に不安定な「ニート」「派遣社員」「ホームレス」なども多くあがっている。

また、「自慢する」「ナルシスト」のように自尊感情が高過ぎる大人、「暗い」「マイナス思考」「目標や希望を持っていない」などマイナス思考の大人、「自分の意見を持っていない」など自己が確立できていない大人にもなりたくない」と述べている。

「東京が嫌い」の大きな要因であった大人のマナーについてもやはり多く述べられていて、「喫煙」「ポイ捨て」「酔っ払い」などについては特に多い傾向にあった。

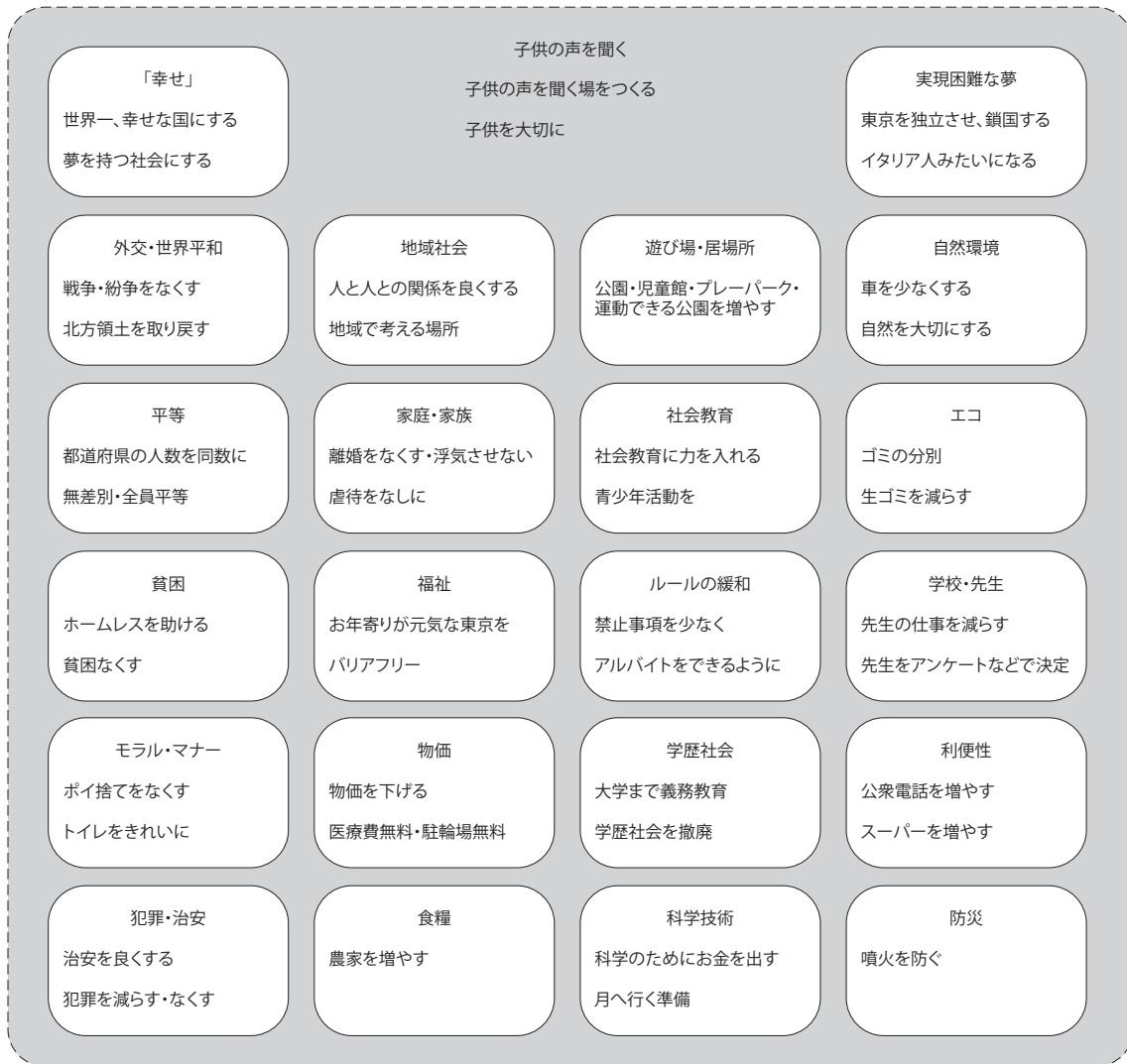


図2-7 こんな風に社会を変える

図 2-7 は、自分が東京都知事のような立場になって、自分の意見で社会を変えることができると仮定したら、何をするかという設問に対する意見である。「戦争をなくす」「ホームレスの解消」「世界一幸せな国にする」などの子供たちがメディアや学校などを通じて感じている項目から、「遊び場の充実」「地域コミュニティの確立」「社会教育の充実」「学校のさまざまな課題の解決」「車社会の改善」など身近な生活の中から感じている項目まで、幅広い意見が述べられている。なかでも「子供の声を尊重する」「子供の声を聞く場をつくる」などの意見が最も多く述べられていた。

2.4 ヒアリングに対する子供の感想

ヒアリング終了後に、ヒアリングについての感想を自由記述で記入してもらった。図 2-8 は、子供の感想を KJ 法を用いて分析したものである。多くの子供は、「すっきりした」「楽しかった」「新鮮だった」と感じ、「またやりたい」と記述している。その理由は大きく 3 つに分類でき、①「普段言えないことを言うことができ楽になった」「自分の気持ちを素直に言えた」など、自分の意見を表明できたこと、②「友だちの考えていることを聞くことができた」「いろいろな意見があった」など、さま

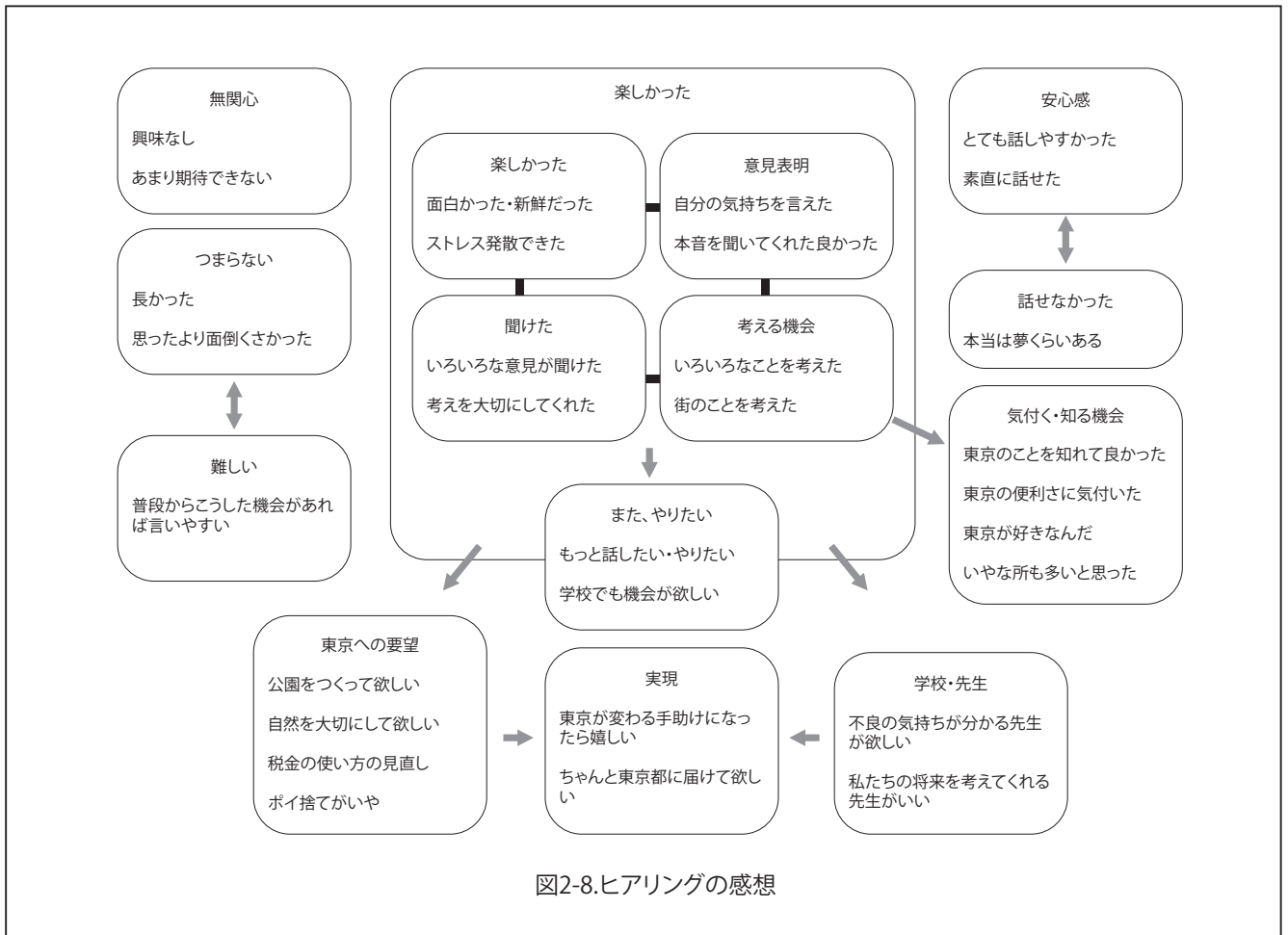


図2-8.ヒアリングの感想

ざまな意見を聞けたこと、③「東京のことを改めて考えた」「普段考えないいろいろなことを考えた」など、改めて普段の生活について考える機会になったことだった。

また、こうした意見を東京都にきちんと伝え、少しでも実現して欲しいという要望も多かった。

一方で、少数ではあったが「つまらない」「面倒くさい」などの感想もあった。また、「本当は夢くらいある」と、ヒアリングの中で素直な自分の気持ちを言えなかった葛藤を記述した子供もいた。

2.5 ファシリテーターの所感

子供たちのヒアリングで、さまざまな意見を直接聞いたファシリテーターが感じたことをまとめるために、ファシリテーターが参加するワークショップを行った。

ファシリテーターの全員が最も印象深かったこととしては、ヒアリング終了後に、子供たちから「楽しかった」「すっきりした」「また、やりたい」という言葉をもらったことである。当初は、ほぼ初対面であり、子供たちとのコミュニケーションが取れていない中で、子供たちから考えていること、普段から感じている本音をどの程

度引き出せるか不安を抱えた中でのヒアリングであったが、「また、やりたい」との意見をもらえたことで、より積極的にヒアリングに取り組むことができた。ただし、子供たちが「また、やりたい」と発言することは、普段はこうした大人や社会に対してさまざまな意見を表明する機会がないということでもあり、大人の社会が考えるべき今後の課題だと感じたと述べている。

また、質問紙調査でも分かるように子供たちの自己肯定感が比較的高いように感じた。これは、今回の調査が、普段から居場所となっている遊び場や団体がある子供たちが対象となっており、そのことが影響しているのではないかと考えられる。

子供たちは自分の家や学校以外の居場所を求めており、小学生は「遊び場」、中学生は「居場所」という表現を使ってさまざまな意見を述べていた。そして子供たちは「遊び場」や「居場所」に対しては、物理的な環境の改善だけを求めているのではなく、そこに信頼できる大人がいることが必要だと話していたように感じた。この大人に対しては、「相談ができる」「話を聞いてくれる」「いっしょに遊んでくれる」などを求めているのではないだろうか。

全体的には少数の意見であったが、「いじめ」や「虐

待」などについて語られることもあった。友だちがいることは、子供たちにとって重要な要因だが、一方で、中学生になると、この友人関係が微妙なバランス感覚で成り立っていることもあり、友だち関係が一つのストレスにもなっている可能性がある、ファシリテーターは感じた。

学校生活については、多くの時間を過ごしていることもあり、子供たちはプラス面でもマイナス面でもさまざまな意見を述べていた。中高生になると少し先生への信頼が希薄になっていることを思わせる発言があった。

2.7.1 子供への質問紙調査の結果（単純集計）

子供への質問紙調査の単純集計は以下の通りである。

「東京都は好きですか？」という質問には、「好き」「まあ好き」という回答を合わせると87%の子供たちが好意を持っている。しかし、「大人になっても東京都で暮らしたいですか？」という質問には、16%の子供は「別の場所で暮らしたい」と回答しており、必ずしも「好き」という気持ちと「暮らしたい」という気持ちは一致しなかった。

朝食は「毎日食べる」と回答している子供が80%おり、これは、平成17年度児童生徒の食生活等実態調査（独立行政法人日本スポーツ振興センター）とほぼ同様の結果となっていた。

自己肯定感に対する質問では、「自分のことが好きですか？」では、「とても好き」と回答した子供が15%、「まあまあ好き」が55%と、肯定的回答の子供が70%を越えた。立川市が実施している「子どもの自己肯定感などに関する調査」では、肯定的回答をした割合は、中学生で59%（平成17年度）、28%（平成18年度）、小学校6年生で44%（平成20年度）となっており、今回の子供たちは著しく高い結果を示した。「自分にはよいところがあると思いますか？」については、肯定的回答の子

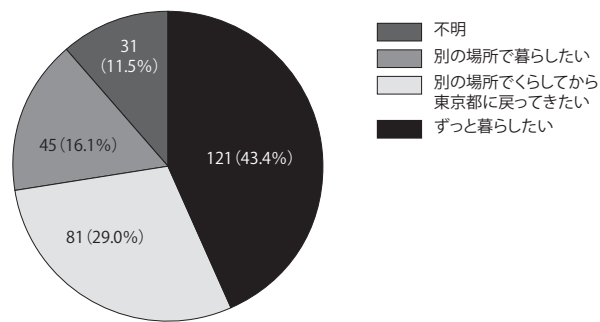


図2-10. 大人になっても東京都で暮らしたいですか? (N=279)

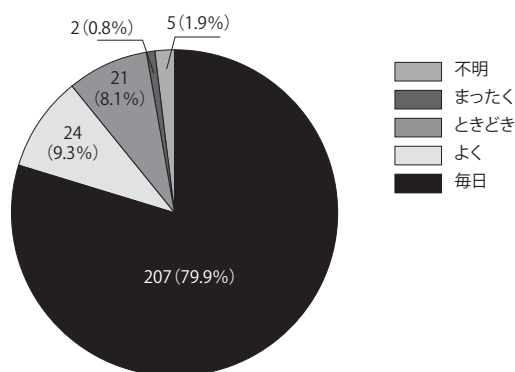


図2-11. あなたは朝食を食べますか? (N=259)

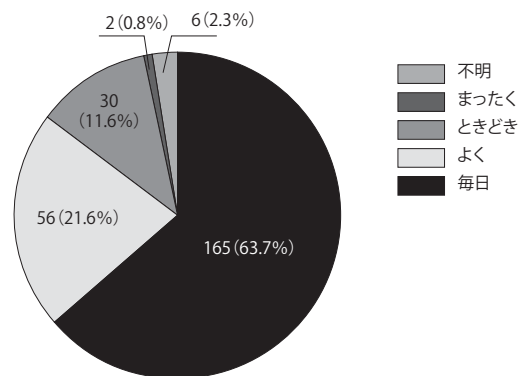


図2-12. 夕食をおうちの人と食べることはありますか? (N=259)

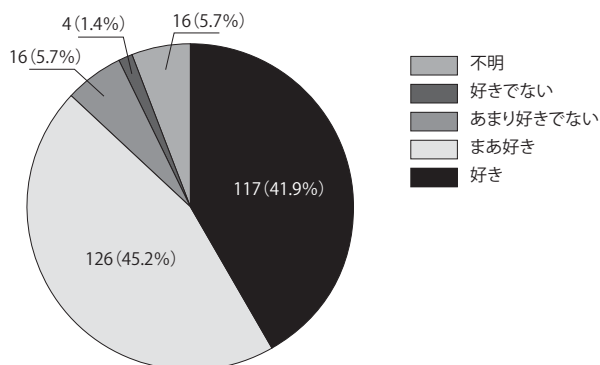


図2-9. 東京都は好きですか? (N=279)

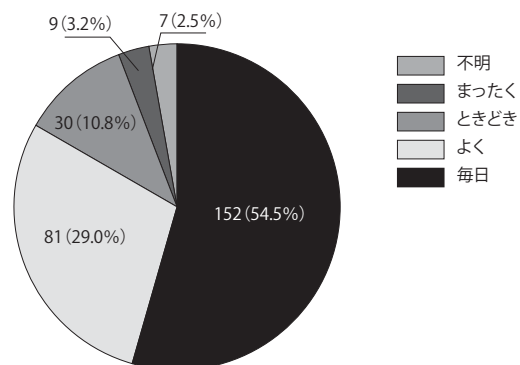


図2-13. 食事のときにおうちの人と話をしますか? (N=279)

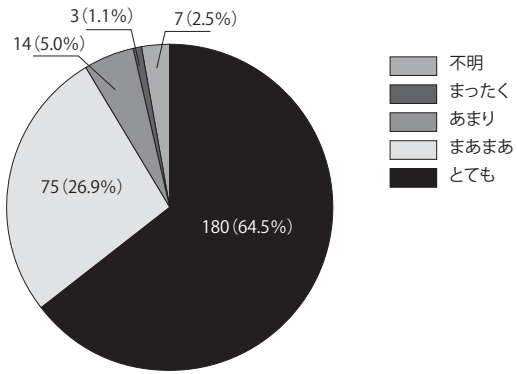


図2-14. おうちの人はあなたのことを大切に思ってくれていると感じていますか? (N=279)

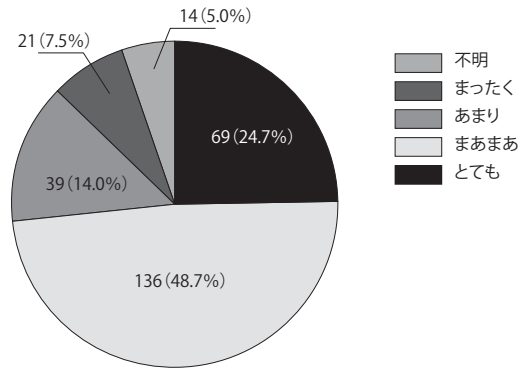


図2-18. 自分のことを好きだと思っている友だちがいると思いますか? (N=279)

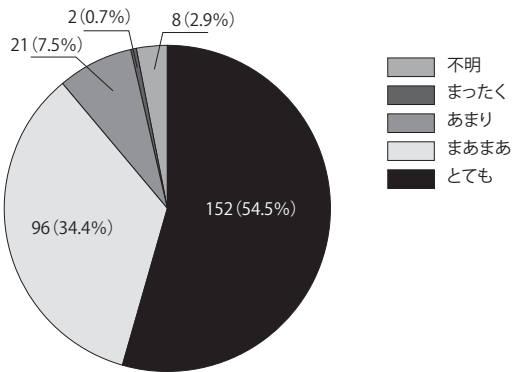


図2-15. おうちの人はあなたの意見を大切にしてくれていると思いますか? (N=279)

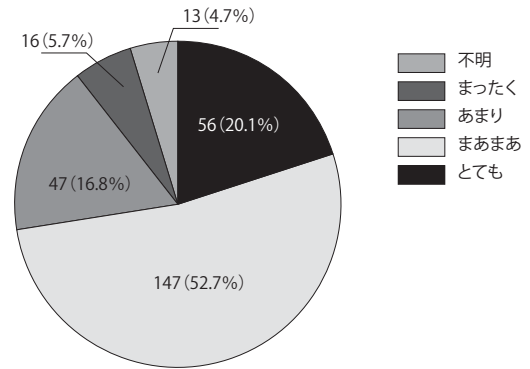


図2-19. 自分にはよいところがあると思いますか? (N=279)

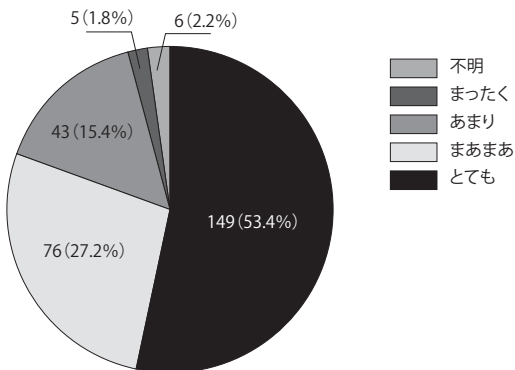


図2-16. おうちの人は、あなたが困ったときに相談にのってくれますか? (N=279)

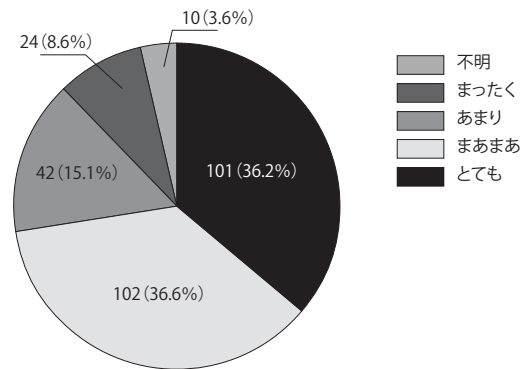


図2-20. 疲れて何もしたくないと思うことがありますか? (N=279)

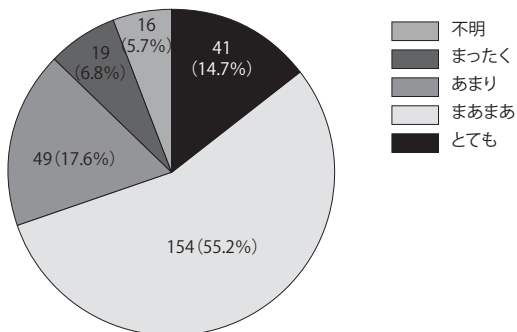


図2-17. 自分のことが好きですか?

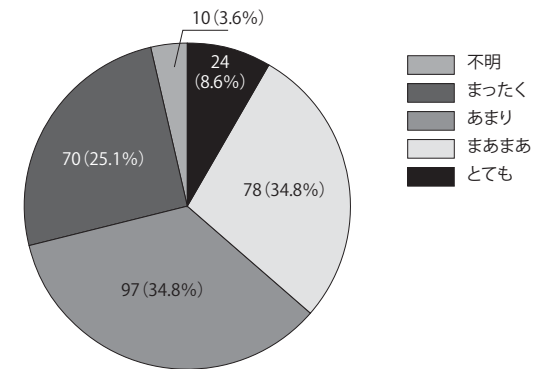


図2-21. 自分のことを誰もわかってくれないと思うことがありますか? (N=279)

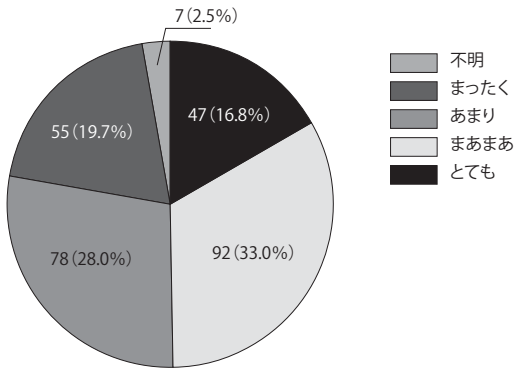


図2-22. 自分があまり目立たないようにしたいと思っていますか? (N=279)

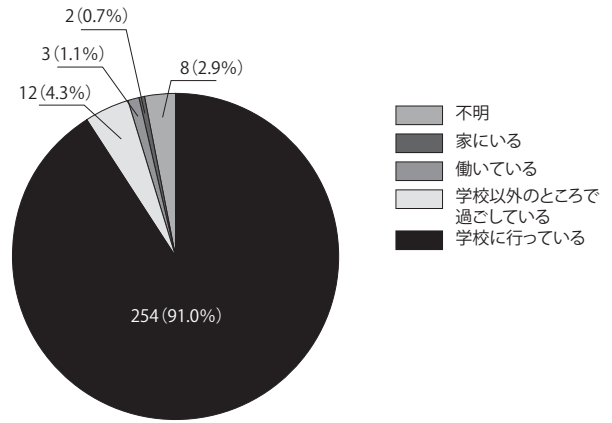


図2-26. あなたは平日(月～金まで)おもに何をしていますか? (N=279)

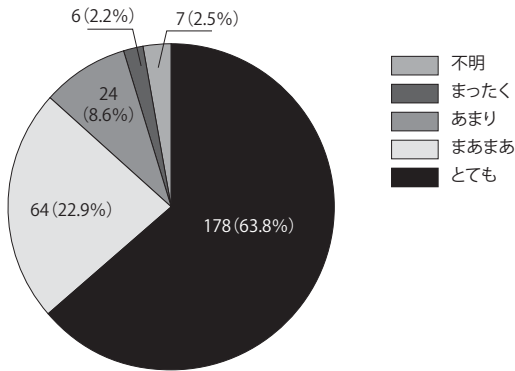


図2-23. 夢中になっていることがありますか? (N=279)

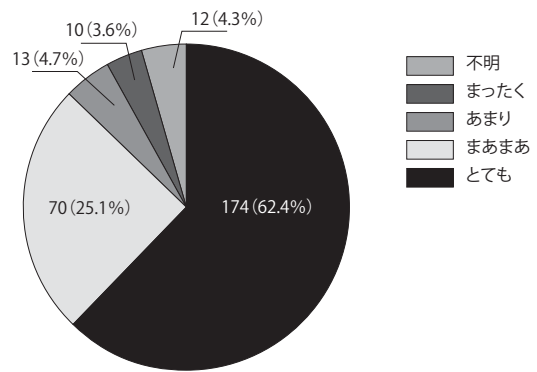


図2-27. そこで友だちと会うことを楽しみにしていますか? (N=279)

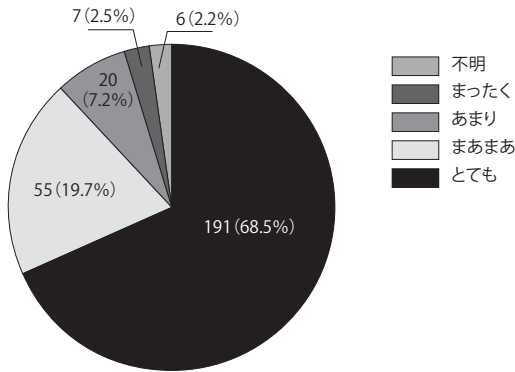


図2-24. 大人になったら、やってみたいことはありますか? (N=279)

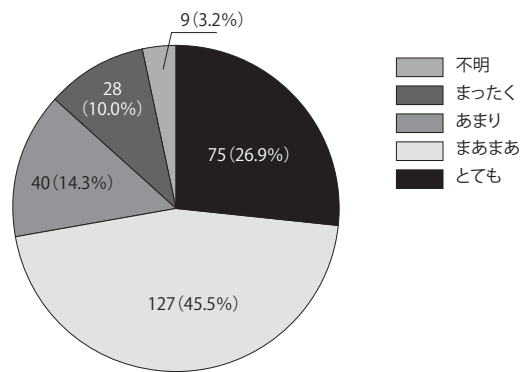


図2-28. そこでなにかを学ぶことを楽しみにしていますか? (N=279)

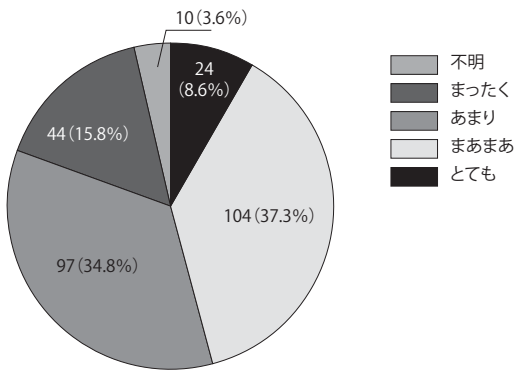


図2-26. 自分の意見が、今の社会を良くするために役立つと思いますか? (N=279)

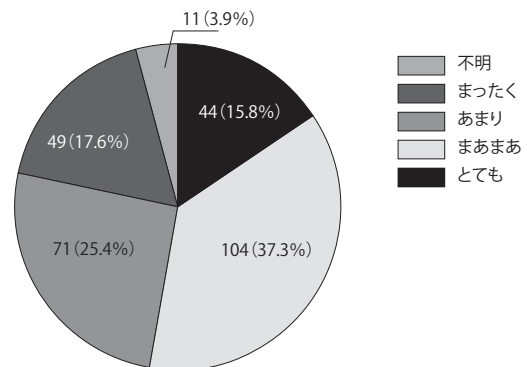


図2-29. そこで大人に会うことを楽しみにしていますか? (N=279)

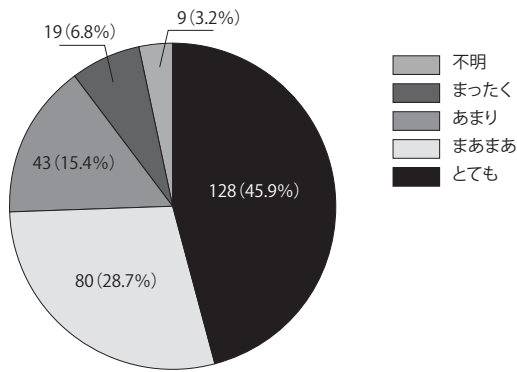


図2-30. そこには、ホッとできる場所がありますか? (N=279)

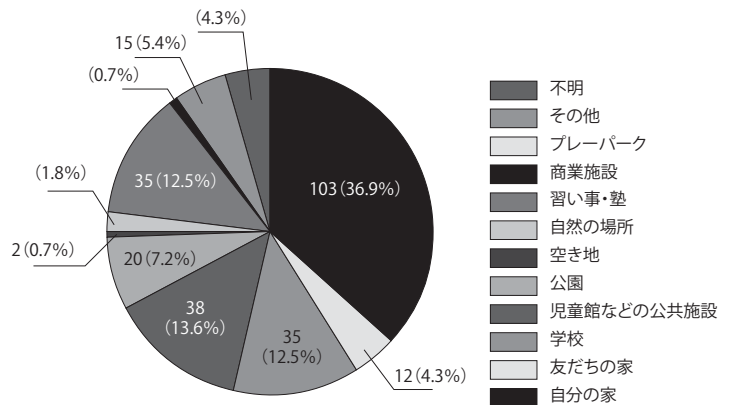


図2-31. 平日の夕方、どこで過ごしていることが一番多いですか? (N=279)

供がやはり70%を越えた。平成19年度に国が実施した「全国学力・学習状況調査」での同様の質問では、肯定的回答の子供が小学校6年生で70.6%、中学校3年生60.4%であり、これと比較してもやや高い値を示している。

平日の生活では、90%を超える子供たちが学校に行っているが、「そこで友だちに会うことを楽しみにしていますか?」という質問には、「とても楽しみにしている」と回答した子供は62%、「まあまあ楽しみにしている」と回答した子供を合わせると87%となった。「そこで大人に会うことを楽しみにしていますか?」という質問では「まったく楽しみにしていない」が18%、「あまり楽しみにしていない」が25%であった。

「一番行くことが多い普段の遊び場はどこですか?」という質問に対しては、「自分の家」「友だちの家」が合わせて33%となり、家が遊び場となっていることが分かる。児童館などの公共施設は17%、公園が14%となっているが、「あなたが一番ホッとできる居場所はどこですか?」という質問では、児童館などの公共施設は4%、公園が3%と低くなっている。それに対して自然の場所は3%から9%と逆に高くなっている。

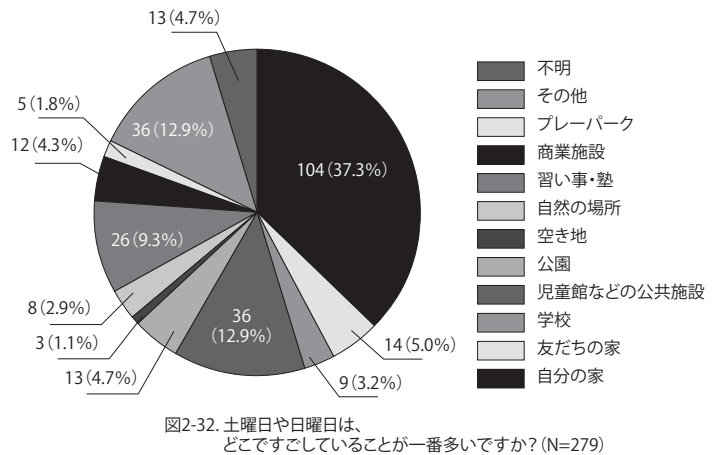


図2-32. 土曜日や日曜日は、どこで過ごしていることが一番多いですか? (N=279)

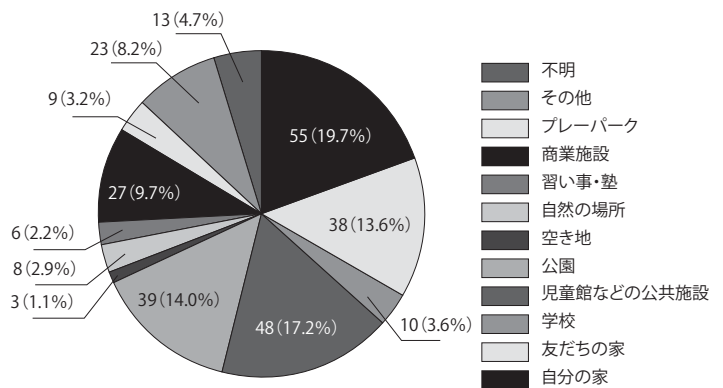


図2-33. 一番行くことが多い普段の遊び場はどこですか? (N=279)

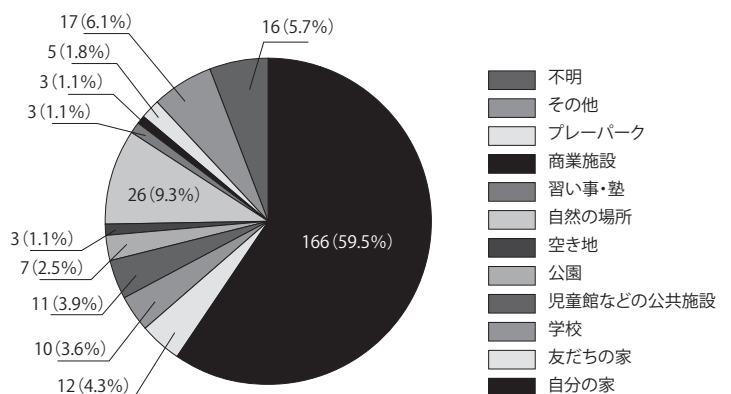


図2-34. あなたが一番ホッとできる居場所はどこですか? (N=279)

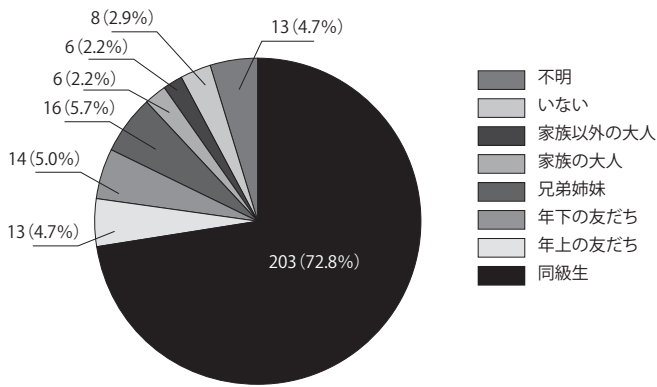


図2-35. 一番いっしょにいることが多い
普段の遊び相手は誰ですか? (N=279)

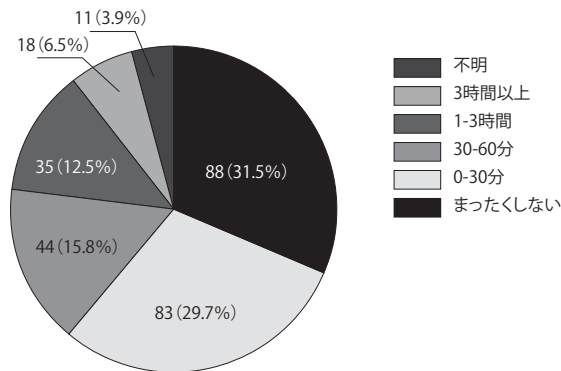


図2-36. あなたは一日でどれくらい
インターネットを使っていますか? (N=279)

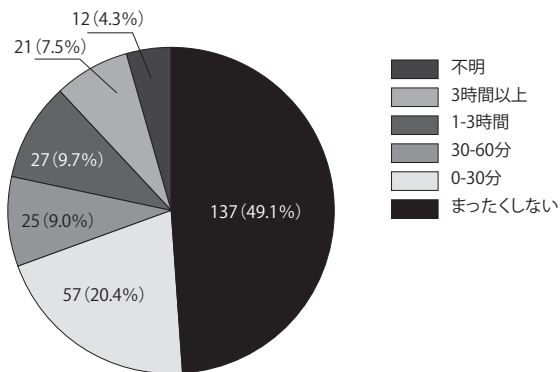


図2-37. あなたは一日でどれくらい
携帯メールを使っていますか? (N=279)

2.7.2 子供への質問紙調査の結果 (年代別比較)

図 2-38 から図 2-63 は、質問の各項目を年代別比較したものである。

表 2-2 年代別の人数

年齢	人数
9-12 歳	159 人
13-15 歳	49 人
16-18 歳	56 人

「夕食のときに話をするか」「家族はあなたのことを大切に思ってくれているか」など家族に関する質問では、小学生は、中・高校生と比較して肯定的な回答が多くなっている。また、「夢中になっていることがある」「大人に

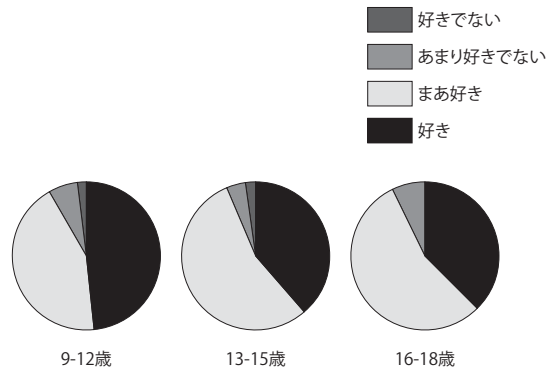


図2-38. 東京都は好きですか?
世代別比較 (N=279)

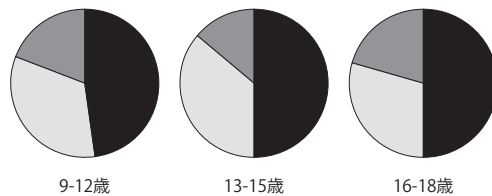
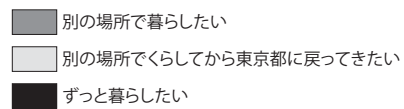


図2-39. 大人になっても東京都で暮らしたいですか?
世代別比較 (N=279)

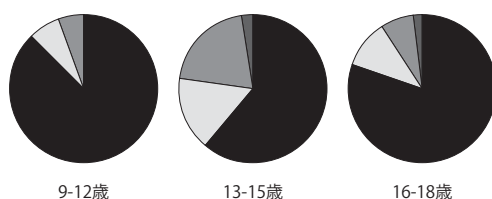
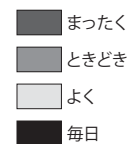


図2-40. あなたは朝食を食べますか?
世代別比較 (N=279)

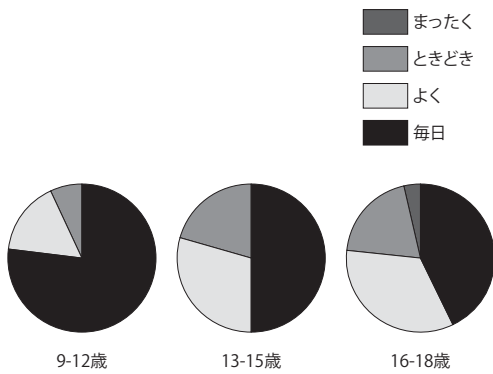


図2-41. 夕食をおうちの人と食べることはありますか？
世代別比較 (N=279)

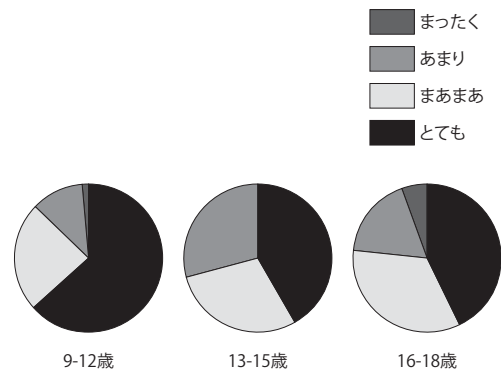


図2-45. おうちの人、あなたが困ったときに相談にのってくれますか？
世代別比較 (N=279)

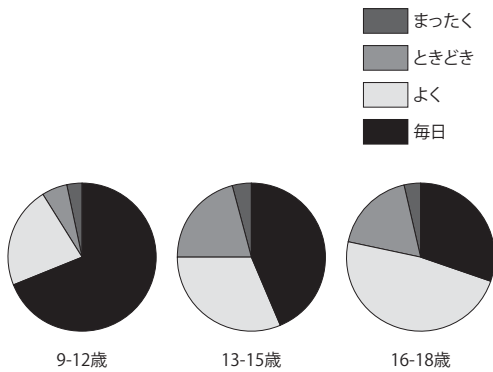


図2-42. 食事のときにおうちの人と話をしますか？
世代別比較 (N=279)

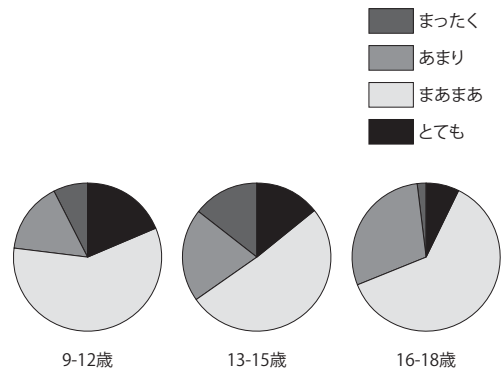


図2-46. 自分のことが好きですか？
世代別比較 (N=279)

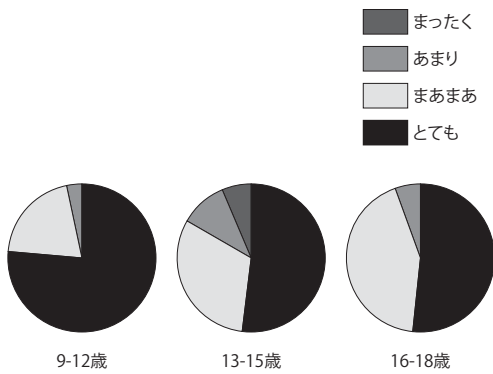


図2-43. おうちの人、あなたのことを大切に思ってくれていると感じていますか？
世代別比較 (N=279)

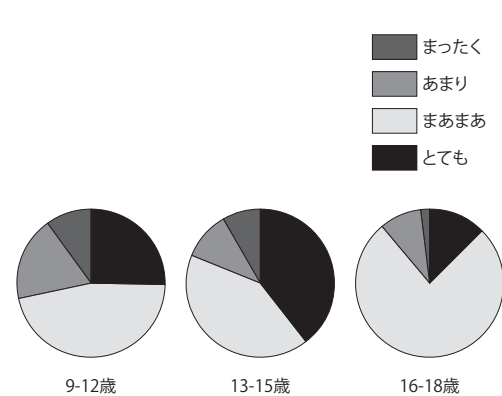


図2-47. 自分のことを好きだと思っている友だちがいると思いますか？
世代別比較 (N=279)

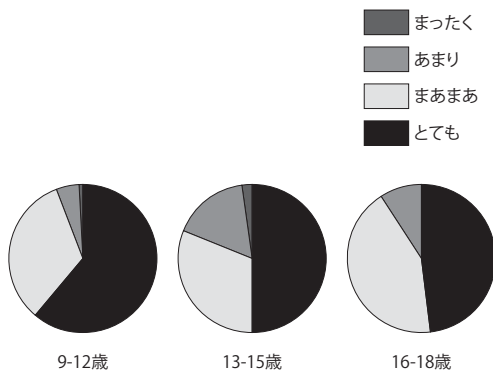


図2-44. おうちの人、あなたの意思を大切にしてくれていると思いますか？
世代別比較 (N=279)

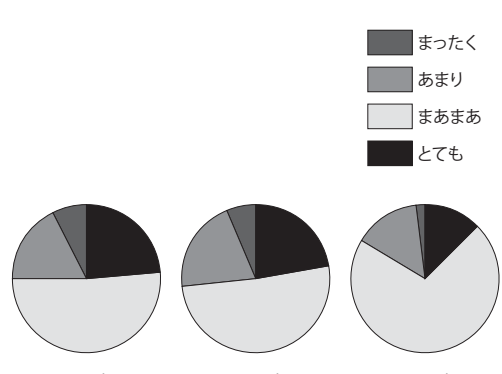


図2-48. 自分にはよいところがあると思いますか？
世代別比較 (N=279)

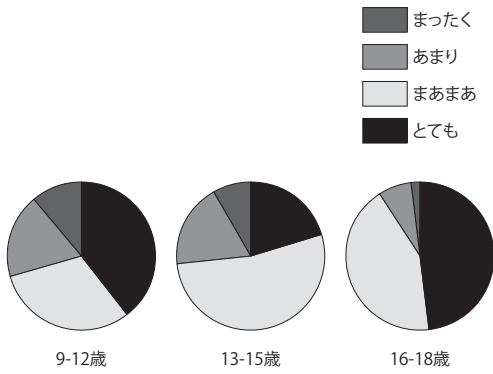


図2-49. 疲れて何もしたくないと思うことがありますか？
世代別比較 (N=279)

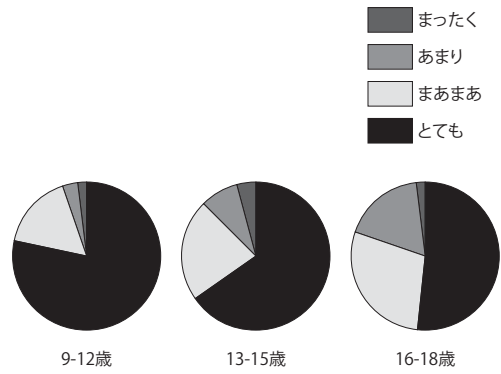


図2-53. 大人になったら、
やってみたいことはありますか？
世代別比較 (N=279)

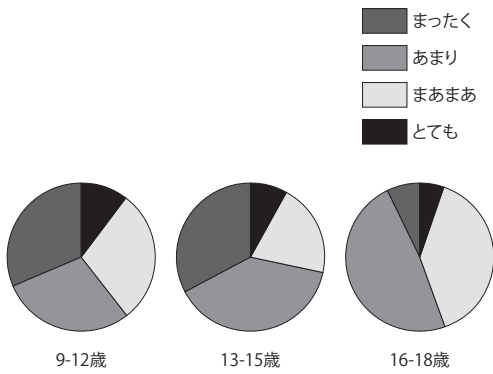


図2-50. 自分のことを誰もわかってくれないと
思うことがありますか？
世代別比較 (N=279)

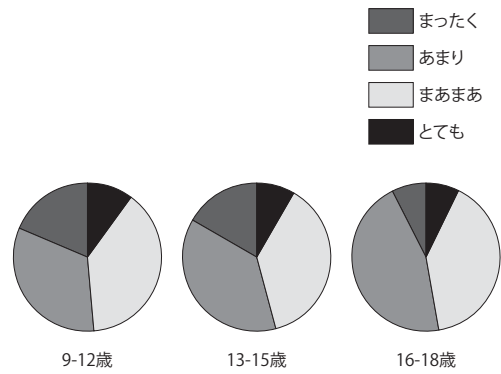


図2-54. 自分の意見が、今の社会を良くするために
役立つと思いますか？
世代別比較 (N=279)

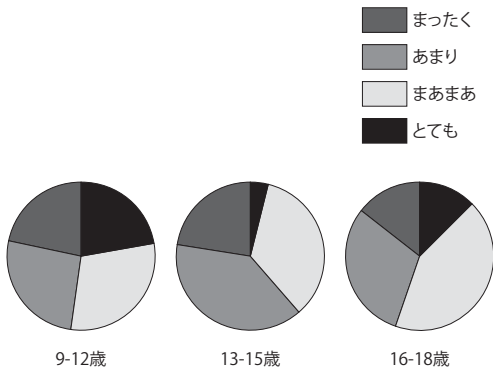


図2-51. 自分があまり自立たないようにしたいと
思っていますか？
世代別比較 (N=279)

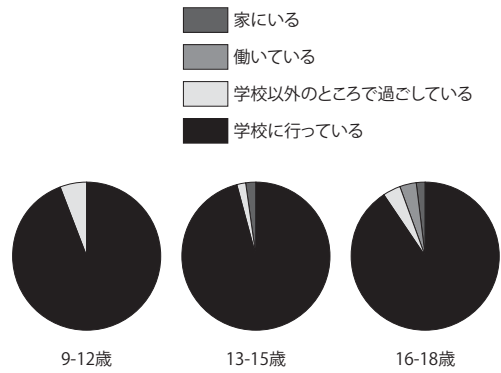


図2-54. あなたは平日(月～金まで)おもに
何をしていますか？
世代別比較 (N=279)

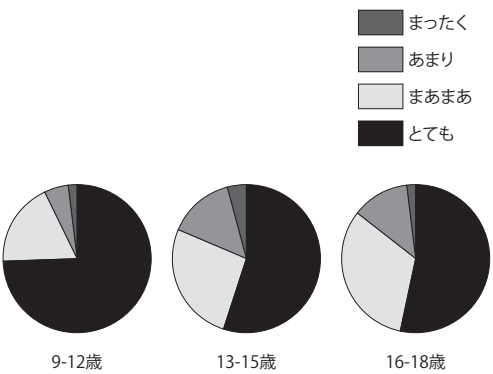


図2-52. 夢中になっていることがありますか？
世代別比較 (N=279)

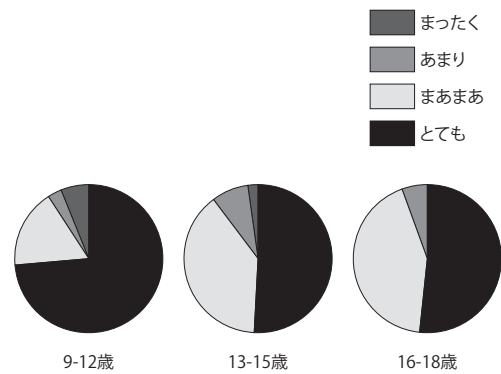


図2-56. そこで友達と会うことを楽しみにしていますか？
世代別比較 (N=279)

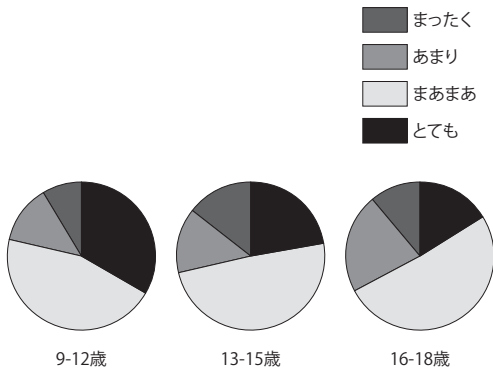


図2-55. そこでなにかを学ぶことを楽しみにしていますか？
世代別比較 (N=279)

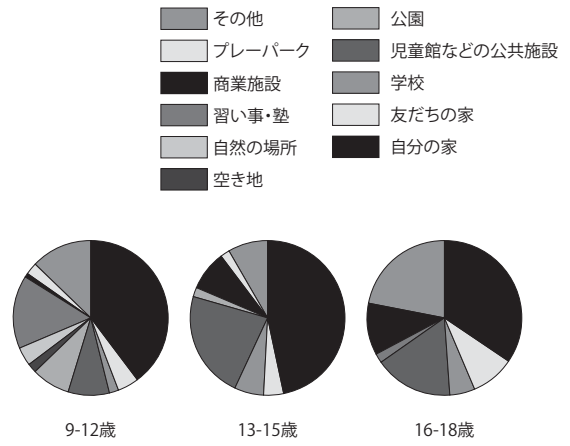


図2-61. 土曜日や日曜日は、
どこで過ごしていることが一番多いですか？
世代別比較 (N=279)

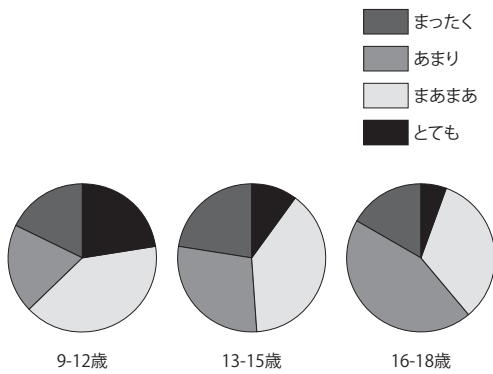


図2-58. そこで大人に会うことを楽しみにしていますか？
世代別比較 (N=279)

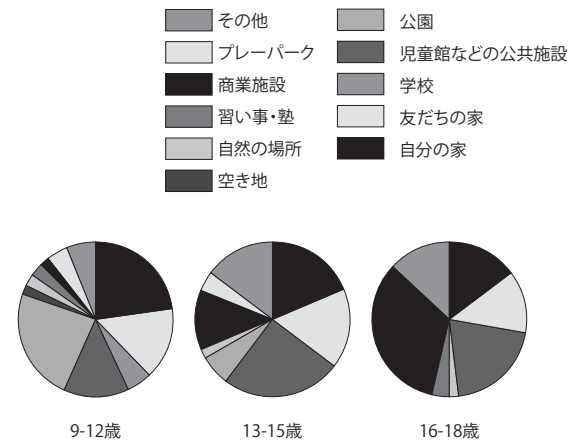


図2-62. 一番行くことが多い普段の遊び場はどこですか？
世代別比較 (N=279)

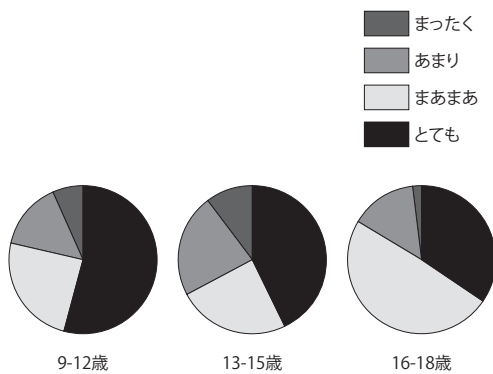


図2-59. そこには、ホットできる場所がありますか？
世代別比較 (N=279)

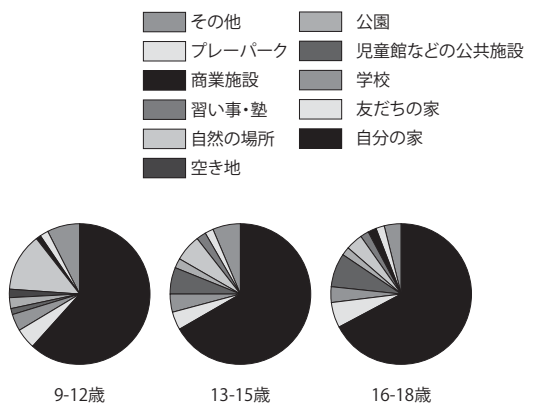


図2-63. あなたが一番ホットできる居場所はどこですか？
世代別比較 (N=279)

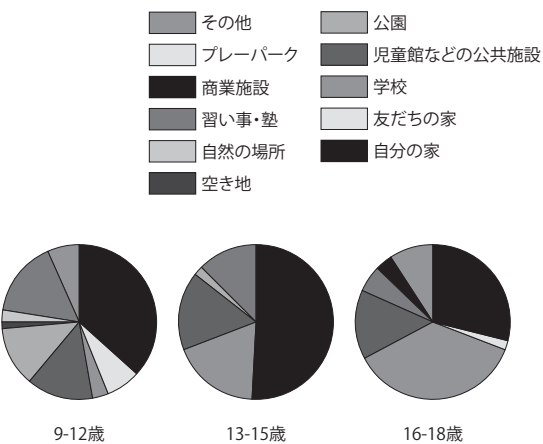


図2-60. 平日の夕方、どこで過ごしていることが一番多いですか？
世代別比較 (N=279)

なったらやってみたいことがある」「平日に主に過ごす場所で友だちに会うことを楽しみにしている」などの項目も、小学生の肯定的回答が高い値を示している。

「自分のことを誰も分かってくれないと思うことがある」「あまり目立たないようにしたい」という項目では、小学生・高校生に比較して中学生は、「とても思う」「まあまあ思う」を合わせた割合が低い傾向にあった。

高校生が特に特徴的だったのは、「疲れて何もしたくないと思うことがある」という項目で、「とても思う」「まあまあ思う」を合わせると90%を超し、小学生・中学生と比較して高い傾向にあった。

2.7.3 子供への質問紙調査の結果（施設区分別比較）

今回ヒアリングした団体・グループを①児童館・コミュニティセンターなどの公共施設、②スポーツ・文化関連団体、③プレーパーク関連、④自主活動団体、⑤児童養護施設のグループホームなどの福祉施設として分別し、いくつかの項目について比較、検討した。

グループホームなどの福祉施設の子供たちは、全体的な傾向として、児童館などの公共施設の子供たちとほぼ同じような傾向を示した。一部異なった傾向を示したものは、図2-68「自分のことを分かってくれないと思うことがある」と図2-73「一番ホッとできる場所」という

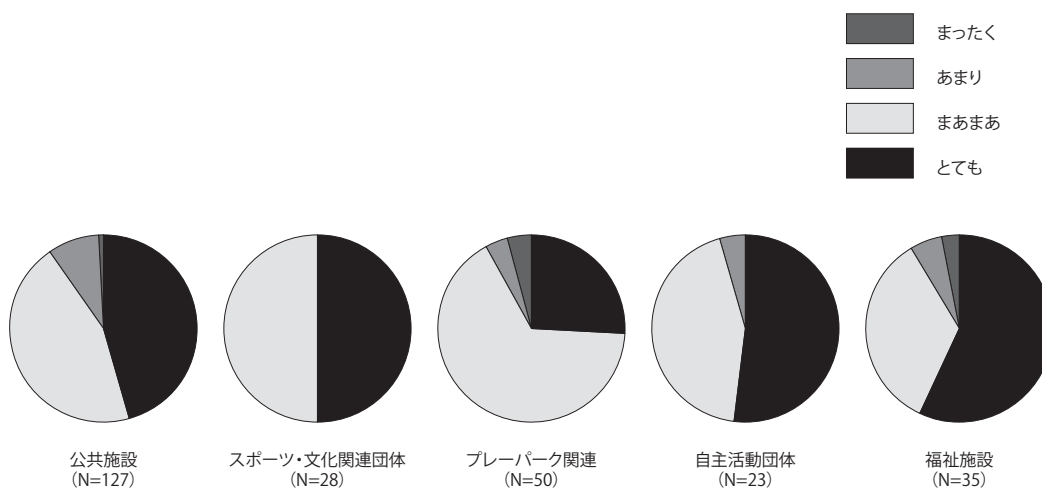


図2-64. 東京都は好きですか？ 施設区分比較 (N=263)

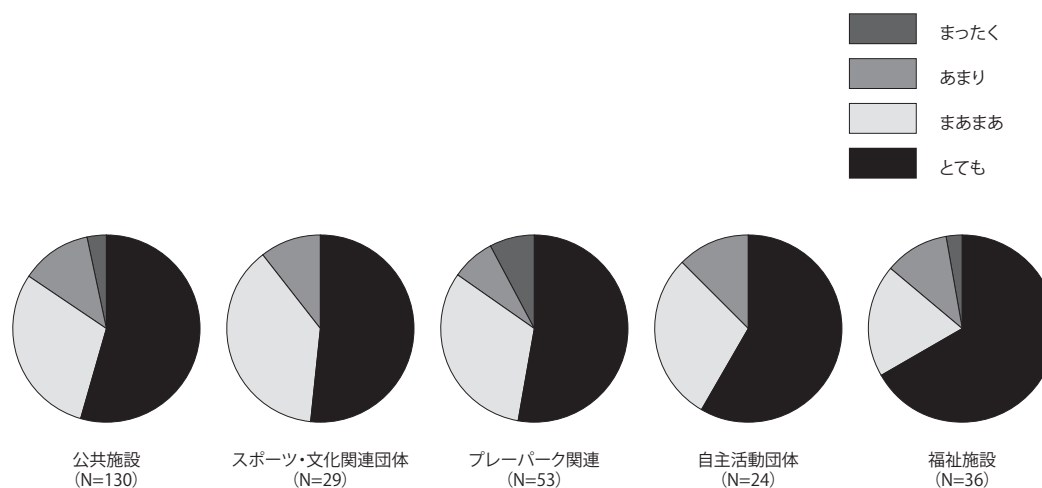


図2-65. 食事のときにうちのひとと話をしますか？ 施設区分比較 (N=272)

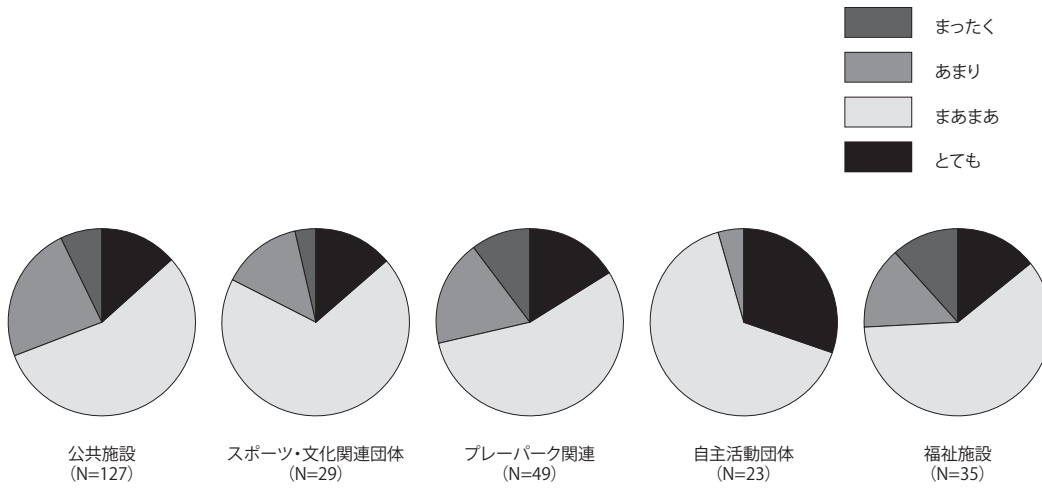


図2-66. 自分のことが好きですか？
施設区分比較 (N=263)

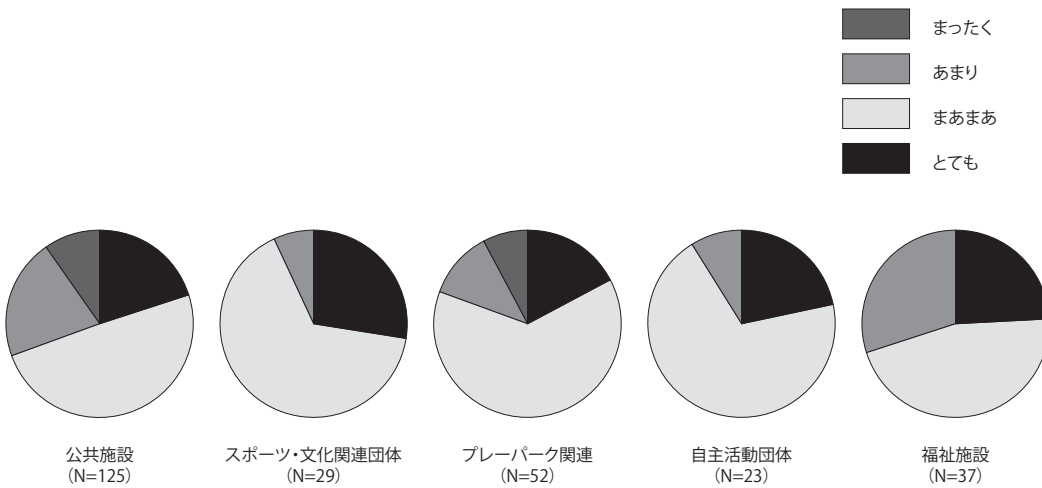


図2-67. 自分にはよいところがあると思いますか？
施設区分比較 (N=266)

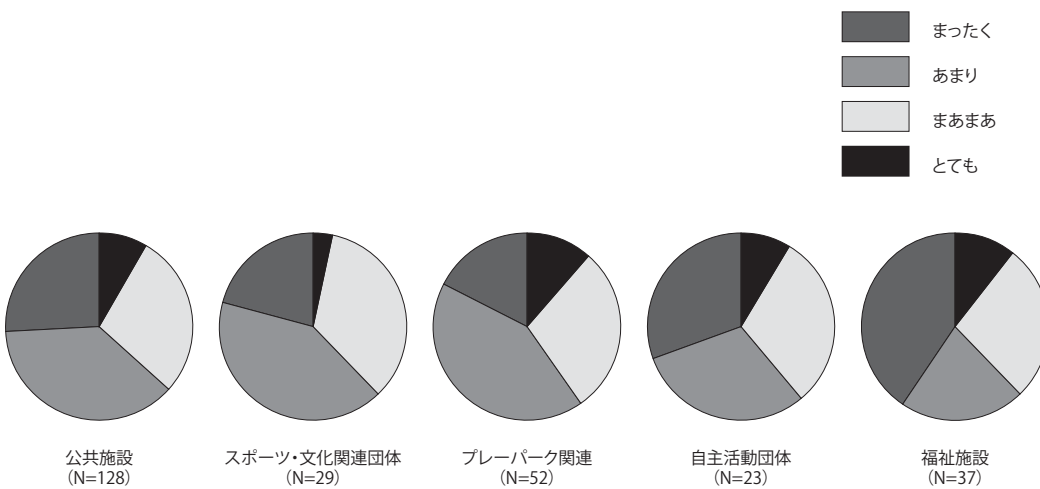


図2-68. 自分のことを誰もわかってくれないと思うことがありますか？
施設区分比較 (N=269)

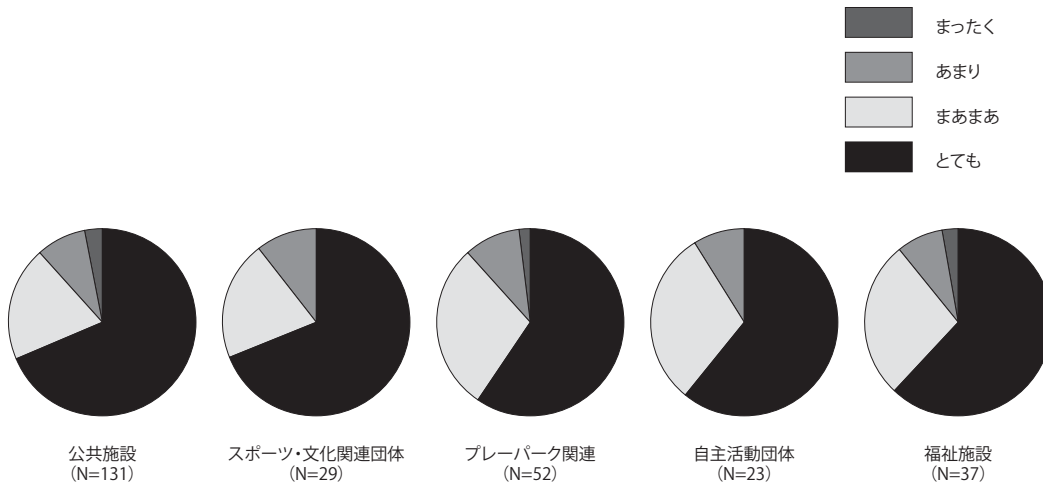


図2-69. 夢中になっていることがありますか？ 施設区分比較 (N=272)

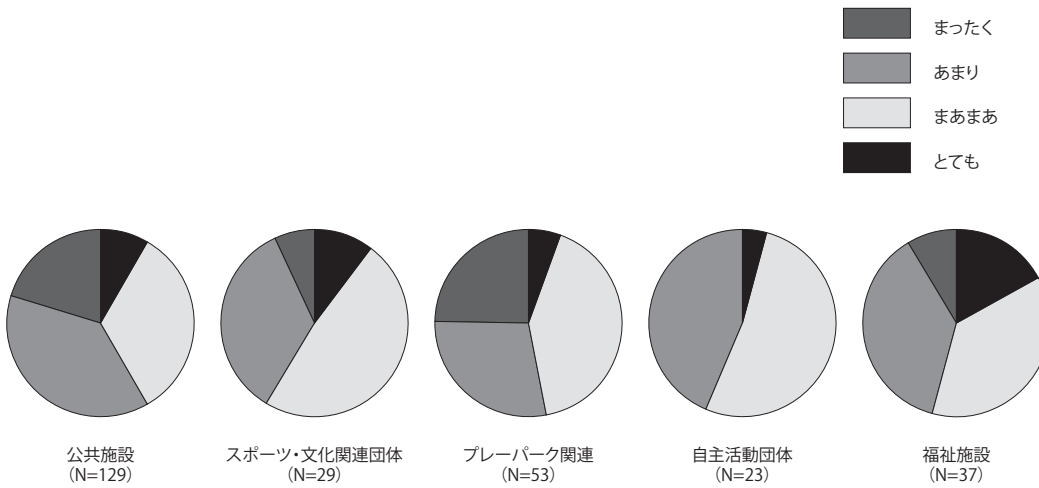


図2-70. 自分の意見が、今の社会を良くするために役立つと思いますか？ 施設区分比較 (N=269)

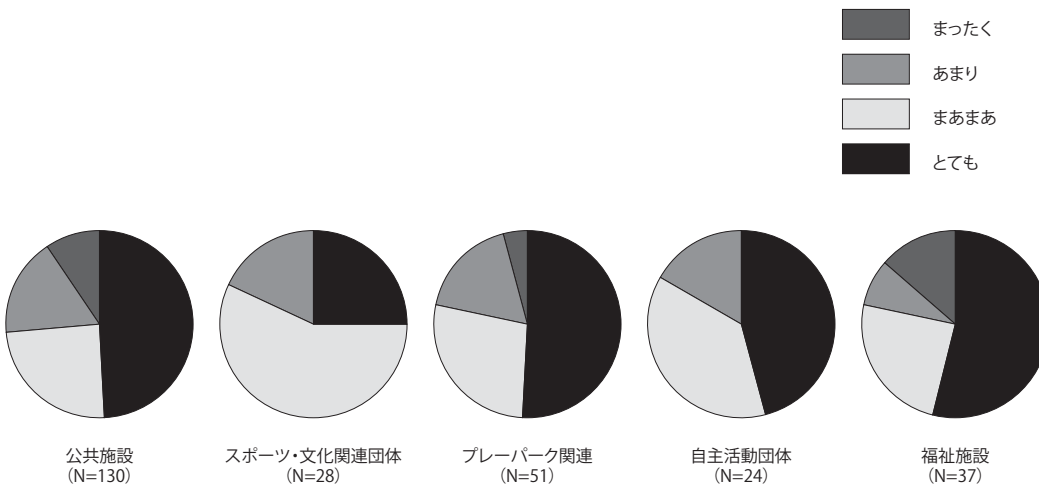


図2-71. 平日におもに過ごしている場所にはホットできる場所がありますか？ 施設区分比較 (N=270)

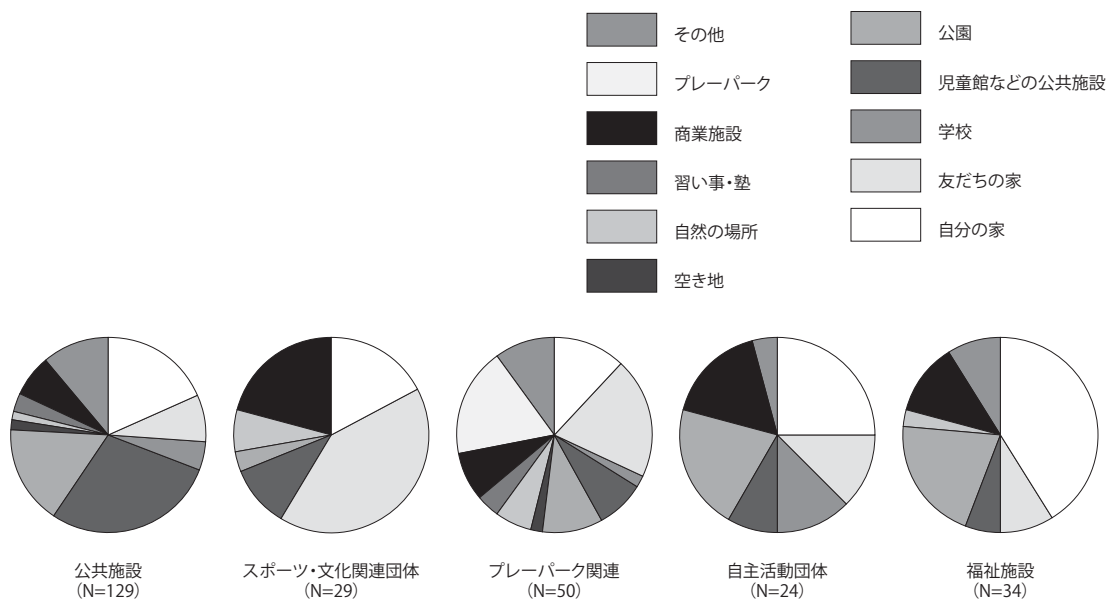


図2-72. 一番行くことが多い普段の遊び場はどこですか？
施設区分比較 (N=266)

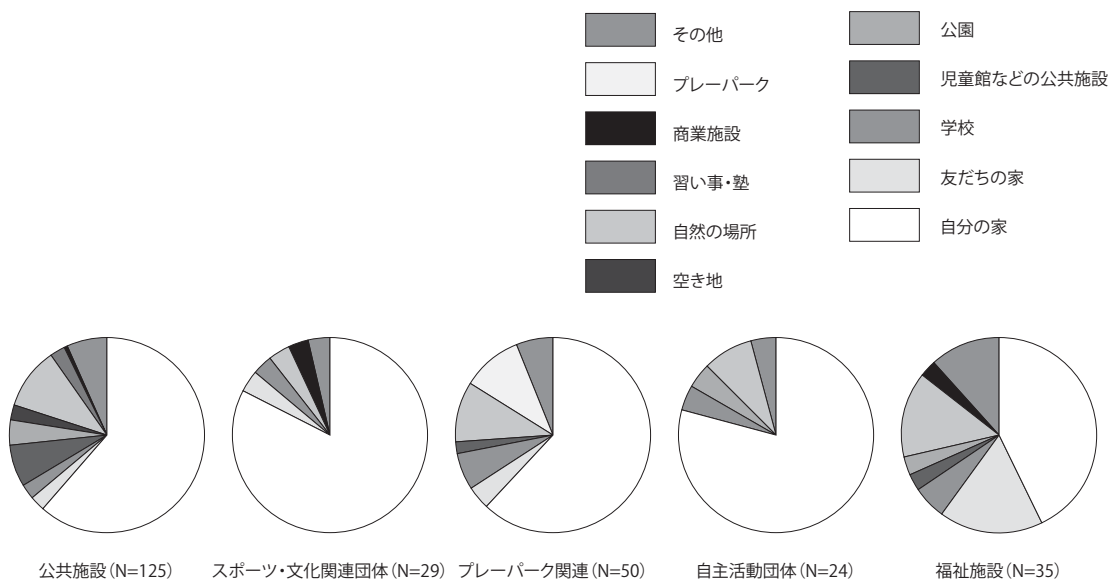


図2-73. あなたが一番ホッとできる居場所はどこですか？
施設区分比較 (N=269)

項目で、「自分のことを分かってくれない」では、「まったく思わない」と回答している割合が他と比較して最も多かった。「ホッとできる場所」では、自分の家（施設）をあげている子供が約43%であり、他の群と比較すると低い値だった。

自主活動団体、スポーツ文化関連団体の子供たちは「自分が好きだと思う」「よいところがある」など自己肯定感に関する項目で特に高い値を示した。また、自分がホッとできる場所としては、「自分の家」と回答している割合が他と比較して著しく高い傾向にあった。また、平日に過ごしている場所に「ホッとできる場所がありますか」という質問に対しては、他の群と比較して「とてもある」と回答する割合が低く、 χ^2 検定の結果5%水準で有意差があった。

図2-64の通りプレーパーク関連の子どもたちは「とても好き」という割合が低い傾向にあった。そこで、表2-2のように χ^2 検定を行った結果、1%水準で有意差があった。

表2-2「東京は好きですか？」プレーパーク関連と
その他の群との比較

	とても	まあまあ	あまり	まったく
プレーパーク 関連	13	33	2	2
その他	104	93	14	2

χ^2 値=11.89575714 自由度3
上側境界値(5%水準)=7.814727764
上側境界値(1%水準)=11.34486668

また、「一番行くことが多い遊び場」と「一番ホッとできる居場所」との関連については、プレーパークは9人中5人がホッとできる場所としてあげているが、公共施設では、37人中9人だけで、遊び場が、居場所として機能している割合が低かった。

2.8.1 子供へのヒアリング調査に対する考察

今回の調査では、さまざまな施設や団体を通じてヒアリングする子供を募った。多くは、施設によく来所していたり、団体の活動などに参加している子供であり、地域の中で自分の居場所を既に見つけ、活用していると考えられる。以下、考察を進めるが、前提として今回の調査対象は居場所があるという特別な集団であるということに最初に触れておきたい。

今回の調査は、東京都の次世代育成支援後期行動計画の進行管理に資するため現段階の子供たちの様子を把握することにある。その点では、第一に子供の視点という

ことに触れたい。行動計画については、その策定指針に基づき、必要なニーズ調査を行い、それを反映することとされている。しかし、今回のヒアリングで、多くの子供たちは、これまで大人に対してさまざまな意見を表明する機会がなく、楽しい体験だったと感想を述べている。ヒアリング自体が比較的スムーズにできた結果とも考えられるが、一方でこれまで必要なニーズ調査が行われてこなかった結果と考えられる。現在の社会を大人以上に客観的に見ている意見も多く、今後、次世代育成支援の行動計画が実行される中で、子供の声が社会に大きく反映されることを大いに期待したい。同時に、こうしたヒアリングが広く行われることで、子供たちのヒアリングの感想がかなり変わってくることが予測できる。

2.8.2 「東京が好き」について

「東京が好き」「嫌い」の理由については、さまざまな意見が語られたが、全体的な傾向として「好き」の理由は漠然としたイメージ的な理由が多くあげられており、「嫌い」の理由は、比較的体験に基づく具体的な理由が多かった。特に身の回りにいる大人のマナー違反などに対する反発は強い傾向にあった。

このことから、子供は、身近な大人の態度に日常から大きな関心を寄せており、その中で自分なりの価値観やロールモデルを子供時代を通して育てていっていることが分かる。子供の中に作られていく価値観の中には、肯定的に体験や観察を通して見たり感じたりしたことを大切にしたいというものと、「あのようにはなりたくない」という反面教師的なものに分かれた。それは、町の中で出会う通りすがりの人に対するものと同時に、身近な人に対して感じているものも多く見られた。

2.8.3 学校での生活について

学校については、90%を超える子供が平日には学校に通っていたが、理由としては、「友だちと会うことを楽しんでいる」ことが多く、「学ぶこと」や「大人（先生）に会う」ことを楽しみにしている割合は低かった。ヒアリングの中では、「学校が長すぎる」という声は各地で聞かれた。

「6時間授業が増えているので、家に帰るのが3時20分にはなってしまう、遊ぶ時間がほとんどないので、最低でも5時間までにしてほしい」

「4時間を増やしてほしい。全部4時間にして土曜もならいい」

などの声あげられていた。

学校の先生については、よい印象・悪い印象ともに、どのヒアリングでも数多くの声が出された。これは、当然のことではあるが、子供にとって身近な存在である証拠でもある。その中でも、「悪い印象」のキーワードとして多く出されたものは、

「話を聞いてくれない」
「子供の側が謝ればいいと思っている」
「勝手に決めつけられる」
「いい奴もいるのに、全部ひとまとめに見る」
「意見を言うと、すぐに言い返される」
「真剣にその人の将来を気にしていない」
「一時的な関わりだけの人」
「担任のところに進路の相談に言ったら、『今日はご飯を食べに行くから無理』と断られた」
「謝らなかつたら『謝れよ』と言ってくるのに、謝ったら『謝ってほしくないんだよ』って言うてる」
「生きてるんだからけんかして当たり前。けんかしてめっちゃ大声で叫んだら怒られた。休み時間にけんかして迷惑だから、静かにしろって」

だった。その他にも、かなり具体的に暴言や暴力を受けた事例が挙げられ、学校の先生とのやりとりの中で傷ついた経験を持つ子供が多いということが推測される。これは、先生の資質の問題にも見えるかもしれないが、先生が余裕を持って子供と接することが難しい学校の現状についても言えるのではないだろうか。高校生の中には、「教育改革をして、先生が子供と触れあえる時間を長くする」という声も出されていた。

他方で、よい先生に対する声も多く出た。これは、嫌いな先生についての声の裏返しとも言えるが、その中でも最も多かったのは「話を聞いてくれる先生」だった。これは、ただ単純に「聞いていさえすればよい」というよりも、「聴くことが上手な先生」ということだと思われる。好きな先生としては、

「子供を生徒っていう塊じゃなくて、1人1人見てくれる」
「先生をしている自分を楽しんでいる」
「(こちらが) 言ったことを直してくれる」
「時々怒って、優しい先生がいればいい。今の先生は笑ってるのに怒ってる」
「いい先生は、怒っている相手に対しても、いいところを見つけてることができる。悪い先生はそれが見えなくなる」
「子供が好きな先生はいい先生だね。子供が好きな自分がかわいいっていう先生とはちがう。」

など、単純なイメージだけではなく、具体的な体験を通

じた声が出されていた。

2.8.4 遊び場や居場所について

子供たちは「一番行くことが多い遊び場」は、自宅が最も多く、現在の子供たちの遊び環境があまり子供たちのニーズと合わずに、結果として貧困な環境になっていることが考えられる。そうした声はヒアリングでも聞かれ、小学生からは、「遊ぶ場所が少ない」という声が多く出されていた。

「公園にはベンチしかなくて、野球もサッカーもできない」
「児童館では小さい子が優先で、遊びたい遊びができない」

などの声が聞かれた。公園では、禁止看板の影響もあり、かなり徹底してボール遊びが制限されていると思われる。こうした現状について、

「小さい子がいるからダメというのは分かるけど、だったら場所を作ってほしい」

「外で遊べと言うなら、ゲームソフト会社はゲームを作らなければいい。自分の子どもには外で遊べと言う。」

「クラブに入って金払ってやれという話になってしまう。ただ遊びでやりたいのに」

「フェンスを取り外して、空き地を解放してほしい」

などの声もあった。また、遊べなくなっている〇〇上水については、次のような会話もあった。

「(〇〇上水は) 遊べるとこもあるけど、入っちゃダメって言われる。」

「ぼい捨てしたりする人が増えたからじゃないの？」

「『捨てないで』とか言っても、『何だと!』と言われる。」

「〇〇上水も子供に開放すれば、大人も気をつけるようになる」

全体的には、単に遊び場が少ないというだけではなく、子供の意見をとり入れて遊び場を作って欲しいという要望があったように感じる。既存の遊び場についても、自分たちは意見を述べることができずに、大人の意見だけで遊具などが設置されていることに反発があったように感じる。

中高生からは遊び場という声よりもどちらかと言えば居場所についての発言が多かった。特に、「中高生の居場所は、お金のかかるところしかない」という声は、中高生のいるヒアリング先では各地で聞かれた。

「カラオケボックス、ゲームセンター、ファミリーレストランなど、どこもお金がかかるところばかり」

「図書館は静かすぎておしゃべりができない」

「別に騒ぎたくもないし、ちょっとしゃべれるマンガ喫茶のような、お金がかからないところがいい」などの声が聞かれた。同時に、談話室やスタジオ、中高生タイムを設定している児童館やコミュニティセンターなどは、中高生から重宝されており、こうした場が「子供の話を聴いてくれる大人」「親や学校の先生以外の身近な大人」との貴重な出会いの場ともなっていた。しかしながら、児童館などは施設自体の機能だけではなく、そこで働く職員との関係も子供が居場所として選ぶかどうかに影響していた。

「学校の近くの児童館は、軽音部で使う時、『使わせてやっ
てるんだよ』という感じがある」

「近くの児童館は、職員の仕事しかしていないように見える」

「〇〇さんがいなかったら、児童館には来なかったかもしれない」

「児童館は知っている人がいなかったら来ない」

「児童館の館長、尊敬しています」

「自分は元ヤンで、未成年でバイク乗って、人をぶん殴って捕まった。児童館に来て変わった」

「館長は頼みごとされると断れない」

また、学校に居場所がない子供は、

「居場所がほしい。学校が嫌いなので、いち早く帰りたい。家にずっといると言われるし」

「趣味を見つけられる場所があるといい。部活もやっているけど、そこまで好きじゃない」

と話し、「学校でも家でもない場所」を求めていることが分かった。実際に公共施設である児童館などは子供たちの貴重な遊び場であり、居場所となっている状況もある。学校に居場所がないような子供や、生活基盤の弱い子供の来所もある状況があるのではないか。このために児童館の開館時間を求める声もあった。ただし、すべての公共施設がこうした役割を果たしていくためには、施設のスタッフの姿勢が重要であり、子供の声をしっかりと聴き、共感するという態度が重要になってくると考えられる。

子供たちはが「一番行くことが多い遊び場」と「一番ホッとできる居場所」との関連については、プレーパークは9人中5人がホッとできる場所としてあげているが、公共施設では、37人中9人だけで、遊び場が居場所として機能している割合が低かった。ヒアリングから推測すると、その要因としては「ルールなどを大人だけで決めてしまい、自分たちのニーズに合った利用ができない」ことが一つの要因だと考えられる。公共施設の場合、屋内であったり、複合施設だったりということもあり、さ

まざまな制限はあるのは事実だが、子供と向き合う姿勢を変えることで、より居場所として機能することが可能になると考えられる。

少数ではあったが、私立の学校の多い東京ならではの意見もあった。子供たちは「通学で時間がとられる」、「地元の子供たちとの交流機会があまりない」など理由から、「地元で友だちがいないので、地元のお祭りには行きづらい」と話していた。何か私立の学校に通う子供たちも、地元の子供と交流できるような施設、仕組みなども必要かもしれない。

2.8.5 地域や地域の大人について

子供は、町の中で出会う大人についても、敏感に観察していることがうかがえた。しかしながら、町の中の大人と会話する機会は多いようにはうかがうことはできなかった。それと同時に、そうした大人とのやりとりがある時には、ネガティブなものの方が多いように見受けられる。

「お店の店員が、大人に対する時と明らかにちがう」

「女子高生だというだけでナメられる」

「向こうからぶつかってきたのに、謝ったら舌打ちされた」

という声や、遊ぶ場所がないにも関わらず「木に登るな」と一方的に言われたなどの声が聞かれている。

マナーについては、ポイ捨て・つばはき・たばこ・電車の中での携帯電話・酒酔いなどについての声が多かった。中には、

「電車の中で電話をしている女子高生とそれを注意した大人が口論になり怖かった」

などの場面を目撃している子どももいた。その一方で、

「配達の人が声をかけてくる。鬼ごっこ中に混ぜてくる」

「宅配便の人とスケボーした」

「お菓子をもらった」

「旅行に行ってホテルの人の対応がよかった。接客業に就きたい」

「知らない人が隣で二重跳びしてて、教えて一って言って、できるようになった」

「子ども好きな人は優しい人が多い。自分の子どもじゃなくても叱ったり、怒るけど『お前のこと好きだぞ』と言ってくれたり」

など、直接の出会いが子供により影響を与えていることも分かった。ヒアリング先の中には、ホームレスの人の存在が身近にある地域もあった。そこでは、子供たちが

話しかけており、名前を知っているだけでなく、その人と成りについての細かい情報を友だちと共有していることもあった。

経済的な安定については多くの子供たちが話題にしており、「ホームレスやニートにはなりたくない」という声がどこのヒアリングでも多く聞かれた。その一方で、中学生・高校生くらいになると、「ホームレスは、なりたくてなっているわけではない」「中には、いい話をしてくれる人もいと聞いた」などのように、単純にマイナスイメージだけでとらえるのではなく、社会状況も含めて考えを語る子供もいた。彼らがこうした意見を持つに至ることができたのは、やはり周囲の先輩や大人などからの情報による影響も大きいと思われる。また、中には「自分たちがホームレスを十把一絡げに考えてしまうと、先生が自分たちを個別に考えてくれないのと同じことをしてしまっていないか」という議論も出されていた。

また、今回のヒアリングでは、「大人には、話を聞いてもらえない」という声が多かった。これは、学校やまちの中で大人を前にした時、「どうせ発言しても意味がない」という姿勢を子どもが持つてしまうことにも大きくつながっていると思われる。

「言っちゃ派の意見は皮肉なことに、たいてい受け入れられない。言えない派の意見の方が受け入れられる。」
「なんて言われるか分からないし、どうなるか分からないから、みんな陰で言ってる」

「大多数の生徒が先生が悪いと思ったとしても、先生に「先生が悪いのか」と聞かれると、誰ひとり手を挙げない」

「教える時はもちろん上だけど、子どもに意見を聞く時は下になるべきだ」

子供から大人への相談については、大人の側がうまく応じられていないケースも各地で聞くことができた。しかしながら、大人側の姿勢が同じであっても、子供がどのように聞いてほしいかによって賛否両論があり、難しさもうかがえる。

「知らない人には軽く言われたくない」

「何も知らない人の方が話せる」

「相談はあまりしない。自分で調べて知ろうとする。あまり成功しないけど、後悔の方が多いけど」

「必要な時だけ言ってほしい。自分がこれをやると決めたのに、そういう時は見守ってほしい。受験とか心配だし、助けてほしい時に相談に乗ってほしい」

「時々、お母さんとかおばあちゃんに言うけど、経験談を語られて終わっちゃう。そこじゃないでしょ。聞いてよ、になっちゃう」

「あいまいな返事がない方がいい。親身じゃなくても、深く考えられたりしても嫌になるから」

「立場を踏まえた受け答え。先生としての意見を言ってほしい。他人として」

「先生、体弱くて透析してるけど、透析の日に相談して時間になっても聞いてくれる」

「相談できる先生がいない。学年主任の人は人気で列ができちゃうから、相談しに行けない」

「話を聞いてくれる大人は親以外はいない」

子供たちも話すことで安心感を得たり、ストレスを解消できることもあり、まずは大人が子供の話を真剣に聴き、受け止めることが大切だと考えられる。

子供たちはさまざまな場面で異年齢を意識し、お互いにさまざまな影響を受けていることが分かった。特に、中高生は、小さい子供とその親の姿を見た中で、その姿を自分の幼少のころと照らし合わせて、さまざまなことを感じていた。

「小さいころから決められた道筋を歩いてきたからこそ、違うことをするのが面倒くさいと思ってしまう。新たなことをやろうとしないから」

「小さい子って、何でも興味を持ってやるのに、大人が何でも止めちゃったりしちゃうから、子どもの発想をそのままにしてあげれば、子どものやりたいようにやらしてあげれば、面倒くさいと思わなくなる」

「努力しても意味ないよと言われてしまう。当たり前を当たり前と思わないでほしい」

「勉強じゃなくて、経験しないと分からないから、実際に自分の目で見ないと分からないこともいっぱいある」

「よい方向に成長できる、考えられる人が少ない。そのまま成長しちゃって、それをまた子どもに教えちゃうから、よいことを教えられない」

地域の中で、異年齢の交流場面があることは、子供たちの育ちに大きな影響を与えていると考えられ、自分の幼少を振り返り、自己を確立していく上で貴重な体験となると考えられる。

2.8.6 児童養護施設のグループホームについて

少数ではあったが、児童養護施設のグループホームで暮らす子供たちにもヒアリングを行った。

「子どもだけの時間がほしい」

「1人部屋があるからいい」

「食べ物がおいしい」

「いっぱい買い物ができる」

「寝てても周りに人がいて安心する」

「大勢だとむかむかする」

などの声があった一方で、規模の大きい養護施設から移動してきた子供の中には、「本園がいい。男子が少ない」などの声があがることもあったが、概ね、家庭的養護の環境に満足している子供が多かったように推察する。

アンケート調査でも、児童館などの公共施設に来所する子供たちとほぼ同様の傾向にあったが、「自分のことを分かってくれない」という設問では、「まったく思わない」と回答している割合が他と比較して最も多かく、施設のスタッフがさまざまな形で支援していることを肌で感じている様子が伺われた。

2.8.7 全体的な考察

今回のヒアリングでは、多くの子供から数多くの声が出された。しかし、どのヒアリングにおいても開始当初は、子どもたちは自分の話すことが否定されないか、求められている答えになっているのかと探っていた様子だった。ヒアリングの途中で、一見ふざけたように聞こえる子供の意見を、ファシリテーターがきちっと受けとめたことをきっかけに、雰囲気になごみ、数多くの声が出されるようになった。これは、普段から、「自分の意見を言っても、どうせすぐに言い返される」「子供だからといって、どうせ取り合ってくれない」「勝手に決めつけられる」「話を聴いてくれない」という経験を繰り返している子供が多かったこととも関係しているのではないだろうか。中には、よい先生との出会いから、ちがう感覚を持っている子供も各地で見られたが、そうした子供の数は、決して多数ではなかったように感じる。

「社会全体で子育て」という点では、なかなか現状は難しい状況にあるのではないだろうか。自分が親になるという点については、「子供がほしい」「お父さん（お母さん）になりたい」「お父さん（お母さん）みたいになりたい」などの声が出された一方で、高校生などからは「結婚したくない。大変。子供ができちゃったら大変。無理。子供は好きだけど、お金かかるし」という声も出されていた。子供が成長していくという上では、「悪いことをしている子供を叱る」「マナーを守らせる」「他人に配慮する」という教授的な側面が重要であることに変わりはないが、「お手本となる人」「影響を与えてくれる人」「話を聴いてくれる人」「子供に冷たくない人」という共感的な存在の大人の存在もかなり重要であることが、ヒアリングを通して見て取れたのではないかと考える。しかしながら、前者の教え込み型の大人との関わりは重要視されている一方で、共感型のロールモデルとし

て出会う大人の存在は、子供の暮らしの中にはまだまだ少ないのではないだろうか。

第3章 乳幼児を持つ保護者を対象とした調査

3.1 乳幼児を持つ保護者へのヒアリング概要

対象：東京都内に住む、未就園児のいる家庭の保護者

人数：121名

属性：地域子育て支援拠点に來所している保護者

場所の選定：基本的には子供と同様の条件を配慮しながらヒアリング場所を選定した。

倫理的配慮：この調査における倫理的配慮として、受け入れ施設・団体を通じて参加者に対して調査の実施依頼を行い、同意のもと調査を実施した。

ヒアリング調査：原則として5～8名程度のグループヒアリングとした。ヒアリングには当団体のスタッフのほか、受け入れ施設・団体の担当者にも基本的に同席していただいた。また、調査の雰囲気できるだけ和らげるために、飲み物、お菓子などを準備し、調査の支障にならない程度に、食べたり、飲んだりしながら行った。可能な限り別室に保育体制を設け、団体の意向や会場の都合で別室が難しい場合にも、同室保育を用意し、できるだけ保護者がヒアリングに集中できる環境を整えた。

ヒアリング時間：約90分(質問紙への記入・オリエンテーションを含む)

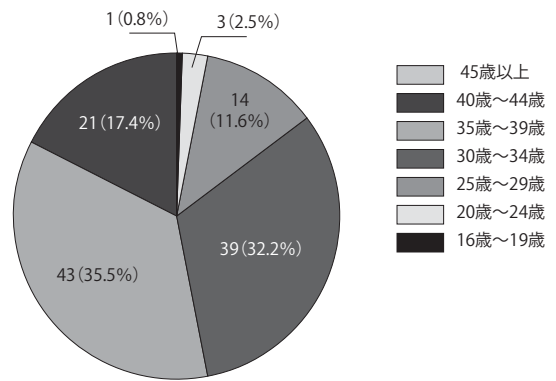


図3-2. 対象者の年齢 (N=121)

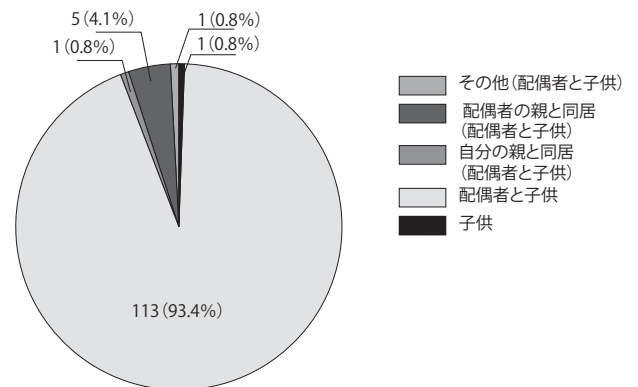


図3-3. 現在一緒に住んでいる方、全員を選んでください (N=121)

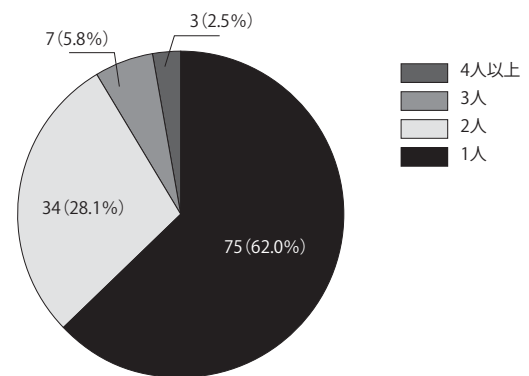


図3-4. 子供の人数 (N=121)

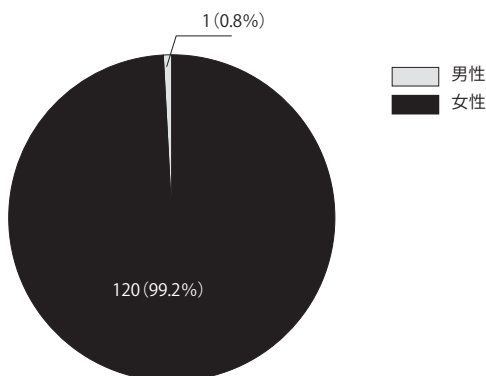


図3-1. 対象者の性別 (N=121)

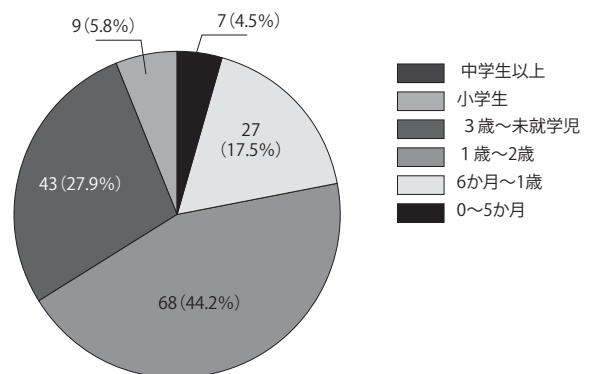


図3-5. 子供の年齢 (N=121)

表 3-1. 乳幼児の保護者のヒアリング先

No.	日付	ヒアリング先	地域	人数
1	2月3日(木)	(1) -1	世田谷区	8
	2月24日(木)	(1) -2		8
2	2月8日(火)	(2) -1	江戸川区	6
	2月8日(火)	(2) -2		6
3	2月10日(木)	(3) -1	新宿区	8
	2月10日(木)	(3) -2		6
4	2月14日(月)	(4) -1	八王子市	6
	2月14日(月)	(4) -2		7
5	2月21日(月)	(5) -1	練馬区	5
	2月21日(月)	(5) -2		8
6	2月25日(金)	(6) -1	杉並区	6
	2月25日(金)	(6) -2		9
7	2月26日(土)	(7) -1	荒川区	4
	2月26日(土)	(7) -2		5
8	2月28日(月)	(8) -1	青梅市	9
	2月28日(月)	(8) -2		4
9	3月7日(月)	(9) -1	府中市	6
	3月7日(月)	(9) -2	府中市	6
10	3月8日(火)	(10) -1	港区	6

3.2 乳幼児を持つ保護者へのヒアリング手順

事前準備

施設・団体から調査の受け入れについての回答をいただいた後、実際に現地に TOKYO PLAY のスタッフが伺い、受け入れ団体の担当者に調査の趣旨や手順などを説明した。併せて、保育についての打ち合わせ、保育を実施する子供たちの日常の様子などを情報についての聞き取りを行った。

当日の手順

- ① 保育の受け入れ（別室の場合）
- ② オリエンテーション: TOKYO PLAY のスタッフの紹介、この調査の趣旨、倫理的配慮、スケジュール説明などを行った。
- ③ 質問紙への記入: ヒアリングの内容を補完するための質問紙への記入を依頼した。（資料 2 参照）
- ④ アイスブレイク: 自己紹介をかねて、ポストイットに名前、出身地、東京へ来てからの年数、今住んでいるところで子育てして何年かを記入し、お互い紹介があった。
- ⑤ ヒアリングの約束: 「ここでの話は個人が特定される形で外部には出ない」、「話したくないことは話さな

くてもよい」ということを伝える。

- ⑥ 「今の子供の環境について／10年後どうあってほしいか」、「一時預かりについて」、「子育て支援センターなどの施設の利用について」、「産前産後に関して／心の健康／妊娠中の過ごし方」、「子供の健康と発達／相談する人は?」、「パートナーシップ／ワークライフバランス」の6つのテーマに区切り、それぞれにヒアリングを行った。
- ⑦ 最後のヒアリング項目として「社会みんなで子供を育てる」といったことについて、実感を聞いた。
- ⑧ ヒアリング終了後、今回の結果は、責任を持って東京都に提出し、子育て当事者の声が少しでも施策に反映されるように努力することを約束し、調査を終了した。

記録

ヒアリング記録については、ヒアリング雰囲気あまり影響を与えない位置で、当団体のスタッフが記録をとるとともに、それを後日補完するために、参加者の許可を得た上で、ICレコーダーでの録音、ビデオカメラで撮影を行った。

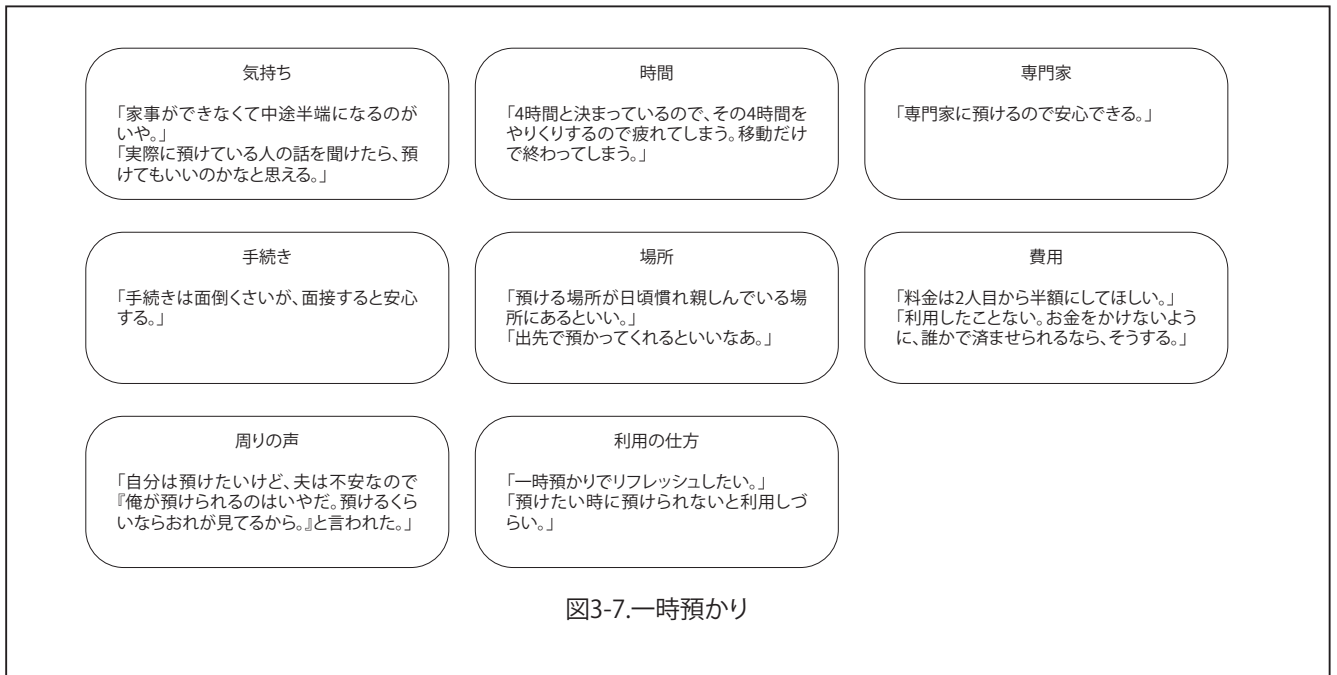
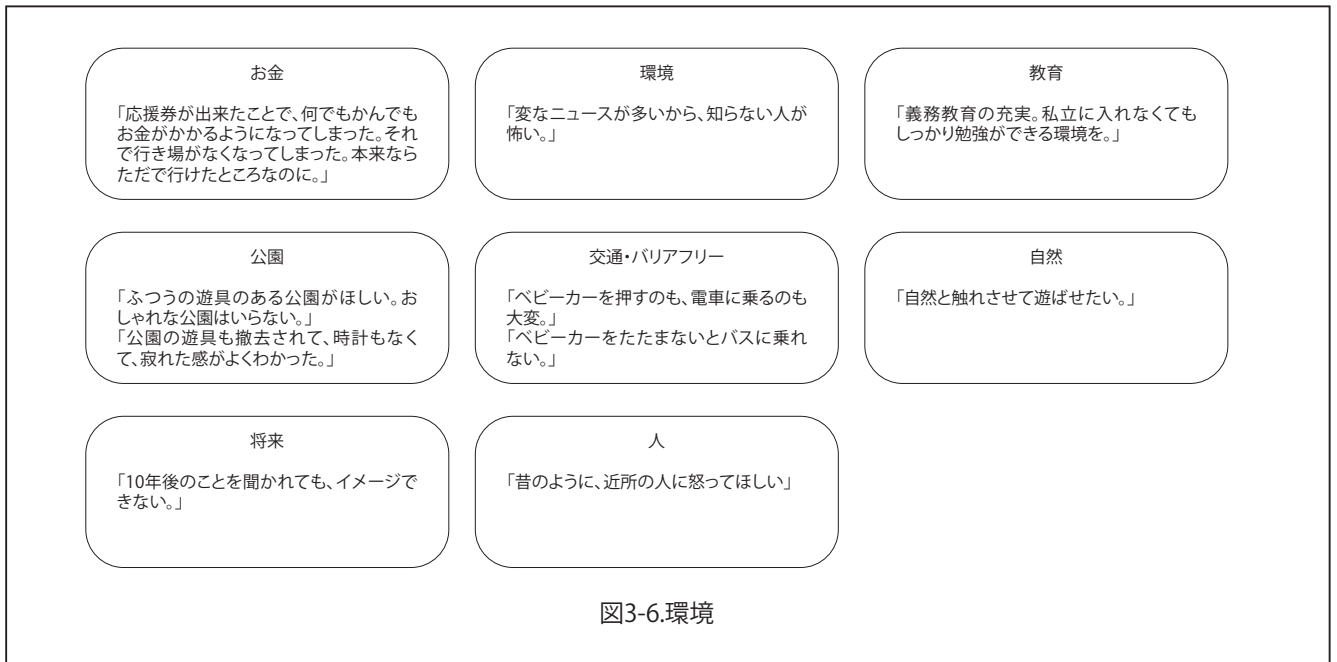
3.3 乳幼児を持つ保護者へのヒアリングの結果

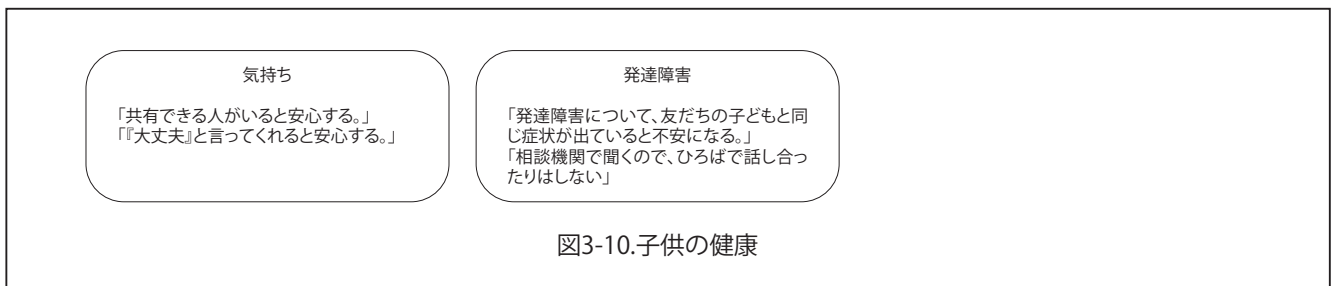
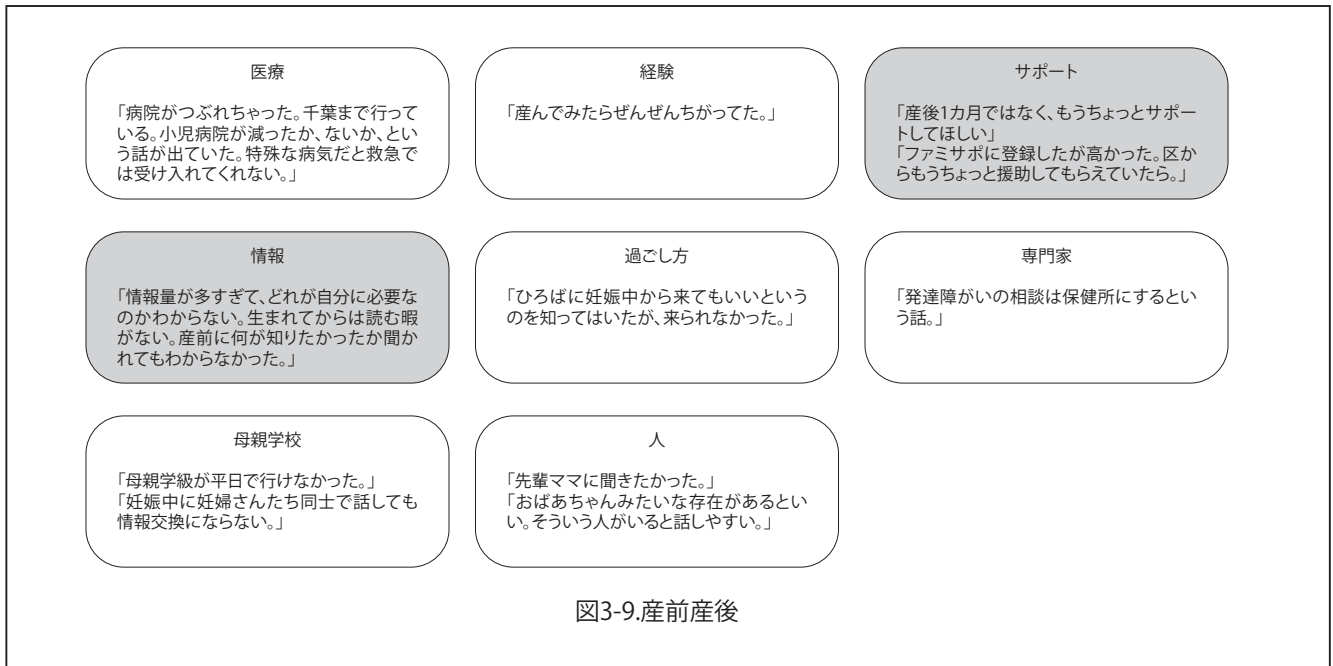
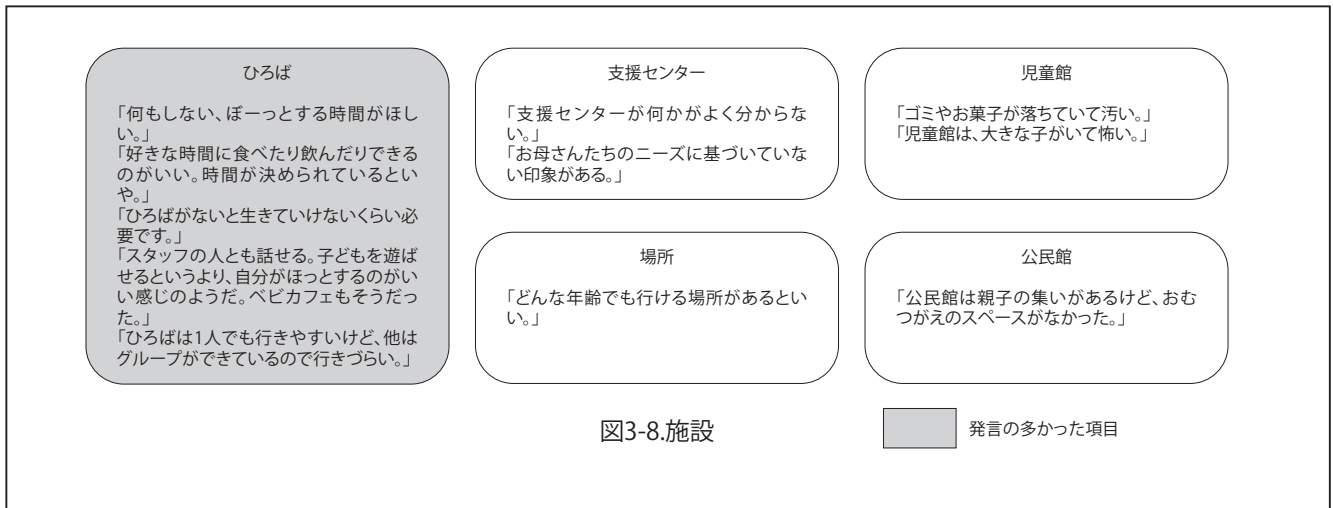
ヒアリングについては、手順にもあるように、①今の子供の環境について／10年後どうあってほしいか、②一時預かりについて、③子供家庭支援センターなどの施設の利用について、④産前産後に関して／心の健康／妊娠中の過ごし方、⑤子供の健康と発達／相談する人は?、⑥パートナーシップ／ワークライフバランス、⑦みんなで子育てという項目ごとに聞いた。そこで、それぞれに項目について、どのような発言があったのかを、意味内容の類似性に基づいて分類した。以下が発言の内容を分類したものである。

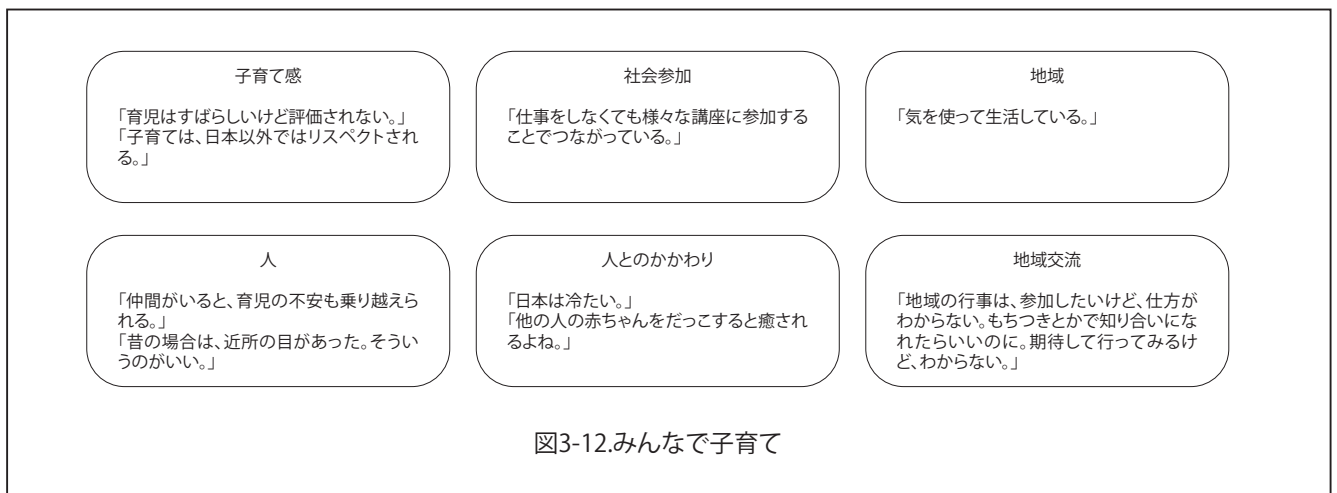
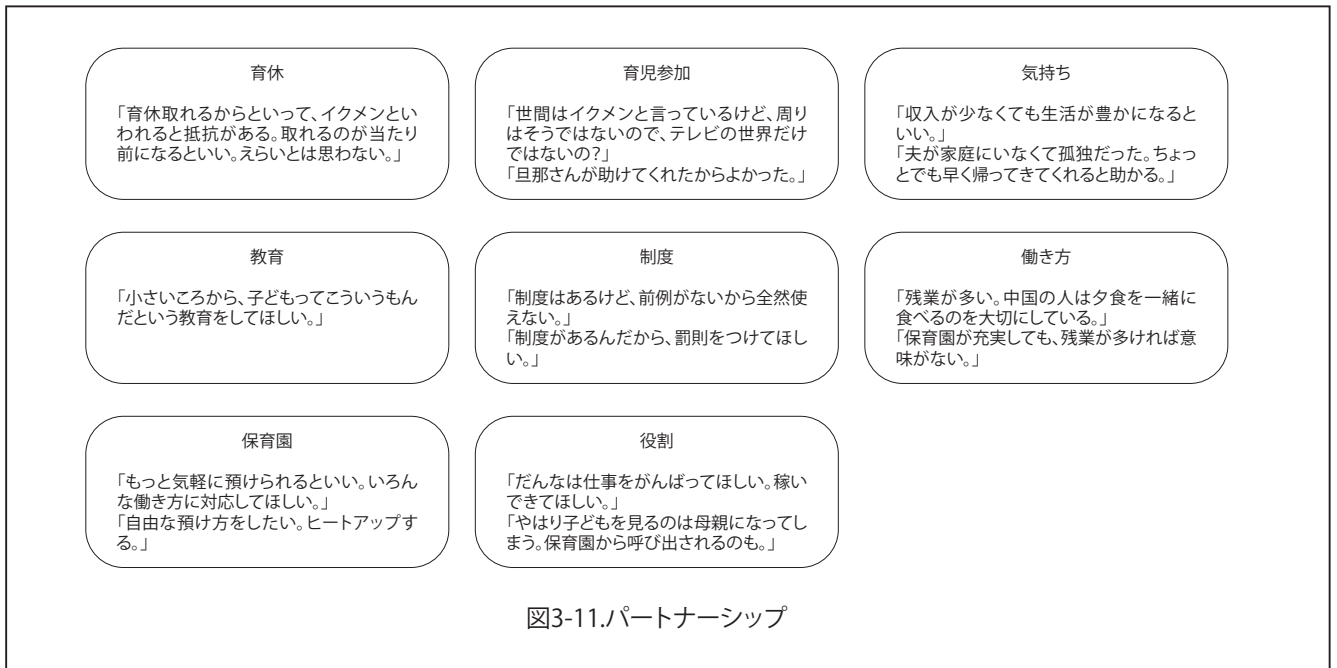
図 3-6 は「今の子供の環境について／10年後どうあってほしいか」についての語られた内容である。イメージすることが難しい質問であったためか、学童期の子供の生活環境などに対する発言はほとんどなかった。ただし、公園の整備や、外出の際などのバリアフリーに関する要望などは多くあがっていた。

図 3-7 「一時預かりについて」は、手続きの煩雑などを指摘する声が多くあがったが、家族からの反対があり利用しづらいなどの声もあった。

図 3-8 「施設」については、子育てひろばの有用性を認める発言が突出して多く、さまざまな場所を試しながら自分にあった居場所を探している様子が見て取れた。







一方他の施設については批判的な発言が多かった。

図 3-9 「産前産後」については妊娠中と産後との情報に対する姿勢がまったく異なる様子がよく発言に出ていた。妊娠中はやはり子供を産むまでの情報を必要とし、産まれてから必要な情報まではなかなか想像することができていない。逆に、子供を産んでからは、十分な情報を得るための時間がないと語っていた。

図 3-11 パートナーシップについては、配偶者が子育てを担ってくれることはありがたいと感じているが、現実としてはワークライフバランスなどを考えることはなかなか困難で、「配偶者は仕事をして、お金を稼いでくれるから」とあきらめ感を匂わす発言もあった。

3.4.1 乳幼児を持つ保護者への質問紙調査の結果

(単純集計)

以下に、ヒアリングと同時に行った乳幼児の保護者への質問紙調査の単純集計を示す。

図 3-29 「子育てに生きがいと充実を感じる」、図 3-30 「子育てが心から楽しい」という質問に対しては「ときどきそう思う」を含めると、ともに 90%を超えている。しかし、図 3-31 「子育てが辛い・負担に感じる」は肯定的回答と否定的回答が半々になっている。

「子育ては大切な仕事である」については、「ときどきそう思う」を含めると、90%を超えているが、それに対して大切だと社会的には認められていると感じる割合は低くなっている。

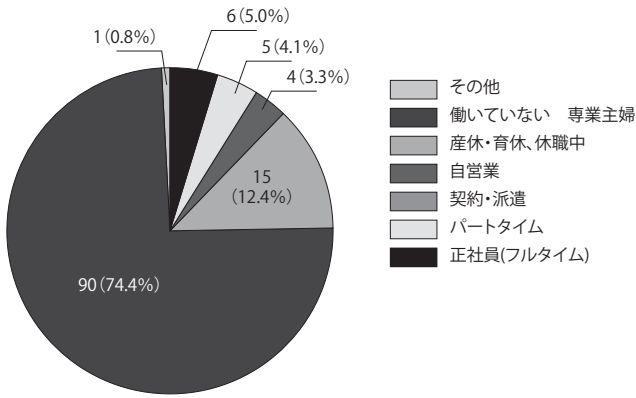


図3-13. 対象者の就業状況 (N=121)

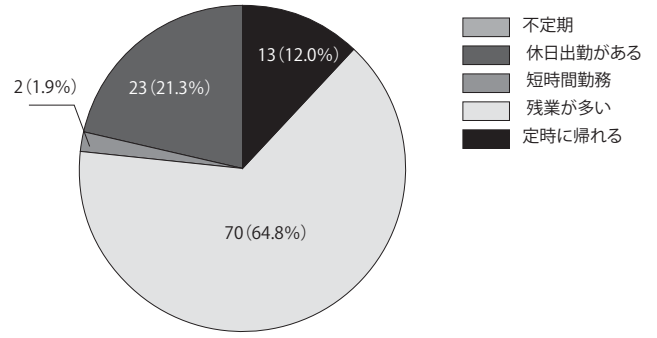


図3-17. 配偶者の働き方
産休・育休、休職中・専業主婦を除く (N=108)

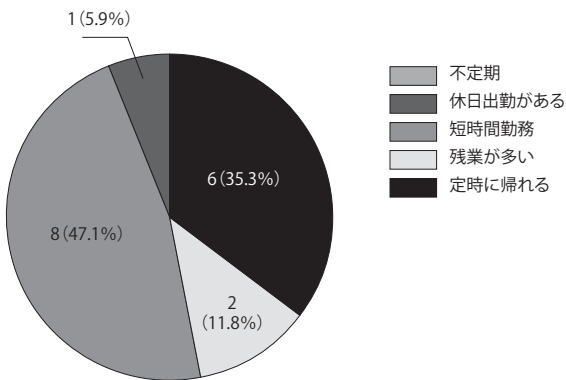


図3-14. 対象者の働き方
産休・育休、休職中・専業主婦を除く (N=17)

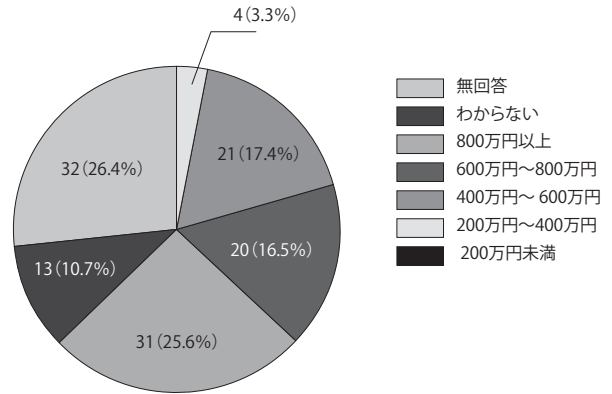


図3-18. 対象者の世帯収入 (N=121)

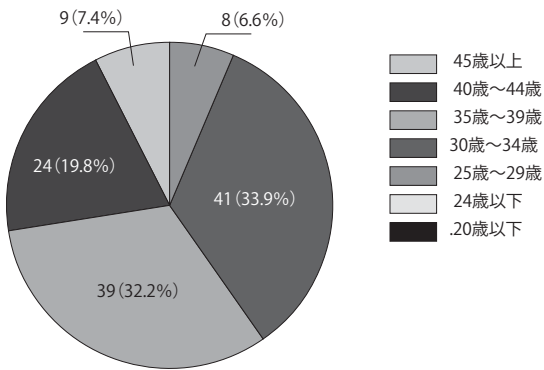


図3-15. 配偶者の年齢 (N=121)

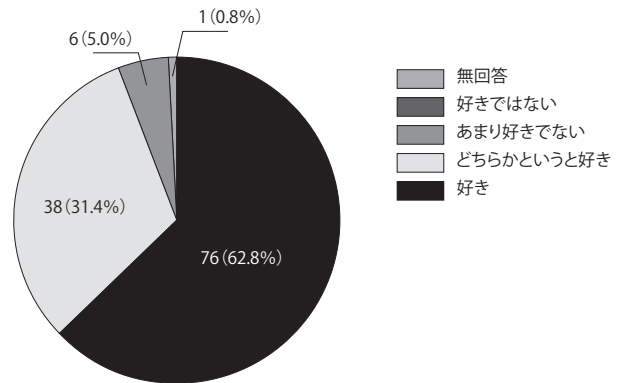


図3-19. 東京は好きですか? (N=121)

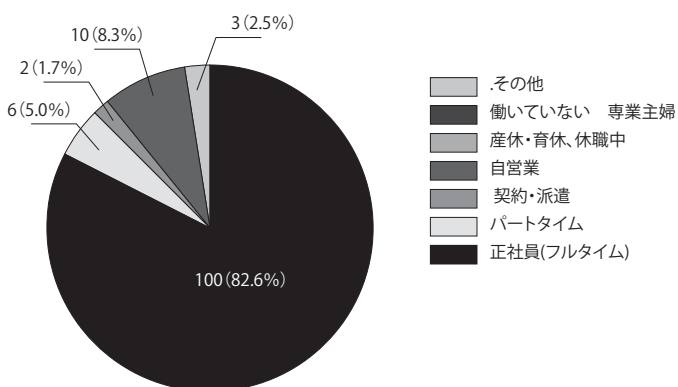


図3-16. 配偶者の就業状況 (N=121)

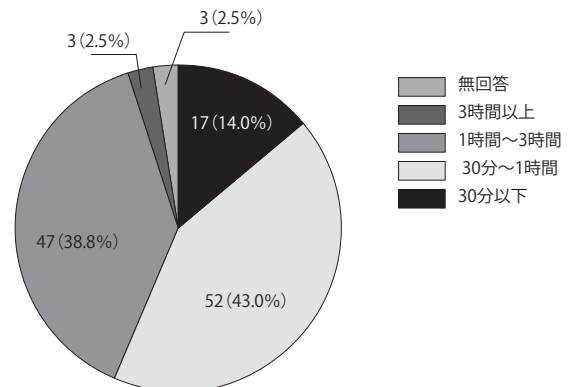


図3-20. 日中自分で使える時間 (N=121)

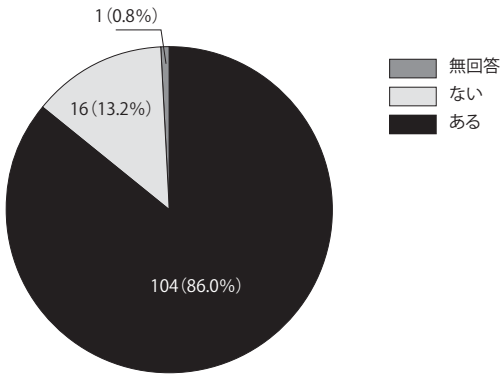


図3-21. 日中ほっとできる場所 (N=121)

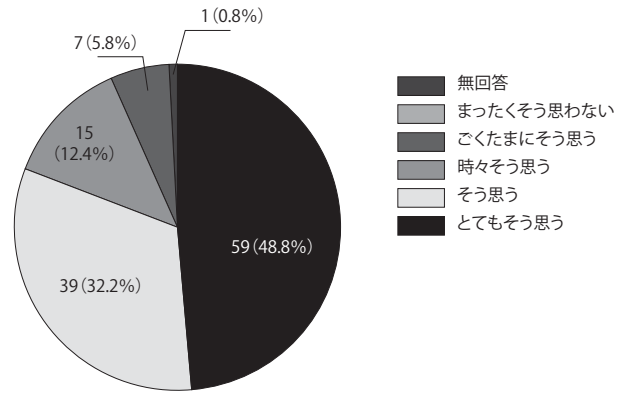


図3-25. 自分のことを大好きだと思っている人がいる (N=121)

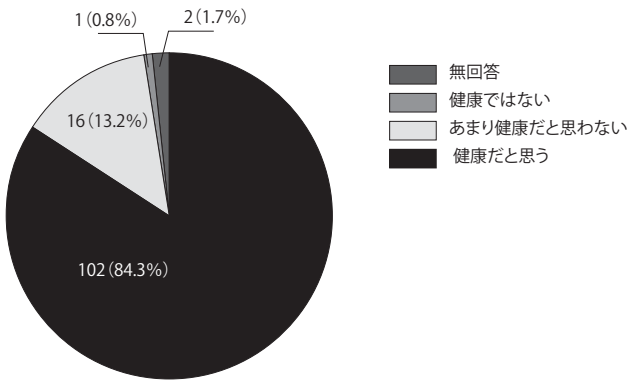


図3-22. 健康状態について (N=121)

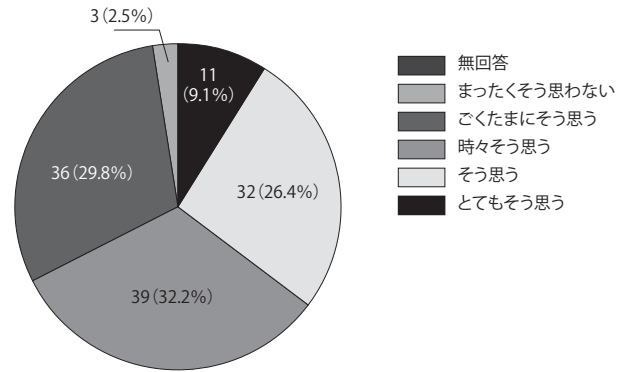


図3-26. 自分には能力や可能性がある (N=121)

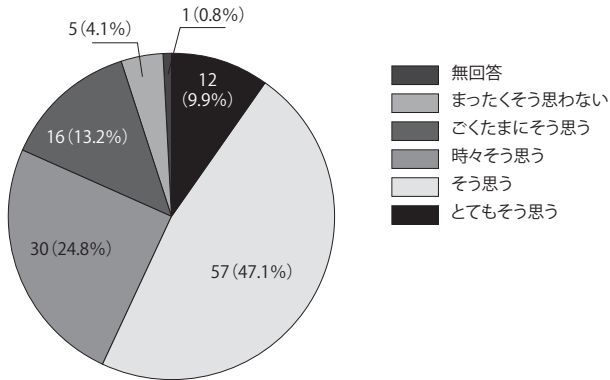


図3-23. 自分のことが好き (N=121)

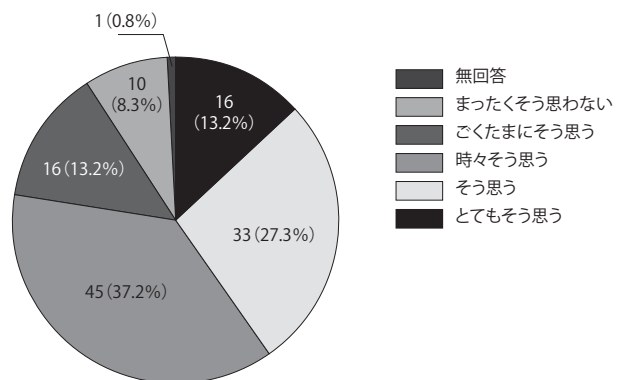


図3-27. 他の親が自分よりも上手に子育てしている (N=121)

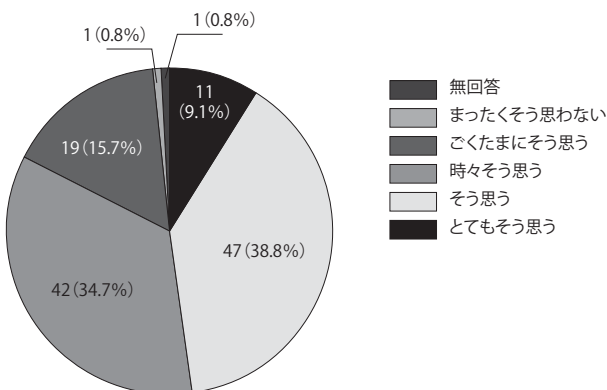


図3-24. 自分に良いところがあると思う (N=121)

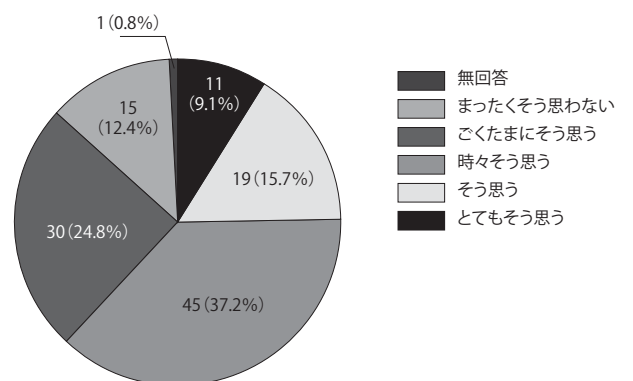


図3-28. 同世代の同姓は私よりも生き生きしている (N=121)

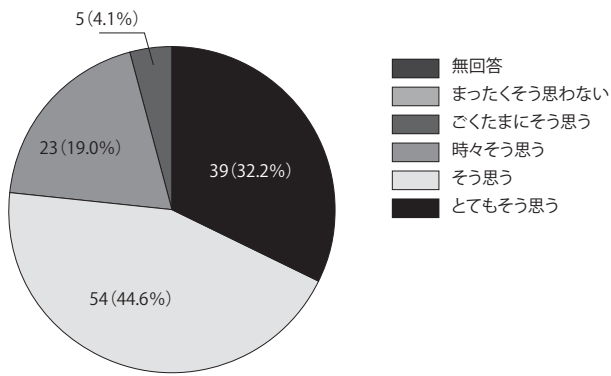


図3-29. 子育てに生きがいと充実を感じる (N=121)

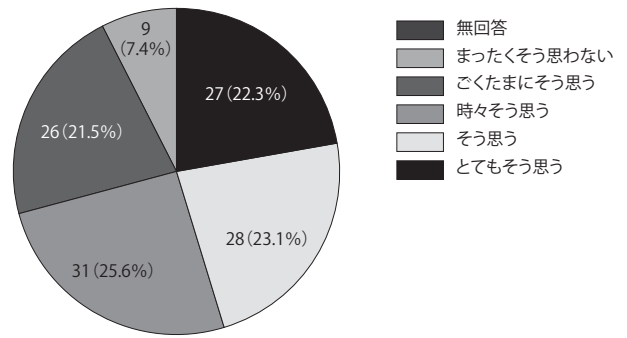


図3-33. 子育てに追われて時間がない (N=121)

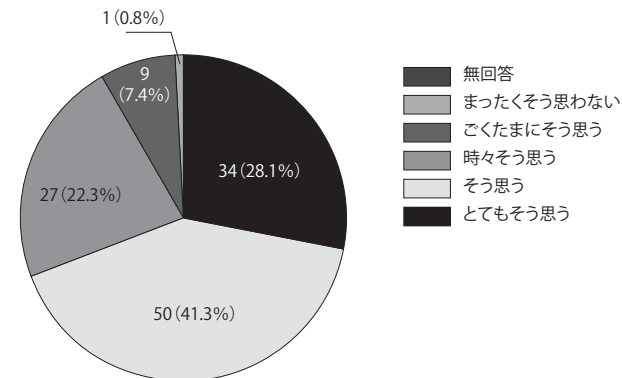


図3-30. 子育てが心から楽しい (N=121)

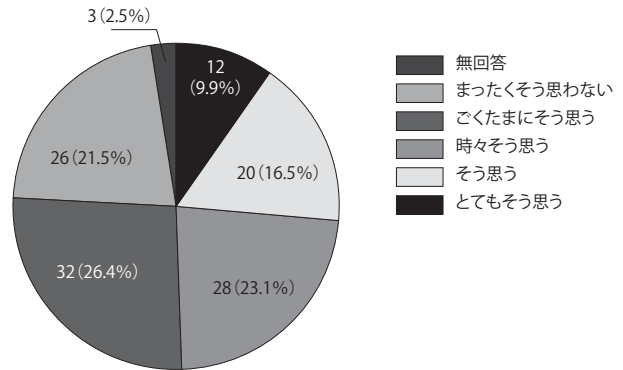


図3-34. 子どもの鳴き声や騒音で近所の人が気になる (N=121)

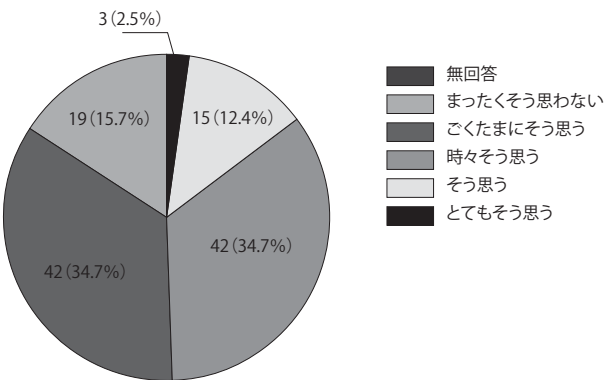


図3-31. 子育てがづらい・負担を感じる (N=121)

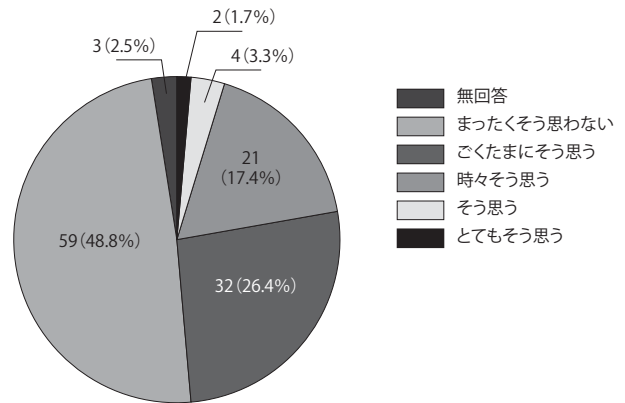


図3-35. 子育てをされていて家族以外の付き合いが煩わしい (N=121)

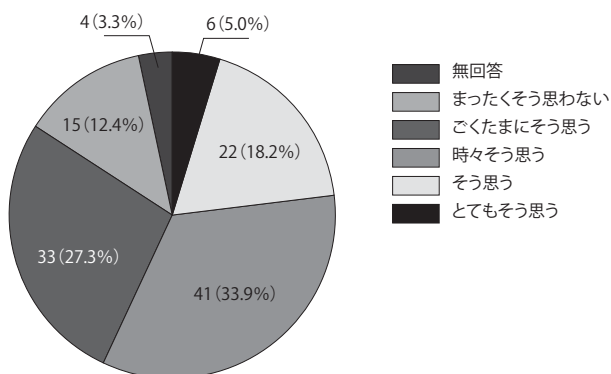


図3-32. 人の子育てが気になる (N=121)

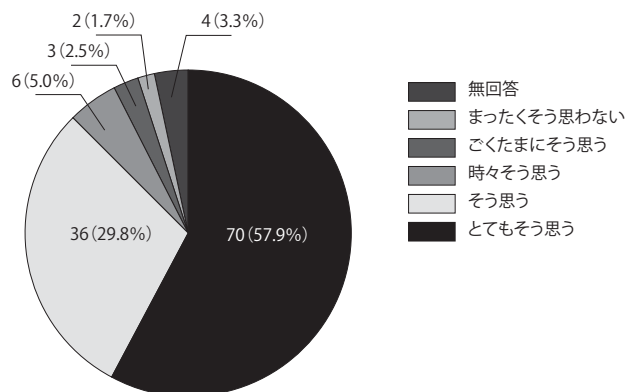


図3-36. 子育ては大事な仕事である (N=121)

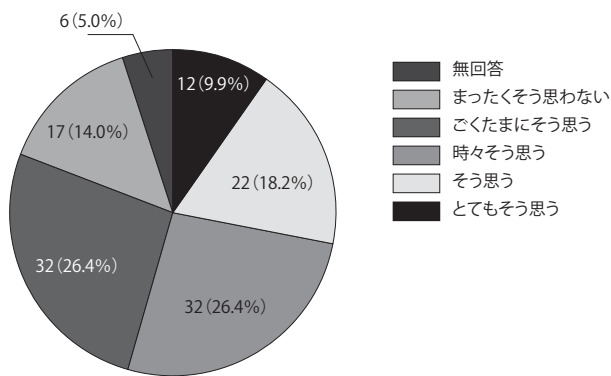


図3-37. 子育ては大事な仕事であると社会から認められている (N=121)

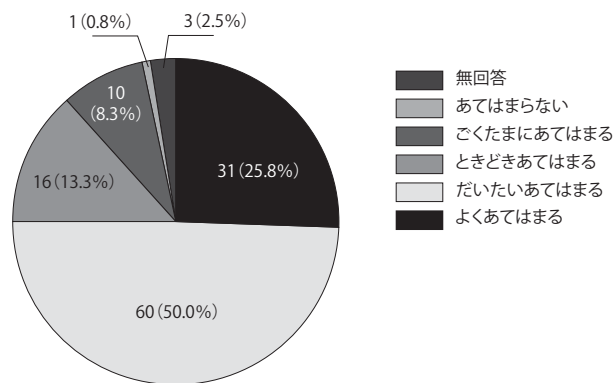


図3-41. 夫(妻)という時が一番つるける (N=121)

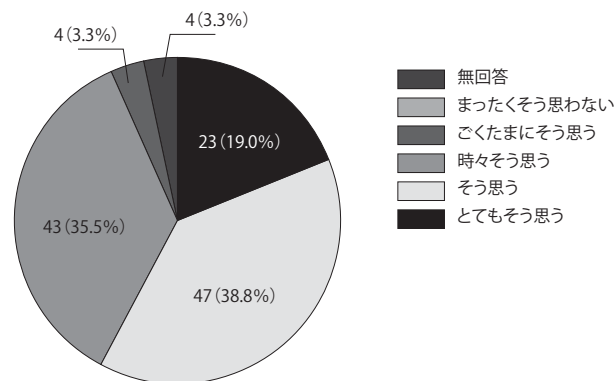


図3-38. 地域の活動は自分に関係ある (N=121)

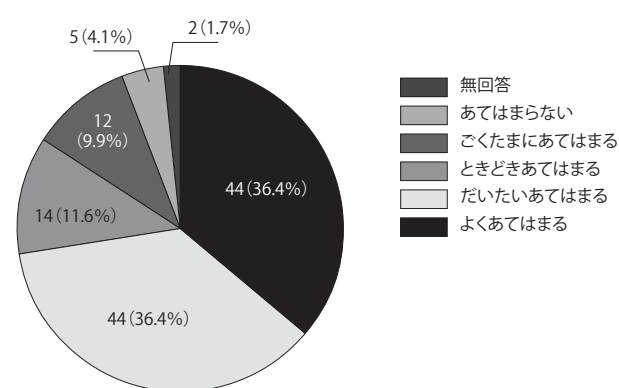


図3-42. 夫(妻)は悩みや不満をよく聴いてくれる (N=121)

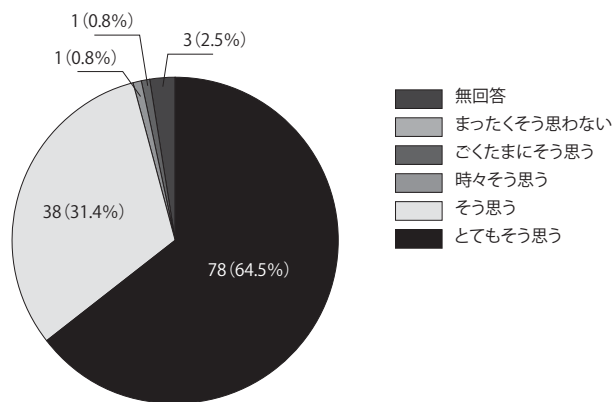


図3-39. 近所の人と挨拶することは必要 (N=121)

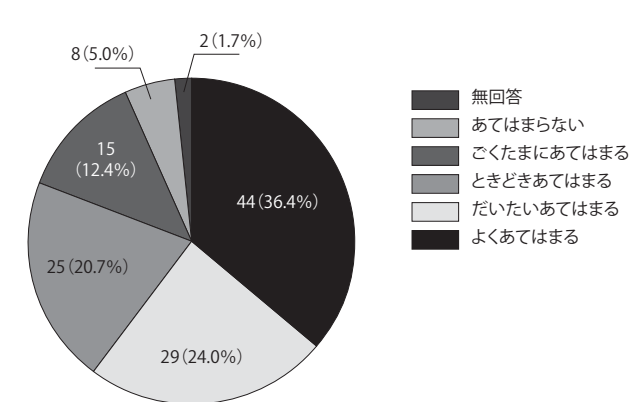


図3-43. 夫(妻)と私は家事・育児を助け合っている (N=121)

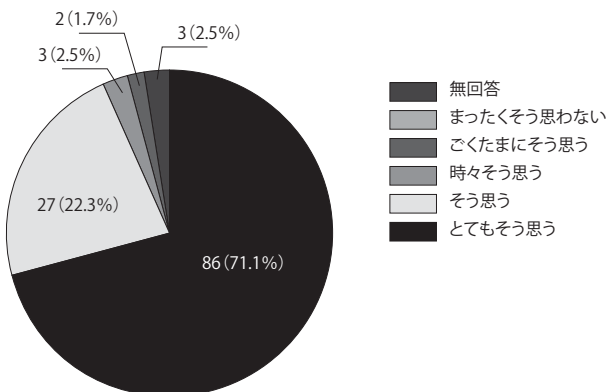


図3-40. 困った時に相談する人が地域にいると良い (N=121)

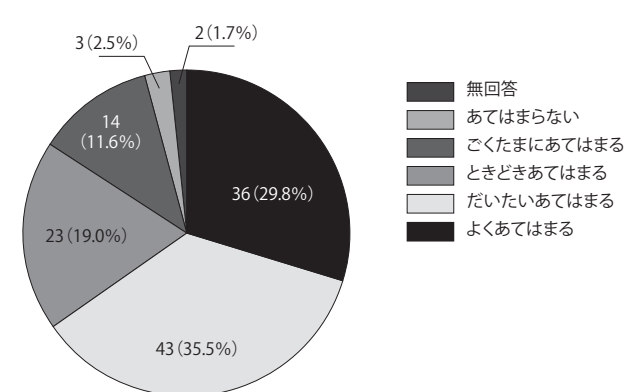


図3-44. 夫(妻)と仕事や趣味など子育て以外の話をよくする (N=121)

3.4.2 専業主婦と正社員・育休中の比較および 配偶者が悩みを聞いてくれる群とその他の比較

(クロス集計)

次に、就業形態で専業主婦と正社員・育休中の2群に、また配偶者との関係で、悩みを聞いてくれるとくに思っている群とそれ以外の群との2群に分類していくつかの項目を比較したものを示す。

専業主婦と正社員・育休中では、図3-48「子育てを楽しむ」と感じている割合は、正社員・育休中が高い傾向にあった。一方で、正社員・育休中は、図3-49「子育てが辛い」、図3-52「他の親の方が子育てが上手」と感じている割合が高い傾向にあった。また、図3-54「子育てが社会に認められている」という項目では、正社員・育休中が「そう思う」という割合が低く、5%水準で有意差が認められた。

配偶者が悩みを聞いてくれると感じている群とその他の比較では、あまり差がなかったが、自己肯定感についてはやや悩みを聞いてくれる群が高い傾向にあった。

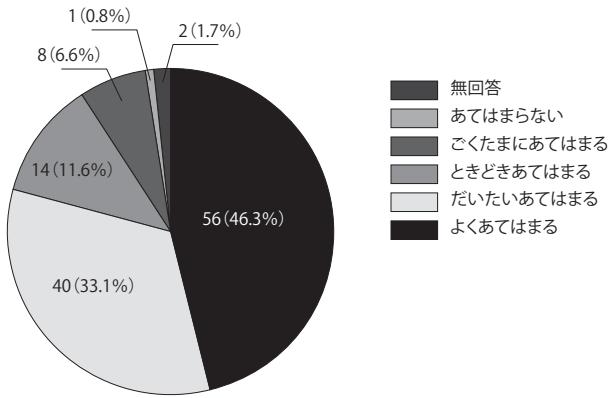


図3-45. 夫(妻)とは喧嘩をすることも互いに許し合える (N=121)

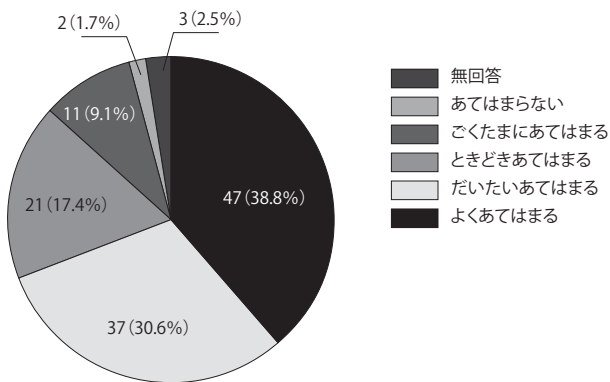


図3-46. 夫(妻)は私の仕事や家事、育児を認め励ましてくれる (N=121)

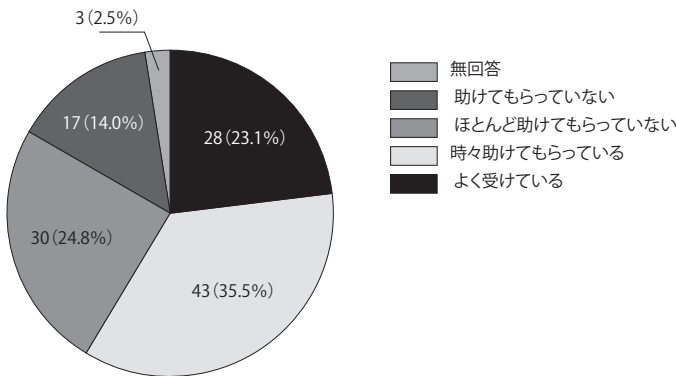


図3-47. 子育てにおいて親・兄弟等親戚の手助け (N=121)

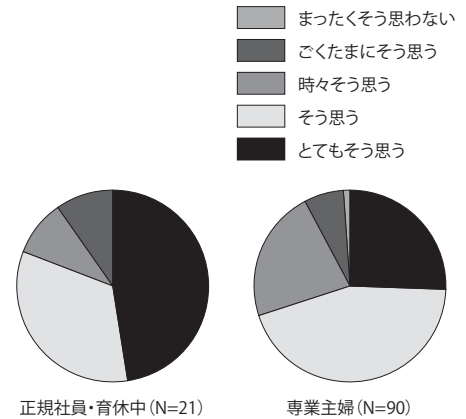


図3-48. 子育てを楽しむ? 就業形態別比較 (N=111)

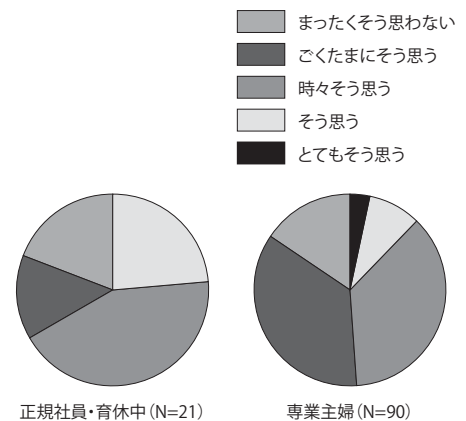


図3-49. 子育てが辛い? 就業形態別比較 (N=111)

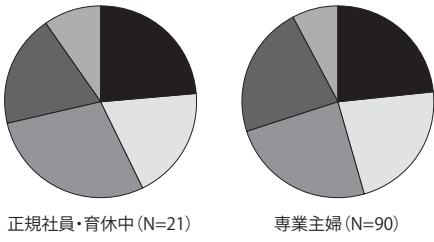
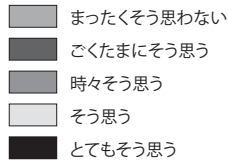


図3-50. 子育てに追われて時間が足りない?
就業形態別比較 (N=111)

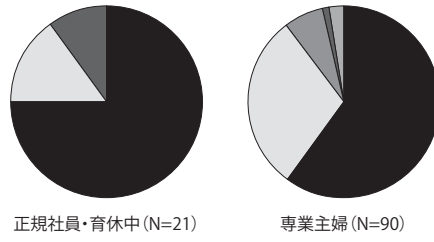
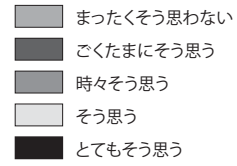


図3-53. 子育ては大切な仕事?
就業形態別比較 (N=111)

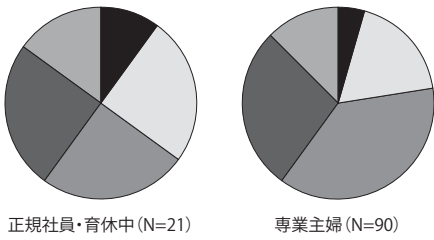
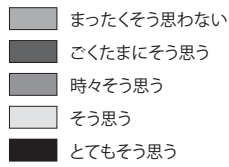


図3-51. 他人の子育てが気になる?
就業形態別比較 (N=111)

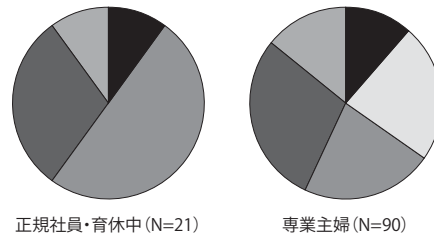
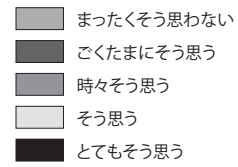


図3-54. 子育てが社会に認められている?
就業形態別比較 (N=111)

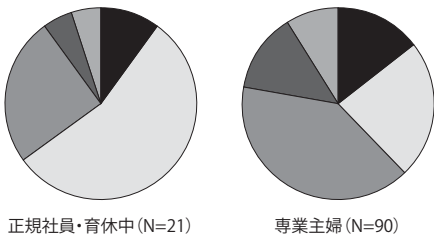
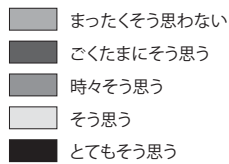


図3-52. 他の親たちの方が子育てが上手?
就業形態別比較 (N=111)

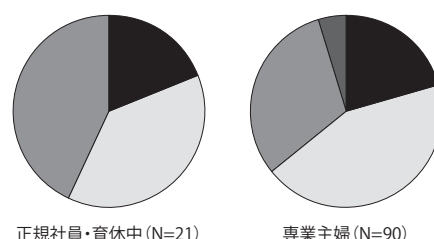
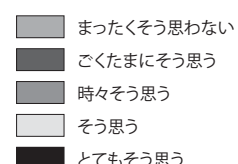


図3-55. 地域の活動は自分に関係している?
就業形態別比較 (N=111)

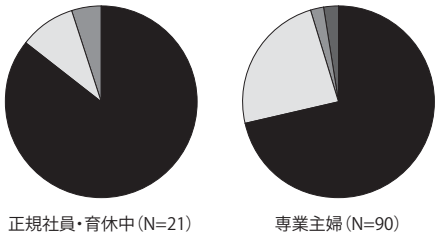
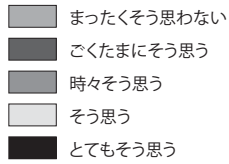


図3-56. 相談する人が地域にいたらよい?
就業形態別比較 (N=111)

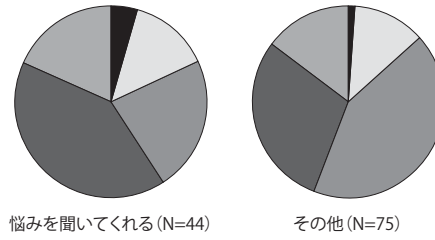
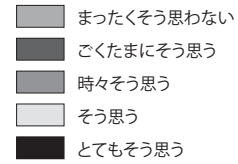


図3-59. 子育てがづらい
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

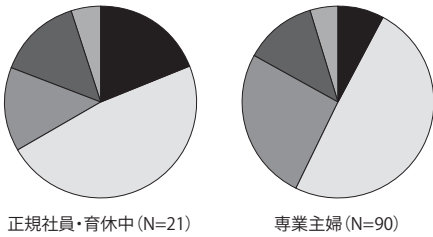
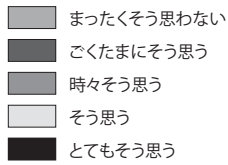


図3-57. 自分のことが好きだ
就業形態別比較 (N=111)

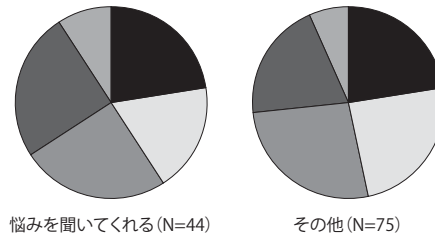
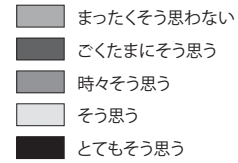


図3-60. 子育てに追われて時間がない
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

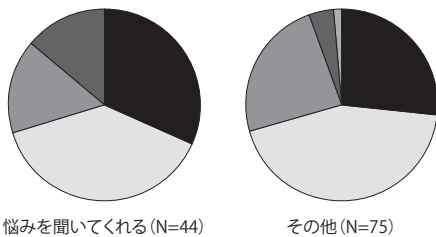
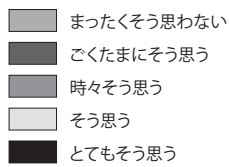


図3-58. 子育てが楽しい
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

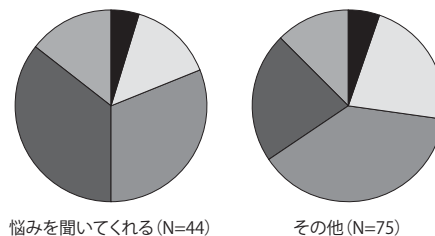
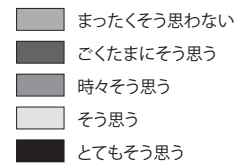


図3-61. 他人の子育てが気になる
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

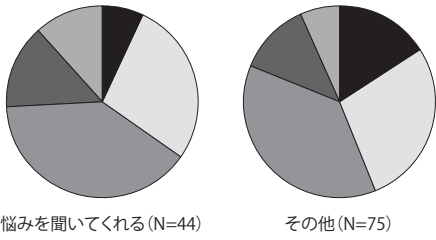
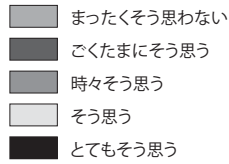


図3-62. 他の親の方が子育てが上手
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

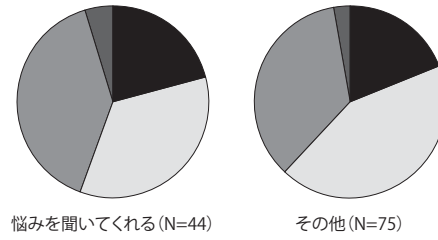
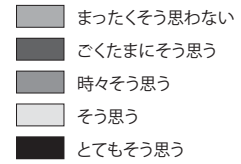


図3-65. 地域の活動は自分に関係している
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

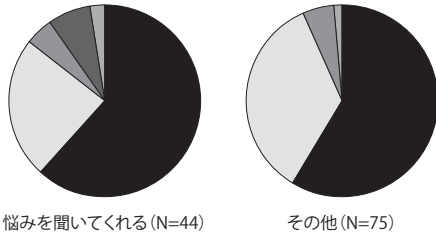
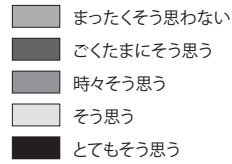


図3-63. 子育ては大切な仕事
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

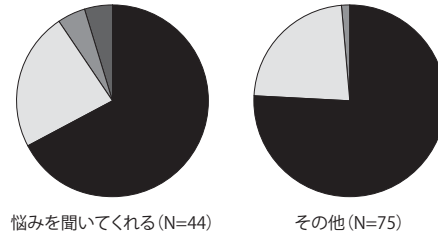
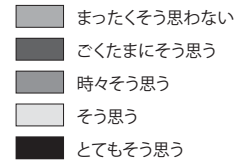


図3-66. 相談する人が地域にいるとよい
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

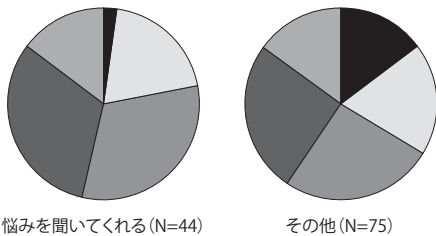
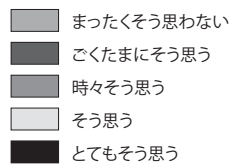


図3-64. 子育てが社会に認められている
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

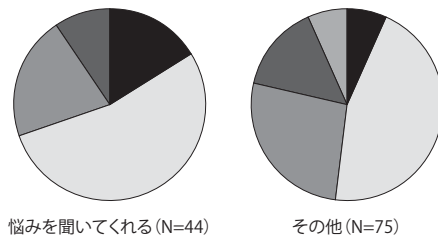
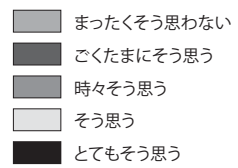


図3-67. 自分のことが好きだ
配偶者が悩みを聞いてくれる群と
その他の群との比較 (N=119)

3.5 乳幼児を持つ保護者へのヒアリングの考察

「今の子供の環境について」「10年後どうあってほしいか」

乳幼児期の保護者は、学童期の子供への関心が薄く、なかなかイメージができない。よって、この設問に答えることが難しいようだった。異年齢の子供との関わり、ちょっと先をいく子育ての先輩層との交流が生まれるしかけが必要なのではないか。

しかし、ここでは行政への要望やまちの外出環境、公園等の整備については積極的に多数意見が出た。普段意見を出す機会がないと感じていて、ここぞとばかり発言している姿もあった。町づくりへの住民の参画など「意見を聞く」という機会の創出は求められているといえる。

「一時預かりについて」

一時預かりは、利用してみたいと思っているが、説明会への参加や登録など、具体的に行動に移していない人が多い。料金が高い、予約が取れない、手続きが煩雑などハードルが高いとの意見がよく出た。また、制度やサービスの不備だけが理由ではなく、子供を預けること自体に、配偶者や祖父母からの反対など、さまざまなバイアスがかかっている様子も見えた。一方、利用経験がある保護者からは理由を問わない預かりの必要性が多くきかれ、リピート率も高い様子うかがえたため、第三者から利用をうながすことで、子育ての負担感の軽減につながることも考えられる。ニーズ調査では数字で浮かび上がらない潜在的なニーズがあるのではないか。

「子供家庭支援センターなどの施設の利用について」

子供家庭支援センター、子育てひろば、児童館など、地域によってサービスの提供方法の実情は違うが、共通していたのは、食事ができる、他の親も一緒になって子供を見守ってもらえる、ゆったりとした気持ちで過ごせる、といった感想であった。利用している場所が日常の延長上にある気軽に相談できる居場所となった場合は、子育ての負担感の軽減につながる発言が多かった。

一方、なじめない雰囲気やバリアがあって利用しにくい等の意見がでていた場所も同一地域の中にあり、自分に合う場を求めて複数利用しながら試している様子も見えてきた。

「産前産後に関して」「心の健康」「妊娠中の過ごし方」

妊娠中には、出産に関する情報は敏感で、積極的に情報を集めていたという発言が多かった。しかし、産後に

関してはイメージができないまま出産を迎えて、情報に対しての飢餓感がうかがえる。また、妊娠中に実際に子育てしている人の話をきいたり、赤ちゃんを抱っこしたりといった経験の必要性について発言が出た。産後、産んでみてわかったこととしてあげられており、妊娠中にそれに気づいて積極的に参加したり自らコミュニケーションしていくことは難しかったとのことから、これもまた、妊婦からのニーズとしては得にくい「隠れたニーズ」であり、このギャップを埋めていくための方策が必要と考える。

一方、現在の子育てについての情報に関しては、情報が得られないという反応は妊娠中の情報に比べて少なく、今回のヒアリング対象者（居場所とつながっている層）が、「ここにすれば何かがわかる」と感じていることがわかる。

母親学級については、産休に入るまで参加の機会がなく、休日の開催を望む声が多かった。

「子供の健康と発達」「相談する人は？」

小児医療体制についての不安は多く聞かれた。口コミ情報を求めているが、発達や医療について深刻な悩みは身内や電話相談に頼っている様子うかがえた。育児雑誌やインターネットなどで情報を集めるという声も聞かれたが、かえって不安が募ってしまうようだ。

パートナーシップ・ワークライフバランス

ワークライフバランスに関しては、あきらめ感がある。とくに「残業が多い」「休日出勤もある」など夫の働き方の現状について、社会的な課題ととらえて根本的に解決が必要だと日ごろから考えている人は少なく、肯定も否定もない。そのまま受け入れており、パートナーシップの問題ととらえて、忙しい中よくやってくれていると考えている人も多かった。個々の家庭の課題ではなく社会の課題であるととらえにくいのは、社会とのつながりが感じられていないともいえるのではないか。このことは、当事者から現状を訴えることの難しさであり、隠れたニーズだと考えられる。

「みんなで子育て、社会で子育て」という気運に対してどう思うか。実感しているか？

子育ては大事な仕事だと思っているが、社会からは出産・子育てという仕事がリスペクトされていないと感じている。下町、郊外のエリアでは、多世代からの関わりに支えられている実感についての意見が多数でて、昔ながらの見守りの子育て文化が残っていることがうかがえ

た。一方都心部では子育て層に対しての視線がつめたい、温かく見守ってもらえていない、という気持ちが強い。

自分にも何かできるのではないか？という点では、支援の循環に関わってみたい、地域につながりたいという気持ちを持つ人は多かった。ただ、具体的にどうしたらいいのかわからないという意見があり、支援の受け手として扱うだけでなく、お互いに助け合ったり、次の人たちにむけて手助けを促すことで、自分も誰かの役に立っているという有用感が得られたり、その役割を担っていくことで自己肯定感が高まっていくのではないかという期待が持てる。

乳幼児期のサービスと小学生期以降のサービスとの連動

今回、子育てひろば利用者へのヒアリング調査では、「10年後の子供の環境はどうなっていると思うか」を設問としてあげている。しかしながら、あまり想像がつかないという声も多く出された。また、「妊娠中から先輩ママからの話を聞けたらよかった」という声が聞かれたが、子どもの成長に合わせた「次のステージ（子育てひろば利用者にとっては子供が小学生になった時）」のサービスに関する情報が連動していれば、不安感を少なくした子育て環境につながるのではないだろうか。

第4章

4.1 総合考察

4.1.1 東京に対する子供と保護者の思い

子供たちは東京が「好き」「まあまあ好き」と回答した割合は、87.1%であり、保護者の94.2%とやや比較すると低い傾向にあった。この要因については、ヒアリングの結果にもあるように、マスメディアなどから得る漠然とした情報よりも、日頃からさまざまな場で出会っている大人が大きな影響を与えていると考えられる。大人のマイナス行動は、子供たちにはそれを止める術を持っていないために、余計にいやなものとして実感しているのだと考えられる。その結果として、都知事のように自分の考えた施策を実行できるとしたら何をしたいとかいという質問に対しては、大人のマナーや言動を改める提案もあげられていた。ただし、子供たちがあげた提案は、それだけのとどまらず世界平和から、ホームレス問題、身近な居場所や遊びの問題、コミュニティの問題など幅広く、そして、その根底には自分たちに関係あるような課題については、意見を述べたいという意識が強くあったように感じる。子供の声が社会に直接届くようなシステムができることが、東京が「好き」という子供を多くし、好きな理由に、嫌いな理由以上に具体的な身近な理由があがってくるようになるのではないだろうか。

一方、乳幼児の保護者にとって、生活圏がベビーカーを押していける範囲に限られてくる時期でもあり、「東京」というエリアイメージはつかみにくいようだ。東京が好きかという設問には「どちらかという好き」を含め94.2%が肯定的だが、別の設問では多数の保護者が子育ての営みが社会から認められていないように感じている。子供たちが育つ場としての地域イメージとして、「地域のお祭りや自治会に参加したいが入っていく方法が分からない」という意見がヒアリング各所でも出ていたことから、今、ここでの生活を肯定的にとらえ、地域につながりながら暮らすことが子供の豊かな育ちにつながるといふ確信を持っているが、実際にはどうきっかけをつかんだらいいかわからず、子育てに対して、社会（東京という地域）が認めてくれないように感じていることがうかがえる。

4.1.2 居場所の有用性

今回は、子育てひろばを利用する保護者や、様々な施設や活動を利用する子供へのヒアリング調査であったため、それぞれに家庭や学校以外に自分なりの居場所を持っている対象者が多かった。このことは、「自分のことが好きか」などの自己肯定感が高い値を示したことで深い関係があると考えられる。居場所があることで、何か前向きな行動をとることにつながり、そこでの成功体験が生まれるからこそ、「自分の発言が社会を変えようか」などの質問にも肯定的に答える子供が多かったのだと考えられる。

ただし、自己肯定感の設問を見てみても、「とても…」という回答よりも、「まあまあ…」という回答が多く、ヒアリングでも「何か発言しても社会はなかなか変わらない」というようなあきらめ感をうかがわず発言もあった。この点については、子育てひろば利用の保護者についても同様であった。パートナーシップの項目では、やはり子供と似たようなあきらめ感があつたように感じている。居場所があるということが、自己肯定感などでプラスに働くことは事実だと考えられるが、一方でまだまだ改善の余地があるとも考えられる。

また、一般の子育て調査などでは「必要な情報を得ることが意外と難しい」という声が多く聞かれる中で、子育てひろばなどの日常的な利用者からは、同様の声はあまり聞かれなかった。居場所があるが、いざとなれば必要な情報を得られると安心感を持っていることが考えられる。居場所がある面においてセーフティネット的な役割を果たしているとも考えられる。

4.1.3 話を傾聴することの有用性

今回のヒアリングを通じて、子供たちは「すっきりした」「楽しかった」「またやりたい」、乳幼児の親についても「こうした機会がまた欲しいし、自分たちでもやってみたい」と感想を述べている。このことは、対象者が自分の考えを素直に話し、それをファシリテーターに真摯に受け止めてもらったという実感を持つことで、また前向きに生活をしていこうとエンパワメントにつながった結果だと考えられる。

また、乳幼児の親に対する質問紙調査でも、配偶者が悩みを聞いてくれる群は、「自分が好き」と自己肯定感が高い傾向にあり、このことは身近にさまざまなことについて相談でき、それを聞いてもらえる存在がいることで、エンパワメントされ、子育て、自分自身の生活など

について前向きに取り組むことができるのではないかと。就業形態が正社員・育休中の群が自己肯定感が高かったのは、配偶者や地域のコミュニティとは別のコミュニティを持っていることで、身近な相談ができる環境にあるためではないだろうか。

こうしたことから、自分の考えを他人に傾聴してもらえるヒアリングは、エンパワメントにつながっており、こうした機会が広がることは、子供の生育環境にとって重要な要素だと考えられる。

4.2 東京都が取り組むべき課題

4.2.1 調査の継続

今回の調査では、子供たちや乳幼児の親から今後の子育て・子育ての施策に参考になる多くの示唆を得ることができたと考えられる。こうした生の声を施策にいかすことはニーズにあった施策を可能とする。しかし、こうした声は、環境の変化などに伴い変化するものであるため、継続的な調査の実施が求められる。

子供のヒアリングでは、東京に対する意識や理想の大人像などについても、否定的な要因では非常に具体的な体験を通じて子供たちが感じている要因が多くあがっていた。一方、肯定的な要因は、マスメディアを通じて構築されるような漠然としたものが多かった。子供や子育てに優しい東京が少しずつでも実現していった時に、これがどのように変化していくのか継続的な調査をすることで見守っていく必要があると感じている。

また、今回のヒアリング調査の対象年齢は、小学4年生～高校3年生年齢相当であった。しかしながら、この分野での専門性を持つ検討委員からは、より年齢の低い子どもからでも十分にヒアリングは可能であるという意見も出されていた。また、今回のヒアリング調査では、障がいを持つ子供や、日常的な居場所を持ち合わせていない子供などの声を多くひろいあげることができなかったが、今後の調査では考慮される必要があると思われる。

4.2.2 日常的に当事者の声を聴く機会を

今回、子供を対象にしたヒアリング調査では、ヒアリング後に感想シートを書いてもらっている。そこでは、「楽しかった」「すっきりした」「自分の意見を言えてよかった」「他の人の考え方を色々聴くことができよかった」など、子供からは肯定的な感想が多く出されていた。これは、子供たちに初めて会うファシリテーター

側からすれば、驚く結果だったとも言える。つまり、普段から身近な大人に話を聞いてもらうことができれば、このような感想はさほど出なかったのではないかとと思われるからである。ある子供からは、「こうしたことをあまり聞かれないので、今日はあまり答えることができなかったが、普段から聞かれていればもっと答えられたと思う」という感想もあり、日常的に子供から意見を聞くことの重要性がうかがえた。

また、子育てひろばのヒアリングにおいても、「自分たちでもこうしたヒアリングをやってみたい」「またやりたい」と、同様の声があがっていた。

こうしたヒアリング、つまり利用者の声を真摯に受け止める機会は、日常的にあることが望ましいと考えられるが、そのためにはそうした団体・施設のスタッフが積極的に取り組むような環境を醸造していくことが必要である。そのためには、スタッフに対する研修などが必要になってくると考えられる。

4.2.3 定期的にヒアリングの機会を

そのためのファシリテーターの育成を

日常にかかわるスタッフが子供の声を聴くことはとても大切なことだが、今回のヒアリングのように、第三者的な外部スタッフによるヒアリングを年に一度でも定期的に実施することが望ましいと考えられる。日常のスタッフと子供のかかわりに対するふりかえりを客観的に行うことができ、子供の声を社会に届けることにもつながる。そのためには、専門的なヒアリングのファシリテーターが必要になってくることが考えられる。今回のヒアリング調査を実施したファシリテーターは、子供の居場所などでの経験を持ち、子供の声に耳を傾け共感できる素養を持っていた上に、事前に専門家の研修を受けることができたため、効果的にヒアリングができたと考えられる。また、ヒアリング後の振り返りを丁寧にする中で、ヒアリング調査を実施する際に技能を向上させる機会を持つことができた。今後、より効果的にヒアリングを実施していく場合、こうした専門的なファシリテーターの技術向上は最重要項目であり、そのための研修の確立と、その機会が広く作られていくことも必要だと思われる。

4.2.4 子供の声を聞き、それを反映する社会へ

今回、子供からはさまざまな貴重な意見が出ていた。○○上水の問題でも、子供たちは単に大人が実施した施

策を批判するだけでなく、「遊び場として利用することで、大人のマナーの向上にもつながり、清潔で暮らしやすい環境をつくれるのではないか」との提案もあった。

子供の声を聴くことはとても大切なことだが、一步進めて、この声を社会に反映していくことが重要であり、更に子供たちが直接的に社会に対して声をあげられる機会を保障していくことが必要である。子供の時期から、社会にニーズを伝え、それが反映される社会は、子供たちが主体として住民自治の成功体験を実感することになり、このことは、今回非常に難しい思われた「みんなで子育て」という社会づくりにもつながると考えられる。

4.2.5 子供の育ちを継続的に見るために

乳幼児の保護者に対するヒアリングで、子供を取り巻く環境などが10年後にどうあって欲しいかという質問に対しては、イメージをすることが難しいのか、発言が少なかった。こうした先を見通すということが困難な状況は「小1プロブレム」などの課題にもつながっていると考えられる。現在の子育て支援制度では、比較的年齢に特化することで、そのニーズに適した支援を行っていることが多いが、同時に、子供が乳幼児期の頃から、保護者が学童や中高生の姿を見る機会がなくなり、先を見通して子育てを考えてもらうことが大切である。

4.2.6 本調査の活用を

本調査では、貴重な子供たちの声が多く集まっていることと同時に、こうしたヒアリングが対象者のエンパワメントにつながっていることが明らかになった。こうした成果を広く周知していくことは、子供の声を大切にできる社会づくりに非常に有効であり、本調査の成果を活用した報告会、フォーラムなどを開催することが重要である。東京都として実施することで、都内の区市町村に対してもこうした活動が広がることを期待できる。

4.2.7 区市町村の調査の活用を

子供の生の声を聞くことに特化した調査研究については、立川市や西東京市など継続的に行っている区市町村もある。東京都としては、こうした調査の情報を収集し、東京都が実施する調査と比較・分析するとともに、こうした結果を広く都民に閲覧してもらえることができるように、さまざまな形での情報発信をしていただきたい。

(参考文献)

1. 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査 報告書
(2007年8月発行) 立川市子ども家庭部子育て推進課
2. 第2回子ども生活実態基本調査報告書(2009年)
Benesse 教育研究開発センター
3. 中学生・高校生の生活と意識調査報告書(2009年2月)
財団法人日本青少年研究所
4. 平成17～18年度研究報告書「今、思春期の子供たちはどのように生きているのかー意識調査からとらえた実態ー」(2007年) 東京都教育相談センター
5. 「自己肯定感アンケート」報告書(2010年7月) 子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会/自己肯定アンケート編集委員会
6. 川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査報告書(2008年10月発行) 川崎市/川崎市子どもの権利委員会
7. 西東京市子どもの権利に関する意識アンケート調査報告書(平成20年10月) 西東京市子育て支援部子育て支援課
8. 子どもの権利に関するアンケート調査(平成20年2月) 新潟市
9. 児童生徒の食生活等実態調査報告書(平成17年) 独立行政法人日本スポーツ振興センター
10. 平成19年度 全国学力・学習状況調査 報告書(平成20年1月) 文部科学省・国立教育政策研究所

資料1 子ども用アンケート用紙

東京都次世代育成支援行動計画のための子どもの生活や意識に関する調査

このアンケートは、平成22年度に東京都が定めた次世代育成支援後期行動計画について、子どもの視点から評価をするために実施するものです。みなさんの率直な声を聞かせていただくことで、その声を東京都の施策に反映し、みなさんにとってより快適な環境づくり、まちづくりに生かしていくためのものです。

次世代育成支援後期行動計画は、子どもと家庭の健やかな暮らしのためにさまざまな施策を展開するための計画で、平成22年度から26年度までを対象期間としています。子どもとは0歳から17歳までをさし、東京都だけでなくすべての自治体が、それぞれ策定しています。

◆調査対象

この調査は、東京都内で生活している小学校4年生から18歳までを対象としています。

◆ご回答いただいた内容は他の人には分かりません

この調査は無記名式で行い、回答はすべて集計して処理しますので、個人が特定されることはありません。調査結果からご回答いただいた人に迷惑がかかることや悪用されることはありません。

◆答えられる範囲で構いません

アンケート、ヒアリングともに、思ったこと、感じたことを気軽に教えてください。答えたくないと思った質問に対しては回答しなくても構いません。

◆この調査の実施者

この調査は、東京都からの委託を受け、TOKYO PLAYが実施しています。TOKYO PLAYは、「すべての子どもが豊かに遊べる東京」を実現するために、遊びに関わる実践者・研究者・市民などが集まり、遊びのためのキャンペーンや調査研究などの活動を行っています。

あてはまる番号に○をつけてください。答えたくない質問には答えなくても大丈夫です。

◎あなたの年齢をおしえてください。(アンケートに答えた日の年齢)

- ① 9歳 ② 10歳 ③ 11歳 ④ 12歳 ⑤ 13歳 ⑥ 14歳 ⑦ 15歳 ⑧ 16歳 ⑨ 17歳 ⑩ 18歳

◎あなたの性別をおしえてください。

- ① 男 ② 女

◎東京都は好きですか。

- ①好き ②まあ好き ③あまり好きでない ④好きではない

◎おとなになっても東京都でくらしたいですか。

- ①ずっとくらしたい ②別の場所ですらしてから東京都に戻ってきたい ③別の場所ですらしたい

◎あなたのおうちのことについておききします。

	番号に○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ			
	毎日	よく	ときどき	まったく
あなたは朝食を食べますか？	1	2	3	4
夕食をおうちの人と食べることはありますか？	1	2	3	4
食事のときにおうちの人と話をすることがありますか？	1	2	3	4
	とても	まあまあ	あまり	まったく
おうちの人(ひと)はあなたのことを大切に思ってくれていると感じていますか？	1	2	3	4
おうちの人(ひと)はあなたの意思を大切にしてくれていると思いますか？	1	2	3	4
おうちの人(ひと)は、あなたが困ったときに相談にのってくれますか？	1	2	3	4

◎あなた自身(じしん)のことについておききします。

	番号に○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ			
	とても	まあまあ	あまり	まったく
自分のことが好きですか？	1	2	3	4
自分のことを好きだと思っている友だちがいると思いますか？	1	2	3	4
自分にはよいところがあると思いますか？	1	2	3	4
疲れて何もしたくないと思うことがありますか？	1	2	3	4
自分のことをだれも分かってくれないと思うことがありますか？	1	2	3	4
自分があまり目立たないようにしたいと思っていますか？	1	2	3	4
夢中になっていることがありますか？	1	2	3	4
大人になったら、やってみたいことはありますか？	1	2	3	4
自分の意見が、今の社会を良くするために役立つと思いますか？	1	2	3	4

◎あなたの生活についておききます。

	ばんごう 番号に○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ			
	がっこう 学校に行っ ている	がっこういがい 学校以外の ところで過 ごしている	はたら 働いている	いえ 家にいる
あなたは平日(月曜日から金曜日まで)おもに何をしていますか。	1	2	3	4
	とても	まあまあ	あまり	まったく
そこで友だちと会うことを楽しみにしていますか?	1	2	3	4
そこでなにかを学ぶことを楽しみにしていますか?	1	2	3	4
そこで大人に会うことを楽しみにしていますか?	1	2	3	4
そこには、ホッとできる場所がありますか?	1	2	3	4

	ばんごう 番号に○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ										
	1 自分の家	2 友だちの家	3 学校	4 児童館などの公共施設	5 公園	6 空き地	7 自然の場所	8 習い事・塾	9 ゲームセンター・ファミレスなどの商業施設	10 プレーパーク	11 その他
平日の夕方、どこで過ごしていることが一番多いですか? 1つだけ選んでください。											
土曜日や日曜日は、どこで過ごしていることが一番多いですか? 1つだけ選んでください。											
一番行くことが多いふだんの遊び場はどこですか? 1つだけ選んでください。											
あなたが一番ホッとできる居場所はどこですか? 1つだけ選んでください。											
一番いっしょに多いことが多いふだんの遊び相手はだれですか? 1つだけ選んでください。	1 同級生	2 年上の友だち	3 年下の友だち	4 兄弟姉妹	5 家族の大人	6 家族以外の大人	6 いない	7 その他			
あなたは一日でどれくらいインターネットを使っていますか?	1 まったくしない	2 0～30分	3 30～60分	4 1～3時間	5 3時間以上						
あなたは一日でどれくらい携帯メールを使っていますか?	1 まったくしない	2 0～30分	3 30～60分	4 1～3時間	5 3時間以上						

ご協力ありがとうございました。

[月 日 場所: - No.]

資料2 子育てひろば用アンケート用紙

アンケート調査票

問1 ご自身の性別をお答えください。

1. 女性	2. 男性
-------	-------

問2 ご自身の年齢をお答えください。

1. 20歳～24歳	2. 25歳～29歳	3. 30歳～34歳	4. 35歳～39歳	5. 40歳～44歳	6. 45歳～49歳
------------	------------	------------	------------	------------	------------

問3 現在一緒に住んでいる方全員を下記から選んでください。(複数回答可)

1. 子ども	2. 配偶者	3. あなたの親	4. 配偶者の親	5. その他
--------	--------	----------	----------	--------

問4 現在おさんは何人いらっしゃいますか。

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上
-------	-------	-------	---------

問5 おさんの年齢をお答えください。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。(複数回答可)

1. 0～5か月
2. 6か月～1歳
3. 1歳～2歳
4. 3歳～未就学児
5. 小学生
6. 中学生以上

問6 あなたの配偶者の年齢をお答えください。

1. 24歳以下	2. 25歳～29歳	3. 30歳～34歳	4. 35歳～39歳	5. 40歳～44歳	6. 45歳以上
----------	------------	------------	------------	------------	----------

問7 あなたの配偶者の就業状況をお答えください。

1. 正社員(フルタイム)	2. パートタイム	3. 契約・派遣	4. 自営業・フリー	5. 産休・育休、 休職中	6. 働いていない (専業主婦・主夫)	7. その他
---------------	-----------	----------	------------	------------------	------------------------	--------

問8 問7で、3.5以外に答えた方のみ、あなたの配偶者の働き方についてお答えください

1. 定時に帰れる	2. 残業が多い	3. 短時間勤務	4. 休日出勤がある
-----------	----------	----------	------------

問9 あなたの就業状況をお答えください。

1. 正社員(フルタイム)	2. パートタイム	3. 契約・派遣	4. 自営業・フリー	5. 産休・育休、 休職中	6. 働いていない (専業主婦・主夫)	7. その他
---------------	-----------	----------	------------	------------------	------------------------	--------

問10 あなたの働き方についてお答えください。

1. 定時に帰れる	2. 残業が多い	3. 短時間勤務	4. 休日出勤がある
-----------	----------	----------	------------

問11 あなたのご家庭の年間世帯収入(税込)をお答えください。

1. 200万円未満	2. 200万円～400万円	3. 400万円～600万円	4. 600万円～800万円	5. 800万円以上
------------	----------------	----------------	----------------	------------

問12 あなたが現在住んでいる東京は好きですか？

1. 好き	2. どちらかという好き	3. あまり好きでない	4. 好きではない
-------	--------------	-------------	-----------

問 13 あなたが 1 日の中で自分のためだけに使える時間は平均してどのくらいありますか？

1. 30 分以下	2. 30 分～1 時間	3. 1 時間～3 時間	4. 3 時間以上
-----------	--------------	--------------	-----------

その時間は、どのように過ごしていますか？（具体的にどこで、どのように）

--

問 14 あなたが日中「ほっ」とできる場所がありますか？

1. ある 2. ない

それはどこですか？

1. 家
2. その他（具体的に）

問 15 あなたの健康状態についてお答えください。

1. 健康だと思う	2. あまり健康だと思わない	3. 健康ではない
-----------	----------------	-----------

問 16 自分自身について思うことについてお答えください。

	とても 思う	そう 思う	時々 そう 思う	ごく たま に そう 思 う	ま っ た く そ う 思 わ な い
(a) 私は自分のことが好きだ	1	2	3	4	5
(b) 私は自分にいいところがあると思う	1	2	3	4	5
(c) 私のことを大好きだと思っている人がいる	1	2	3	4	5
(d) 私はいろんな能力や可能性を持っていると思う	1	2	3	4	5
(e) 他の親たちの方が、私よりも上手に子育てをしていると思う	1	2	3	4	5
(f) 同世代の他の同性（回答者が女性であれば女性、男性であれば男性）の方が、私よりも生き生きと生活していると思う	1	2	3	4	5

問 17 子育てをされていて感じることに、あてはまるところに○をしてください。

	とても 思う	そう 思う	時々 そう 思う	ごく たま に そう 思 う	ま っ た く そ う 思 わ な い
(a) 子どもを育てることに、生きがいと充実間を感じる	1	2	3	4	5
(b) 子育てが心から楽しい	1	2	3	4	5
(c) 子育てが辛い / 子育てを負担に感じる	1	2	3	4	5
(d) 人の子育てが気になる	1	2	3	4	5
(e) 子育てに追われて、いつも時間がない	1	2	3	4	5
(f) 子どもの泣き声や騒音で、近所の人にどのように思われるか不安になる	1	2	3	4	5
(g) 子育てをされていて、家族以外の人とのつき合いが煩わしいと思う	1	2	3	4	5
(h) 子育ては、大切な仕事であると思う	1	2	3	4	5
(i) 子育ては大切な仕事であると、社会から評価され認められていると思う	1	2	3	4	5

問 18 地域についてあてはまるところに○をしてください。

	とてもそ う思う	そう思う	時々そう 思う	ごくたま にそう思 う	まったく そう思わ ない
(a) 地域の活動は自分に関係あると思う	1	2	3	4	5
(b) 近所の人と挨拶することは必要だと思う	1	2	3	4	5
(c) 困った時に相談する人が地域にいると良いと思う	1	2	3	4	5

問 19 現在、配偶者がいる方にお尋ねします。

(a) ～ (g) のそれぞれについて一つずつ選んでください。

	よくあて はまる	だいたい あてはま る	ときどき あてはま る	ごくたま にあては まる	あてはま らない
(a) 夫（妻）といるときが一番くつろげる	1	2	3	4	5
(b) 夫（妻）は、悩みや不満をよく聴いてくれる	1	2	3	4	5
(c) 夫（妻）と私は、家事・育児を助け合っている	1	2	3	4	5
(d) 夫（妻）と、仕事や趣味など、子育て以外のことをよく話している	1	2	3	4	5
(e) 夫（妻）とは喧嘩をすることもあるが、互いに許し合うことができる。	1	2	3	4	5
(f) 夫（妻）は、私の仕事や家事・育児を認めて、励ましてくれる	1	2	3	4	5

問 20 子育てにおいて、親・兄弟など親族の手助けは受けていますか

1. よく受けている
2. 時々助けてもらっている
3. ほとんど助けてもらっていない

問 17 その他、子育て支援に対する希望・要望・意見など自由に記入してください

以上

【アンケート記入に際しての注意事項】

1. アンケートのすべての項目に記入していただきますが、問 11 に関しては答えたくない方は答えなくて結構です。
2. ヒアリング場所の関係者にはアンケートの内容は開示いたしません。

資料3 ヒアリング記録シート（サンプル）

ヒアリング記録シート（こども用）

実施先 (市区)	スポーツ・文化関連団体（市部）			実施日	2011年2月26日（土）	
ファシリテーター	TOKYO PLAY スタッフ	記録	TOKYO PLAY スタッフ	会場の様子（配置図を記入）		座・イス
施設側同席者	2名			◎ファシリテーター、●記録、○同席者、△カメラ、 参加者は○内にアルファベットを記入		
所用時間	スタート・終了時間とヒアリングの実施時間を記入					
16:48 ヒアリングスタート						
17:58 ヒアリング終了						
参加人数	8名					
内 訳	男子1名、女子7名					
■好き度集計 40 = 2 50 = 2 60 = 1 70 = 1 85 = 1、100 = 1						
■子どもたちのヒアリング時の様子 当初は、人数が9名の予定であり、高校生が1人、男子が1人ということで、この2人に対する配慮が必要であることと、9人という人数の多さを心配していた。実際には、欠席をした子どもが1名いたこと、また、このグループはヒアリングの直前まで、子ども劇場のプログラムで、演劇ワークショップに長期間取り組んでおり、相互のコミュニケーションが図れていたことで、当初の心配は杞憂に終わった。 オリエンテーションで、このアンケートの目的などを説明した後、子どもたちの自己紹介とアイスブレイクを行ったが、今回は、名前を果物や野菜の名前にし、それをきっかけに少しコミュニケーションを図った。ファシリテーターの名前については、子どもたちから『じゃがいも』がいいとの意見があり、『じゃがいも』となった。子どもたちが名付けてくれたことで、子どもたちとの距離も縮まり、最後まで楽しくヒアリングすることができた。唯一の男の子については、発言自体は少なかったが、公園についての意見では、自らふせんを書いて貼っていた。						
■目立った、または注視すべき発言 ○最初の『東京が好き』という質問については、1人が100点をつけていたが、残りの子どもたちは50点をの前後という感じだった。そこで、東京の好きなところ、嫌いなところについての話を始めた。真っ先に好きの理由として貼られたふせんの中に、有名芸能人の故郷と、生活している町に対する愛着を示すものがあり、印象的だった。 ○付箋に書くことが一段落したところで、少しずつ付箋の内容についてヒアリングしていった。その中で、公園に対する意見はいろいろと意見が出て、最も盛り上がっていた。「公園とかでも、ボール禁止が多い」「今の公園ワンパターン、滑り台に砂場」。そこから図書館や街灯の話になり、これについてもいろいろな意見が出ていた。						
■3つの質問に対する付箋の中から、注視したもの						
質問	書かれていた内容		注視した理由			
東京・おとな・何する	公園のブランコが低い		自分たちも遊びたいという意味と工夫を求めている			
東京・おとな・何する						
東京・おとな・何する						
東京・おとな・何する						
東京・おとな・何する						
■ファシリテーター所見 ホームレスについての意見がでていて、少し驚いたが、後で聞いたことだが、青少年がホームレスを襲撃する事件があったことが少なからずして影響しているのではないかとのことだった。 最も盛り上がっていた内容は、公園のことで、子どもたちの意見を聞くべき、幅広い年齢で楽しめるような工夫などさまざまな意見が出ていたのが印象的だった。 また、女の子たちは、友だち関係に、とても気を使っているように思えた。						

資料4 ヒアリング当日メモ（サンプル）

2011年2月26日（土）

スポーツ・文化関連団体（市部）

ファシリテーター：TOKYO PLAY スタッフ

記録：TOKYO PLAY スタッフ

人数：8人

16：26 スタッフ自己紹介 主旨説明

16：37 アンケート記入

16：48 アンケート終了

16：51 東京都好き 好きメーター 好き嫌いの説明

Faci：どんどん貼っていこう

Faci：すべてにおいてふつう？

A：なんか、こちらへんに住んでいるからそう思う

H：方言がないよね

G：東京ワンで東京？

B：ボランティア活動が以外と多い。ごみ拾いと地域清掃

G：眠たくなる

D：すっきりする

A：ごみ拾い競争とか

G：みんながやさしい

G：なんかおばあさんがニコって笑う。近所で、生活している。顔は知っているけれど

Faci：どのくらいいるの？

B：マンションで会ったら

H：学校の校門に立っているときは

E：知っている人だけ

H：怖い顔の人は

Faci：お隣の人は知ってる？

不明：一軒家

H：顔は知っているけれど、表札読めなくて

C：両隣りは知ってる。学校同級生、おばあちゃんの友達ならわかる

D：隣はおばあちゃんちと駐車場。おばあちゃんちの隣はまたいない。おばあちゃんちの隣ない。あいさつもない

E：公園とかでも、ボール禁止が多い。テニスの練習とかしたくても駄目。

D：今の公園ワンパターン、滑り台に砂場。ひねりがほしい。思い切ってロッククライミングみたいのとかやブランコみたいなターザンロープ

A：イスの位置が低い

F：子どもっぽいのが多い

H：思いっきり中高生が遊べない

D：低い高い普通みたいなもの

H：大阪ビックバンみたいなのが欲しい

H：図書館

C：欲しい！

D：大きくても市の真ん中にあるから、真ん中だけでなくて東西南北に作って欲しい

C：中央なんて行かないよ

D：3分くらいのところ

H：休みは困る。月曜休みは駄目。

B：マンガ置いて欲しい

D：新しい本をすぐに貸し出しにしてほしい。人気のある本は

Faci：公園、図書館以外は？

B：街灯が明るすぎて

E：塾の帰りこわいよね

H：街灯がちかちかしていることがある

C：渋谷とか明るすぎて。変え方知ってる

F：知らな～い

E：このへんは自然が多いと思う

A：こうもり飛んでた

H：たぬきいるんだけど

H：夏休みの長さが学校によって違うのはおかしい

C：ゆとり教育世代だよ、うち

D：去年の1年生ではやっていなかったことが今年はある

F：ゆとり教育とかって 変える

17：23 こんな大人になれたらいいな

E：キモい人にはなりたくない

E：のびたみたいになりたくない

G：のびたは大人じゃない

Faci：なりたくないが多い。なりたいは？

付箋「結果がすべて」

D：おーお前はできるやつだな、で

E：人によって態度を変える人

B：努力する過程を見ていないで結果だけで見るとか。ここまでやってきた過程は大事だと思う。（先生）まあ

H：弟は先生にいじめられて

E：みんなに助けられて。自分もできて人も助ける

付箋「お金持ち」

G：いいけど

D：お金持ちはいいけど、他人のために使える人

G：お金持ちになって。タイガーマスク
付箋「夢をずっと持っている人」
C：就職したら終わり。次講師隊、もういいやでなくて
向上心を持っている人。おれここまでできるんだぜ
Faci：夢は？
B：シェフとか料理研究家
C：福祉系の仕事。今興味を持っているのは障害児、擁
護施設とか相談所。
D：いつもは働いているけれど、危険物取扱の資格を取っ
て、手伝いたい。資格をとるのは多分大変
H：養護教員
付箋「保健室」
H：生徒になめられる
C：あたしだったらなめる
B：家で料理作っていたりして、本格的に。家族に言っ
ている。チャーハン シンプル
C：家族の影響。弟が障がい児、母がヘルパー、祖父母
と住んでいて自然に
付箋「夢ない人」
G：いっぱいやりたいことがある
A：夢は具体的には持っていないです。

E：あー、あれがいいな、これもいいなって感じ
B：まあまあ。家で料理したり
C：高校が福祉系の学校
Faci：5年後の自分は
C：なんとなく
D：受験、合格していたら。不合格になったら
G：想像したことない
D：このまま顔変わってなかったらどうしよう
付箋「学校」
G：楽しいけど勉強が疲れる
C：勉強の方がいい。人間関係が友だちと一緒にとか、グルー
プとか
C：一人がいいんだよって
B：別に
C：楽しい時もあるけど、面倒くさい時もある
B：あの人からみづらい人とかいる。話が合わない人。
偏差値の話しか。アニメ・ジャニーズ
E：テスト前はテスト。普段は恋愛とか
A：あいさつは。それなりに楽しく

17：44

Faci：偉い人だったら？

F：都知事になったら国外に逃走する

H：日曜日ってお出かけする日

B：で、その願望を

付箋「空気をきれいにしたい」

F：車を減らす

G：みんなが平等にお金が回ってくるような

C：政治家あいつらお金もらいすぎじゃない？

G：みんなが安全 交通事故とか 危険なことをしない

Faci：ホームレス多いと思う？

F：わからない ホームレスの人は

H：うちの学校のそばに変な人がいる。下ネタ言ったり、
赤い血の雨とか言う。インドネシアっていう。自分で名
乗った

E：テストができれば。上位5人くらい

A：期限付きで家を貸し出したら。さっきホームレスの
人がという話が出たから

付箋「消費税をなくしてほしい」

H：消費税も役に立っているんじゃないの

16：30 チャイムのチャイムの時間

D：はやい

G：暗くなるから危ない

F：帰らない 気にしてない

D：なんか伝えたいことがある

17:58 終了

平成23年1月17日

保護者 各位

次世代育成支援東京都行動計画（後期）の評価調査への協力をお願い

拝啓 厳冬の候、皆様におかれましては益々ご健勝こととお慶び申し上げます。

このたび、当団体「TOKYO PLAY」では、東京都福祉保健局少子社会対策部計画課の依頼を受け、表記調査を実施することになりました。

この調査では、「次世代育成支援東京都行動計画（後期）の評価」に子どもの視点を活かすため、小学4年生から高校生年齢を対象に、東京都に暮らす子どもたちの意識調査を行います。そのために、都内各地の施設や活動先に来園・来所するお子様にグループヒアリングとアンケート記入の実施をお願いしております。そこで、（協力施設名）のご協力を得て、調査を実施することになりました。

つきましては、この事業にご理解をいただき、お子様の参加にご了解を頂きますようお願い申し上げます。また、グループヒアリングおよびアンケート記入は無記名ですので、結果について、お子様およびご家族様にご迷惑がかかることはありません。

調査結果につきましては、東京都から公開され、今後の施策に活用される予定です。個別での調査結果の送付などできませんので、ご了解・ご協力をお願いいたします。

以上、趣旨・内容につきましてご賛同の上、ご協力をお願いいたします。

何かご不明な点がありましたら、「TOKYO PLAY」事務局までご連絡ください。また、当団体につきましては、添付の資料をご覧ください。

TOKYO PLAY 事務局

〒156-0051

東京都世田谷区宮坂 2-21-1-1 F

NPO 法人せたがや子育てネット内

TEL & FAX : 03-6796-3920

（月～金 10:00～17:00）

(別紙) グループヒアリングとアンケートの概要

<グループヒアリングとアンケートの目的>

次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成される社会を目指して、「次世代育成支援東京都行動計画（後期）」（5カ年計画）が今年度から施行されています。この行動計画がより良いものとなるよう、その評価に子供の視点を活かそうということになりました。

この計画は、東京都の施策への評価という形ではなく、東京都に暮らす子供たちの意識調査という形を取ることで、

- ①今の子供たちの現状を反映しているものになるかどうか
- ②今後修正する部分があるかどうか

について、計画の修正に反映していくものとなります。

<グループヒアリングとアンケートの内容>

- ①「次世代育成支援東京都行動計画（後期）」が目標として掲げております「地域の居場所」「家庭や日常での生活環境」「自己肯定感」などについて質問をしたいと考えております。
- ②グループヒアリング（60分）およびアンケート（15分）、予備（15分）を合わせて、1時間30分を考えております。
- ③ヒアリングは、シールや付箋などを使い、ワークショップ形式で実施します。
- ④アンケートは、A4用紙1枚両面で、15分くらいで記入できるものを予定しています。
- ⑤当団体から調査員2名を派遣して、ヒアリングおよびアンケートを行います。
- ⑥お子様が安心した環境でヒアリングを受けられるよう、普段から慣れ親しんでいる施設職員の付き添いの元を実施いたします。

以上